金澤文庫本群書治要訓点用語集稿（一）

李　玉婷　王　徳俊

凡例

一、本用例集は、金澤文庫本『群書治要』を底本として、その加点箇所の本文及び検索用語を出現順に列挙したものである。

一、用例の掲出においては、仮名加点の存する箇所を中心に、一文単位で掲げることを基本とする。但し、二文で一セットの反復表現等、纏めて掲げた方が理解し易いと判断された場合には、一文に拘らず掲出する。

一、金澤文庫本群書治要に加点された訓点に従って、訓読文を作成する。加点の片仮名は片仮名で、ヲコト点は平仮名で表示する。私に補読したものは、（　）に包んで平仮名で表示する。

訓読文作成時において、不読を表示する場合は、

◎［於］　［也］　など

また、再読の二度目の読みについても、以下のように表示する。

◎「當に…［當］（再讀）し」

一、訓読文の入力にあたって、本文の漢字は、JIS第四水準までに含まれる漢字の内、旧活字体にあたるもので翻字する事を原則とするが、JIS第四水準までに該当の字体が存在しない場合、すなわち、外字に相当する場合は以下のように処理・入力しておくものとする。

◎＝｛口＋縛｝　＝｛水＋齋｝　など

また、踊り字で訓読に際して、踊り字の後に元の字を（　）に包んで表示する。仮名の踊り字は、一字を「〻」、二字以上を「〳〵」で示す。平仮名の一字の踊り字を「ゝ」、漢字の踊り字を「々」で示す。

また、所謂、誤字・宛字については、底本のままに翻字し、正しいと考えられる字体を注記することはしない。

一、底本の符号に関しては、合符は訓読文に生かして示す。その他、音読符・訓読符についてはそれぞれ（音）（訓）の文字を、声点については（平）（平輕）（上）（去）（入輕）（入）などの文字を当該漢字の右下に注記する。

また、返点は、（返）（一）（二）（三）（上）（中）（下）といった注記により同じく当該漢字の右下に示す。雁点・返点を兼ねた「て」のヲコト点ともに（返）で表示する。

また、振り仮名に声点が付く場合も、（平）（平輕）（上）（去）（入輕）（入）などの文字を当該仮名の右下に注記する。

また、人名符も（人名）のように、文字を当該仮名の右下に注記する。

また、一漢字に複数の符号が重なる場合は、

「音読符・訓読符」「声点」「一二点」「返点」「片仮名点」「ヲコト点」の順に表示する。

また、異読のある箇所は、［イ、　］と注記した括弧に包んで表

示する。

一、句読点は、底本に従って、右下「・」を句点「。」で表し、中下「・」を読点を「、」で表す。句読点を付すべき所に句読点のない箇所は空白として示す。

一、各文頭字に○を付し、用例の所在、検索用語等の情報は、用例毎に文末に頁数、行数を示す。

◎（群書治要巻三〔毛詩〕‐4）（・カンショ・なり・）

また、原則として、注記のポイントを落とすとするが、注を付ける場合、検索用語の後に、（ ）の中に示す。

一、片仮名の事態は現行の字体に改めた。

また、本文のルビは、以下のように表示する。活用語は、語幹を漢字の右に送って、活用語尾を本行に送る。副詞・接続詞は、最終音節を本行に送ることを原則とする。

◎來(キタ)ル　來(き)タ　ル　迎(カ)ム　ヘテ　など

副詞・接続詞などの二字仮名の踊り字が、最終音節に当たる場合の表示は、以下による。

◎　屢(シハ〳〵)

また、左傍訓の表示は、以下による。

◎呼(ヨハ)ヒ　稱(と)ナ　ヘテ　など

また、熟字訓の表示は、以下による。

◎以(コノカタ)―來　然(しか)―而(レト)モ　など

一、補読箇所の表記について

補読した語句の表記は、左の各項に従った。

（1）仮名遣は、原則として、歴史的仮名遣による。

（2）活用語尾の補読は、原則として、音便化していない元の活用形によった。

（3）補読には濁点は一切加えない。

一、検索用語について

各用例の検索用語を決定する作業においては、左の各項に従った。

（1）検索用語は、電子テキストとしての検索の便を考えて、和語は平仮名で、字音語または字音語に準ずるものは片仮名で語形を掲げた。

（2）語の掲出は単語を基本単位とする。

（3）当該語句（用語及び助動詞）が訓読文中に活用語として現れる場合、終止形での掲出を基本とした。

（4）当該語句が訓読文中に音便形で現れる場合、原則として、もとの語形を掲げた。

【付記】本用語集は、平成二十六年度科学研究費補助金基盤研究（C）「訓点語彙の意味論的研究―文脈付き訓点語彙コーパスの作成―」（課題番号26370539・代表者松本光隆）による研究成果の一部である。

金澤文庫本『群書治要』序と巻第一周易

李　玉婷

群書治要序

○秘書監鉅鹿男臣魏徵等勅を奉ル撰（群書治要序-1）（・うけたまはる・）

○窃に惟ヒミレは載（去）―籍（入）ノ［之］興リ・其ノ來レルこと・尚シ［矣］。（群書治要序-2）（・ひそかなり・おもふ・みる・の・おこり・の・きたる・り・ひさし・）

○左―史・右―史・事（返）を記シ・言（返）を記す。（群書治要序-2）（・しるす・）

○德（返）を昭シ・違（返）ヘルを塞キ・善（音）（返）を勸メ・悪（音）を懲（二）ス所（二）―以ナリ。（群書治要序-3）（・あきらかにす・たがふ・ふさぐ・すすむ・こらす・なり・）

○故に作（音）シ而紀リ（返）と可キ・薫（平）―風・［乎］百代（二）に揚ク。（群書治要序-4）（・す・のる・べし・あぐ・）

○動イ而法ラ（返）不ル・炯（上）―戒（去）・［乎］千―祀（上）（二）垂（二）ル。（群書治要序-4）（・うごく・のとる・ず・ケイカイ・たる・）

○是ヲ以て歴ク・前―聖の運（返）に撫リ・期（音）（返）に膺（二）ルを觀（二）ルに・懍（上）―乎トシて朽（返）チタルを御（二）スルカコトクニセ不（二）（返）トイフこと莫シ。（群書治要序-5）（・を・もて・あまねく・よし・あたる・みる・リンコとす・くつ・たり・す・か・ごとくにす・ず・と・いふ・なし・）

○自（ら）・強メて息（返）マ不・朝（平）―乾とシて夕マテに惕ルヽを・義・茲（返）に在（る）乎。（群書治要序-6）（・つとむ・やむ・す・ゆうべ・まで・をそる・ここ・）

○近―古の皇―王・時〳〵・撰―述（二）有（二）（り）。（群書治要序-7）（・ときどき・）

○並に皆・天―地（二）を包（平）（二）―括（入）シ・群―有（二）を牢（平）（二）―籠（平）スレトモ・［イ、牢籠す。］競（ひ）て・浮（平）―艶（去）（の）［之］詞（二）を採（二）リ・爭（ひ）て迂（平）―誕（去）（の）［之］説（二）を馳（二）す。（群書治要序-8）（・す・ラウラウ・す・ども・きそふ・フウエン・とる・あらそふ・ウタン・）

○末（去濁）―學（の）［之］博―聞（二）（返）を騁（二）セて彫（平）―虫（の）［之］小―伎（上）（二）を飾（二）ル。（群書治要序-9）（・はす・セウキ・かざる・）

○流―宕（去）シて反（返）ラムことを忘レ・途（返）（返）殊にシて致（返）を同す。（群書治要序-10）（・ルウタウ・す・かへる・む・わする・みち・す・むね・）

○辯（音）・萬―物（二）に周シ・雖（三）（も）・愈〳〵・司―契（去）（の）［之］源（二）失（二）フ。（群書治要序-10）（・あまねし・いよいよ・シケイ・うしなふ・）

○術・百―端（二）（返）を總へて彌（よ）・得―一（の）［之］旨（二）に乖（二）ク。（群書治要序-11）（・すぶ・むね・そむく・）

○皇―上・天縦セル［之］多―才（二）（返）を以（二）て生マレナカラニシて知ル［之］叡―思（二）を運（二）ス。（群書治要序-12）（・ゆるす・むまれながら・に・す・しる・めぐらす・）

○性・道（返）與合フて動スレは神（返）を幾シ妙（音）す。（群書治要序-13）（・かなふ・ややもす・ちかし・）

○玄―德・潛に通（音）シて前―王の［之］化（返）セ未（返）所（二）を化（二）す。（群書治要序-13）（・ひそかなり・す・す・）

○己（返）を損シ・物（返）を利シて列―聖の［之］行（返）フこと能（返）（は）

不（返）（る）所（二）を行（二）フ。（群書治要序-14）（・す・す・おこなふ・おこなふ・）

○翰—海・龍—庭（の）[之]野（音）・竝に郡—國（二）と爲リ・扶—桑・若—木（の）[之]域（入）・咸（コトゴク）に纓（平）—冕（上）（一）を襲（キ）（二）ル。（群書治要序-15）（・なる・ことごとくに・きる・）

○天—地・成ナリ—平（タヒラ）キ・外—内・褆（ヨロコ）ヒ—福（サイハ）フ。（群書治要序-16）（・なり・たひらぐ・よろこぶ・さいはふ・）

○猶（ほ）・且（マ）タ・爲（ナ）シ而恃（タノ）（返）マ不・休（ヤス）（返）シと雖（も）・休（ヤス）（返）イこと勿シ。（群書治要序-17）（・また・なす・たのむ・やすし・やすし・なし・）

○俯（フ）シて堯—舜（一）に協（カナ）（二）ヒ・式（モ）て古（一）に遵（シタカ）ヒ—稽（カンカ）フ。（群書治要序-17）（・フ・す・かなふ・もて・したがふ・かんがふ・）

○貌を[乎]止—水（一）の察（音）（二）セ不・將に鑑（カヽミ）を[乎]哲（入）—人（一）に取（二）（返）ラムと[將（す）]（再讀）。（群書治要序-17）（・す・かがみ・とる・む・）

○以—爲ヘラク六—籍・紛（平）—綸（平）（し）て百—家・踳（シユン）（上）—駁（ハク）（入輕）タリ・理（返）を窮メ・性（返）を盡スに・則（ち）・勞（去）（音）シ而功（て）（返）少ク・周（アマネ）ク覽（ミ）・泛（ヒロ）ク觀ルに・則（ち）博（ヒロウ）シ而要（て）（平）（返）寡（スクナ）シと（上）[以爲]（下）ヘリ。（群書治要序-19）（・をもへらく・シユンハク・たり・きはむ・つくす・す・すくなし・あまねし・みる・ひろし・みる・ひろくす・すくなし・をもふ・り・）

○故に爰に・臣—等（一）（返）に命（二）シて羣—書（一）（返）を採（二）—摭（ヒロ）（ひ）て淫—放（一）を翦（キ）（二）リ—截リ・訓—典（一）を光（二）—照す。（群書治要序-21）（・す・ひろふ・きる・きる・）

○聖（去）—思の存（返）セル所・[乎]政—術（一）を務（ツト）（二）ム。（群書治要序-22）（・す・り・つとむ・）

○大—略（一）（返）を綴（去）（二）—叙（上）シて咸（コトゴク）に神—衷（チウ）（平）（一）を發（音）（二）す。（群書治要序-23）（・す・ことごとくに・シンチウ・）

○雅—致・深（ふか）（返）（キ）を鈎リ・規（平）—摹（ホ）（平濁）・宏（去）—遠ナリ。（群書治要序-24）（・ふかし・つる・キボ・なり・）

○治—體（一）を網（ハウ）（上濁）（二）—羅スルに・事（訓）・一—目（一）に非（二）す。（群書治要序-24）（・バウラ・す・）

○若（モ）シ—乃（ス（なは））（ち）・欽—明ノ[之]后（キミ）は己（おのレ）（返）を屈（音）シ以て時（返）を救ヒ・無—道（の）[之]君は・身（返）を樂（タノ）シクシメ以て國（返）を亡（ホ）ス。（群書治要序-25）（・もし・すなはち・の・きみ・おのれ・す・すくふ・たのし・しむ・ボ・す・）

○或は難（去）（返）に臨（ノゾ）み而懼（てヲソレ）（返）を知（シ）リ・危（一）に在（二）（り）而安（て）（返）（する）ことを獲（ウ）。（群書治要序-26）（・のぞむ・をそれ・しる・う・）

○或は志（返）を得而驕（ヲコ）リ—居業成（キナ）（り）以て敗（返）レを致す者（もの）・其ノ得—失（一）（返）を備（ツフサに）（二）シて以て君（返）爲ルコトノ[之]難（カタ）（上）イことを著（アラハ）（中）サ不（ス）（下）（返）トイフこと莫シ。（群書治要序-27）（・をごる・ゐる・なる・やぶる・の・つぶさにす・たり・こと・の・かたし・あらはす・ず・と・いふ・なし・）

○質（入）（音）（返）を委（キ）シ・名（返）を策（サク）シ・功（返）を立（ち）・惠（返）を樹（タ）チ・心（返）を貞（音）ニシ・道（訓）（返）を直（ナホウ）シ・軀（ミ）（返）を忘レ・國（返）（返）殉（イトナ）ムて身・百—年ノ[之]中（ウ（ち））（一）に殞（ヲ）（二）チ・聲（ナ）・千—載ノ[之]外（一）に馳（二）セ・或は大—奸（平）・臣—猾（入）・日（返）を轉（メクラ）シ・天（返）を迴（メクラ）シ・社の鼠・城の狐（クツネ）・白（返）を反（上）シ・黒（返）を仰（アフ）ク。（群書治要序-28）（・ヰ・す・

サク・す・たつ・なり・す・なほくす・み・わする・いとなむ・の・うち・をつ・な・の・はす・めぐらす・めぐらす・くつね・かへす・あふぐ・）

○忠—良・其（返）（返）に由（り）て放—逐（入）セラレ・邦—國・因（り）て以て危—亡セル者（上）（返）を具（下）シて咸（ク）に亦（た）・其ノ終—始（一）（返）を述（二）フて以て臣（返）爲ルこと易（返）カラ不（一）ルことを顯（二）す。（群書治要序—31）（・す・らる・す・り・つぶさにす・ことごとくに・の・のぶ・たり・やすし・ず・あらはす・）

○其ノ德（返）を立（ち）・言（返）（返）を立（ち）て訓（音）（返）を作シ・範（返）を垂ル。（群書治要序—33）（・の・こと・なす・のり・たる・）

○網（平）（返）と爲・紀（返）と爲て天（返）に經・地（返）に緯タリ。（群書治要序—34）（・カウ・す・す・たて・ぬき・たり・）

○金ノコトクに聲シ・玉（の）コトクに振ルて實（返）を騰ケ・英（平）（返）を飛す。（群書治要序—34）（・の・ごとし・こゑ・す・ごとし・ふる・あぐ・とばす・）

○雅—論・徽（平）—猷（平）・嘉—言・美—事ノ・以て名—教（一）を弘（二）メ—奬ケ・太—平（の）[之]基（上）を崇（中）シツ可（下）キ者・固に亦（た）・片—善ヲモ・遺（返）サ不・奬に以て丕に皇—極（一）を顯（二）セムと奬（三）。（群書治要序—35）（・の・ひろむ・たすく・たかうす・つ・べし・まことに・を・も・のこす・おほきなり・あきらかにす・む・）（平—挿入符号あり）

○[於]母—儀・嬪（平）—則・懿—后・良—妃・徽（平）—猷[於]十—亂（一）に參（二）へ・深—誡を[於]辞—輦（一）に著（二）ス・或は傾—城の哲（入）—婦・亡—國ノ艶—妻・晨—鷄（一）を候（二）（ひ）以て先ツ・鳴キ・舉—烽（平）（一）を待（二）（ち）而後に笑フ者（上）に至（下）（り）ては・時・存（返）スル所（返）有リ・以て勸—戒（一）に備（二）フ。（群書治要序—37）（・イコウ・クキイウ・まじふ・あらはす・テツフ・の・うかがふ・まづ・なく・キヨホウ・まつ・わらふ・もの・いたる・ときどき・す・あり・そなふ・）（猷—原本には「音」であり）

○爰に・六經（一）自（二）（り）・[乎]諸—子（一）に訖（二）フ。（群書治要序—41）（・をよぶ・）

○上・五帝（一）に始（二）メ・下・晉—年（一）に盡（二）スマテ・凡て五—帙（入）（一）と爲（二）。（群書治要序—41）（・かみ・はじむ・しも・つくす・まで・ゴチツ・）

○本治—要（一）を求（二）ム・故に・治—要（一）（返）を以（二）て名（返）と爲。（群書治要序—42）（・もと・もとむ・）

○但（し）・皇—覽・遍—略シて方（音）（一）（返）に隨（二）（ひ）て類—聚す。（群書治要序—43）（・す・）

○名—目・互に顯シて首—尾・淆（平）—亂す。（群書治要序—44）（・あらはす・カウラン・）

○文—義・斷エ—絶エて尋（ね）—究ムルに難（訓）（返）と爲。（群書治要序—44）（・たゆ・たゆ・きはむ・）

○今（の）[之]撰（返）フ所・[乎]先ツ・作（一）に畢（二）フ。（群書治要序—14）（・えらぶ・まづ・ねす・をふ・）

○本（返）を見・末（返）（返）を知（り）て始（返）を原ネ終（返）を要（平）（一）セ令（二）（返）メンことを欲す。（群書治要序—46）（・たづぬ・す・しむ・む・）

○竝（ならヒ）に彼（の）春—華（一）（返）を棄（二）テて茲（の）秋—實（一）を採（二）ル。（群書治要序—46）（・ならびに・すつ・とる・）

○一—書ノ[之]内・牙（平濁）—角（入）遺（返）スこと无シ。（群書治要序—47）（・の・のこす・なし・）

○一―事ノ[之]中・羽―毛 咸(コトゴク)に盡(ツク)す。(群書治要序-48)(・の・ことごとくに・つくす・)
○之を當―今(一)に・用(二)ヰテは以て前―古(一)を鑒(カ)(二)ミ―覧(ミ)ルに足(タ)(三)レリ。(群書治要序-48)(・もちゐる・て・かがむ・みる・に・たる・り・)
○之を來―葉(一)傳(二)ヘテは・以て厥ノ孫―謀(平濁)(一)を貽(ノコ)(二)す。(群書治要序-49)(・つたふ・て・その・のこす・)
○引イ而之(返)を申(ノ)へ・類(音)(返)に觸(フ)レ而長(テマ)セ。(群書治要序-49)(・ひく・のぶ・ふる・ます・)
○蓋(し)・亦(た)・言(イ)フ[之]者(モノ)は罪(返)無ク・聞(キ)ク[之]者(モノ)は以て自(ミ)(つか)(ら)戒(イマシ)(一)ムルか足(タ)(二)レリ。(群書治要序-50)(・いふ・もの・なし・きく・もの・みづから・いましむ・たる・り・)
○庶(コヒネカハク)は茲(の)九―德(一)(返)を弘(ヒロ)(二)メて簡(カン)ニシ而 從(て)(した)(返)ヒ易(ヤス)ク・彼ノ百―王(一)(返)を觀(ミ)(二)(り)て疾(ト)(返)クセ不(ス)シ而 速(てスミヤカ)ナラム。(群書治要序-51)(・こひねがはくは・ひろむ・カン・なり・す・したがふ・やすし・の・みる・とし・す・ず・す・すみやかなり・む・)
○巍―々(巍)(の)[之]盛―葉(一)を崇(タト)(二)ヒ蕩―々(蕩)(の)[之]王―道(一)を開(二)ク。(群書治要序-52)(・たとぶ・ひらく・)
○久(返)カル可ク・大(おほ)(キ)(返)ナル可キ[之]・功・天地(の)[之]貞(平)―觀(平)(一)に竝(ナラ)(二)ヒ・日(ヒ)に―用ヰ・日(ヒ)に―新(アラタ)ナル[之]德・金―鏡(一)と將(トモニ)(二)シ以て長ク―懸(く)ラム。(群書治要序-53)(・ひさし・べし・おほきなり・べし・ならぶ・ひび・もちゐる・ひび・あらたなり・ともにす・ながし・らむ・)
○其ノ目―録ノ次―第・之(返)を編(ア)ムこと・左(返)の如シ(群書治要序-54)(・の・の・あむ・ごとし・)

巻第一　周易

易經

○乾(平)は元(ハシ)ム 亨(トホ)ル 利(去)す 貞(平)す。(群書治要巻第一〔周易〕-114)(・はじむ・とほる・)(乾の左傍に「竭然反健也」あり)
○文―言に備(ツフサ)ナリ[也](群書治要巻第一〔周易〕-114・注)(・つぶさなり・)
○象に曰(く)・天ノ行(ユ)クこと・健(去)ナリ。(群書治要巻第一〔周易〕-114)(・の・ゆく・なり・)
○君―子・以(コレヲ)(も)て自(ミ)(つか)(ら)・強(ツト)メて息(ヤ)(返)マ不。(群書治要巻第一〔周易〕-114)(・これをもて・みづから・つとむ・やむ・)
○九―三は君子・終(ヒネモス)―日に乾―々(乾)ナリ[イ、乾々(乾)す]。(群書治要巻第一〔周易〕-115)(・ひねもす・なり・)
○タ(ユフヘ)マテに惕(オソ)ルヽこと・厲(アヤフ)(返)ムか如(コト)クシ・咎(返)无シ。(群書治要巻第一〔周易〕-115)(・ゆふべ・まで・おそる・あやぶむ・ごとし・す・なし・)
○下―體ノ[之]極(一)(返)に處(キ)(二)(り)て上―體ノ[之]下(シモ)(一)に居(ヲ)(二)り。(群書治要巻第一〔周易〕-116・注)(・の・ゐる・の・しも・をり・)
○純(モハ)ラ・下道(一)を修(ヲサ)(二)ムレは・則(ち)・上(返)に居(ヲ)ル[之]・德・癈(スタ)ル。(群書治要巻第一〔周易〕-116・注)(・もはら・をさむ・をり・すつ・)
○純(モハ)ラ・上―道(一)を修(ヲサ)(二)ムレは・則(ち)・下(返)に處(ヲ)ル[之]・禮・曠(ムナ)シ。(群書治要巻第一〔周易〕-116・注)(・もはら・をさむ・をり・むなし・)
○故に終(ヒネモス)―日に乾―々(乾)ナリ[イ、乾々(乾)シ]・[于](ゆふ)(へ)タ(一)に至(二)ルマテに惕(オソ)ルヽこと・猶(ほ)厲(アヤフ)(返)ムか若シ[之][也](群書治要巻第一〔周易〕-14)(・ひねもす・なり・す・ゆふべ・いたる・まで・をそる・あやぶむ・ごとし・)

○九―五は飛―龍・天（返）に在（り）・大―人（一）を見（二）（返）ルに利アリ。（群書治要巻第一〔周易〕-117）（・みる・あり・）
○行（返）カ不・躍（返）ラ不シ而［乎］天（一）に在（二）（る）。（群書治要巻第一〔周易〕-117・注）（・ゆく・ず・はしる・ず・す・）
○故に飛―龍（一）と曰（二）フ［也］。（群書治要巻第一〔周易〕-118・注）（・いふ・）
○龍ノ徳・天（返）に在（れ）は・則（ち）・大―人ノ［之］路・亨レルナリ［也］。（群書治要巻第一〔周易〕-118・注）（・の・の・とほる・り・なり・）
○夫レ・位は徳（返）（返）を以て興ル。（群書治要巻第一〔周易〕-118・注）（・それ・をこる・）
○徳は位（返）（返）を以て敍ツ。（群書治要巻第一〔周易〕-118・注）（・つくつ・）
○至―徳（一）を以（二）而盛―位（一）に處（二）リ。（群書治要巻第一〔周易〕-118）（・をり・）
○萬―物（の）［之］觀ルこと・亦（た）宜（一）ナラ不（二）乎（群書治要巻第一〔周易〕-118・注）（・みる・むべ・なり・ず・や・）
○上―九は亢（去）―龍・悔（返）有リ。（群書治要巻第一〔周易〕-119）（・カウリユウ・あり・）
○彖に曰（く）・大ナル哉・乾―元・萬―物・資リて始マル。（群書治要巻第一〔周易〕-119）（・おほきなり・や・とる・はじまる・）
○乃（ち）天（返）を統フ。（群書治要巻第一〔周易〕-120）（・すぶ・）
○雲―行キ・雨―施（し）て品―物・形（返）を流ク。（群書治要巻第一〔周易〕-120）（・ゆく・ほどこす・しく・）
○大に・終―始（一）（返）を明（二）シて六―位・時に成ル。（群書治要巻第一〔周易〕-120）（・おおきなり・あきらかにす・す・なる・）
○時に・六―龍（一）（返）に乘（り）て以て天（返）を御す。（群書治要巻第一〔周易〕-121）（・のる・）
○乾―道・變―化シて各（の）・性―命（一）を正ス。（群書治要巻第一〔周易〕-121）（・す・ただす・）
○大に［乎］終―始（の）［之］道（一）に明（二）ナリ。（群書治要巻第一〔周易〕-122・注）（・あきらかなり・）
○故に・六―位・其（の）時（一）を失（返）ハ不シ而成ル［也］（群書治要巻第一〔周易〕-122・注）（・うしなふ・ず・す・なる・）
○升―降・常（返）无シ。（群書治要巻第一〔周易〕-122・注）（・なし・）
○時に随（ひ）而用（ゐ）ル。（群書治要巻第一〔周易〕-122・注）（・もちゐる・）
○處ルトキンは則（ち）・潛―龍（一）に乘（二）ル・出ルトキンは則（ち）・飛―龍（一）に乘（二）ル。（群書治要巻第一〔周易〕-122・注）（・をり・ときんば・のる・いづ・ときんば・のる・）
○保―合シて大―和す。（群書治要巻第一〔周易〕-123）（・す・）
○乃（ち）・利―貞ナリ。（群書治要巻第一〔周易〕-123）（・なり・）
○不―和ニシ而剛―暴（去）ナリ［也］（群書治要巻第一〔周易〕-123・注）（・なり・す・コウボウ・なり・）
○首トシて庶―物（一）（返）を出（二）シて萬―國・咸（返）に寧シ。（群書治要巻第一〔周易〕-123）（・はじめ・と・す・いだす・ことごとくに・やすし・）
○萬國ノ寧（一）キ所（二）以は・各（の）・君（返）有（返）（る）を以テナリ［也］（群書治要巻第一〔周易〕-124・注）（・の・やすし・ゆへ・もて・なり・）
○文―言に曰（く）・元は［者］・善（音）ノ［之］長（上）ナリ［也］。（群書治要巻第一〔周易〕-124）（・の・なり・）

○亨（カウ）は［者］・嘉（音）（平濁）ノ［之］會ナリ［也］。（群書治要巻第一〔周易〕-124）（・カウ・の・なり・）
○利は［者］・義ノ［之］和ナリ［也］。（群書治要巻第一〔周易〕-125）（・の・なり・）
○貞は［者］・事ノ［之］幹（去）ナリ［也］。（群書治要巻第一〔周易〕-125）（・の・カン・なり・）
○君―子は仁（返）に體す・以て人（返）に長（上）（一）タルに足（タ）（二）レリ。（群書治要巻第一〔周易〕-126）（・たり・たる・り・）
○嘉―會以て禮（返）に合（カナ）（一）フに足（二）レリ。（群書治要巻第一〔周易〕-126）（・かなふ・たる・り・）
○以て義（返）を和（ヤハラ）（一）クルに足（二）レリ。（群書治要巻第一〔周易〕-127）（・やはらぐ・たる・り・）
○貞―固ナリ・以て事（返）に幹（カン）（一）タルに足（二）レリ。（群書治要巻第一〔周易〕-127）（・なり・カン・たり・たる・り・）
○君―子は・此ノ四―德（一）を行（ヲコナ）（二）フ［者］ナリ。（群書治要巻第一〔周易〕-127）（・この・をこなふ・なり・）
○元ム　亨（トホ）ル　利す　貞す。（群書治要巻第一〔周易〕-128）（・はしむ・とほる・）
○君子・終（ヒネモス）―日・乾―々（乾）ナリ・夕（ゆう）マテに惕（ヲソ）ルヽ・厲（アヤフ）（返）ムか若シ・咎（返）无（し）トイハ・何（ナン）と―謂（イ）フコトソ［也］。（群書治要巻第一〔周易〕-128）（・ひねもす・なり・ゆうべ・まで・をそる・あやふむ・ごとし・といは・なん・いふ・こと・ぞ・）

（以下、続く）

金澤文庫本『群書治要』巻第三

王　德俊

詩

周南

○關（平）―雎（ショ）（平）は后―妃（の）［之］德ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-4）（・カンショ・なり・）
○風（音）（平）（の）［之］始（はしメ）ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-4）（・はじめ・なり・）
○天下を風（音）シ而（て）夫―婦（一）を正（タヽ）（二）ス所（三）―以ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-4）（・す・ただす・なり・）
○故に・［之］鄉（キヤウ）人（一）［イ、鄉―人］に用（二）ヰ［焉］・［之］邦―國（一）に用（二）ウ［焉］。（群書治要巻三〔毛詩〕-5）（・キヤウジン・もちゐる・もちう・）
○風（平）シて以て動（ウコカ）す［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕-6）（・す・うごかす・）
○教（音）シて以て化す［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕-6）（・す・）
○詩は［者］・志（訓）（の）［之］之（ユ）（返）ク所ナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-6）（・ゆく・なり・）
○言（コト）（返）に發（アラハ）ルヽを詩（返）と爲（す）。（群書治要巻三〔毛詩〕-7）（・こと・あらはる・）
○情・［於］裏（ウチ）（一）に動（二）（き）而（て）［於］言（コト）（一）に形（アラハ）（二）ル。（群書治要巻三〔毛詩〕-7）（・うち・こと・あらはる・）
○言（イ）フに［之］・足（返）（ら）不。（群書治要巻三〔毛詩〕-8）（・いふ・）

○故に・嗟（平）―歎（去）す［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕－8）（・サタン・）
○嗟―歎スルに［之］・足（ら）（返）不。（群書治要巻三〔毛詩〕－8）（・す・）
○詠―歌スルに［之］・足（ら）（返）不レは・手（訓）の［之］舞［之］・足（訓）の［之］蹈（二）ムことを知（二）（返）（ら）不［之］［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－9）（・す・ず・まひ・ふむ・）
○情・［於］聲（二）（返）に發（二）レて々（聲）文（返）（と）成ス・之を音（音）（二）と謂（二）（ふ）（群書治要巻三〔毛詩〕－10）（・あらはる・なす・）
○發は猶（ほ）見（返）（る）か［猶］（再讀）〔左、シ〕［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－11・注）（・ごとし・）
○聲文（返）（と）成（す）とは［者］・宮商上リ―下（り）て相（ひ）―應（ふ）［イ、相應（去）スルソ］［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－11・注）（・のぼる・くだる・す・ぞ）
○治レル―世（の）［之］音は安シて以て樂ヘリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－11）（・なほる・り・やすんず・たのしぶ・り・）
○其（の）政・和ケレハナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－12）（・やわらぐ・り・ば・なり・）
○亂（れ）タル―世（の）［之］音は怨ミて以（て）怒レリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－12）（・たり・うらむ・いかる・り・）
○其（の）政乖ケレハナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－12）（・そむく・り・ば・なり・）
○亡ナントスル國の［之］音は哀（み）て以て思ヘリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－13）（・ほろぶ・ぬ・む・と・す・かなしむ・をもふ・り・）
○其（の）民困ヘレハナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－13）（・たしなぶ・り・ば・なり・）
○故に・得―失（二）を正（二）シ・天―地（二）を動（二）シ・鬼―神（二）を感（二）セシムルには・詩（返）於（返）リ近（返）キタルは莫（し）。（群書治要巻三〔毛詩〕－13）（・ウシ・ただす・うごかす・す・しむ・より・ちかずく・たり・）
○先王・是（返）（返）を以て夫―婦（二）を經（二）ニシ・孝―敬（二）を成（二）シ・人―倫（二）を厚（二）ウシ・教―化（二）を美（二）シウシ・風（返）を移シ・俗（二）を易（二）フ。（群書治要巻三〔毛詩〕－14）（・つねにす・なす・あつう・す・うるわし・す・うつす・かふ・）
○上は以て下（二）を風（二）―化シ・々（下）は以て上（二）を風（去）（二）―刺（去）シ［イ、風刺す］。（群書治要巻三〔毛詩〕－17）（・かみ・す・す・）
○言フ［之］者は罪（返）無（し）。（群書治要巻三〔毛詩〕－18）（・いふ・もの・）
○聞ク［之］者は以て自（ら）誡（二）ムルに足（二）レリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－18）（・きく・みづから・いましむ・たる・り・）
○一國（の）［之］事（二）（返）を以（二）て一人（の）［之］本（訓）（二）に繫（二）ケタル・之を風（平輕）（二）と謂（二）（ふ）。（群書治要巻三〔毛詩〕－18）（・かく・たり・）
○天下（の）［之］事（二）（返）を言（二）（ひ）て四方（の）［之］風（平輕）（二）を形（二）ス・之を雅（二）と謂（二）（ふ）。（群書治要巻三〔毛詩〕－19）（・いふ・あらはす・）
○言は王―政［之］由（り）て廢（去）―興（平輕）（二）スル所（二）ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－20）（・より・へイキヨウ・す・なり・）
○頌は［者］・盛（去）―德（の）［之］形―容（二）（返）を美（二）て其（の）成―功（二）（返）を以（二）て［於］神―明（二）に告（二）ス［者］ナリ［也］。（群

書治要巻三〔毛詩〕－21）（・ほめる・まうす・なり・）
○詩の［之］至レルナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－23）（・いたる・り・なり・）
○始（音）とは［者］・王―道の興―衰の［之］由（返）ル所ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－23・注）（・よる・なり・）
○［於］王道衰へて禮―義廢レ・政―教失（音）シて國（訓）・政（返）を異ニシ・家・俗（返）を殊（一）にスルニ至（二）り）て［而］・變―風（平輕）變―雅か作ル［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕－23）（・おとろふ・すたる・す・ことにす・す・に・をこる・）
○周―南邵―南は正―始（の）［之］道（訓）・王―化（の）［之］基（訓）ナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－25）（・もとゐ・なり・）
○是（を）以て關―雎は淑―女（返）を得て以て君子（一）に配（二）センことを樂（三）フ。（群書治要巻三〔毛詩〕－25）（・す・む・ねがふ・）
○憂・賢（返）を進ムルに在（り）て其（の）色（一）に婬（音）（二）（返）セ不。（群書治要巻三〔毛詩〕－26）（・うれへ・すすむ・す・）
○窈窕（一）を哀（二）ヒ（箋）［イ、哀ヒ（傳）］賢―才（一）を思（二）（ひ）而善（返）を傷ル［之］心（訓）（一）無（二）シ［焉］。（群書治要巻三〔毛詩〕－27）（・をもふ・かなしぶ・やぶる・なし・）
○是（れ）關―雎（の）［之］義ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－28）（・なり・）
○●關（平）々（關）タル雎（平）―鳩（平）・河（の）［之］洲（一）に在（二）（り）（群書治要巻三〔毛詩〕－29）（・たり・ス・）
○關々（關）は和ケル―聲［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－29・注）（・やわらぐ・）
○鳥（訓）の摯（り）而別（音）（返）有ルナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－29・注）（・いたる・あり・なり・）
○后―妃君子（の）［之］德（一）を悅（二）―樂スル・和―諧（一）セ不（二）（返）トイフこと無ケレは・又（た）其（の）色（一）に淫（音）（二）（返）セ不。（群書治要巻三〔毛詩〕－29・注）（・す・す・ず・と・いふ・なし・す・）
○雎―鳩（の）［之］別（返）有（一）（る）か若（二）シ［焉］。（群書治要巻三〔毛詩〕－30・注）（・ごとし・）
○然て後に・以て天下（返）を風―化シて夫―婦別（返）有（一）（る）可（二）（し）。（群書治要巻三〔毛詩〕－30・注）（・す・）
○父―子親（音）スルトキンハ・則（ち）君臣敬アリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－30・注）（・す・ときんば・あり・）
○君臣敬アルトキンハ・則（ち）朝―廷正シ。（群書治要巻三〔毛詩〕－31・注）（・あり・ときんば・ただし・）
○朝―廷正シキトキンハ・則（ち）王―化（と）成ル［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－31・注）（・ただし・ときんば・なる・）
○窈（上）―窕（上）タル淑（入）―女・君―子ノ好キ仇ナリ（傳）［イ、仇（箋）（を）好ス］（群書治要巻三〔毛詩〕－31）（・たり・クンシ・の・よし・たくひ・なり・たくひ・よみす・）
○后―妃・關―雎（の）［之］德（一）有（二）リ。（群書治要巻三〔毛詩〕－32・注）（・あり・）
○是（れ）・幽―閑ニシて貞―專（の）［之］善―女・宜（く）君子仇―逑（一）爲（二）（返）ル［宜］（再讀）（し）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－32・注）（・なり・す・たり・）
○參（平）―差（平）タル荇（去）―菜を・左右ニ［イ、左―右テ］流メン（傳）［之］

［流　（む）（箋）］（群書治要巻三［毛詩］－32）（・シンシ・たり・サイウ・に・たすく・て・もとむ・む・もとむ・）（「流」左傍、右傍「イ」の符号あり、左傍は「ケ」の誤記か）

○乃（し）能（く）荇―菜を供（平）（二）（返）シて・庶―物（一）（返）を備（二）（ひ）て以て宗―廟（一）に事（二）フ［也］（群書治要巻三［毛詩］－33・注）（・いまし・す・つかふ・）

○三夫人・九嬪・以―下・皆（な）后―妃（の）［之］事を樂フ［也］（群書治要巻三［毛詩］－34・注）（・たのしぶ・）

○窈―窕タル淑―女を・寤メテモ寐ネテモ求メン（傳）［イ、求ム（箋）］［之］。（群書治要巻三［毛詩］－34）（・たり・さむ・ても・いぬ・ても・もとむ・む・もとむ・）

○寤（去）は覺（去）［也］（群書治要巻三［毛詩］－35・注）（・カウ・）

○言は・后―妃覺（め）テモ寐（ね）テモ・則（ち）常に此の賢女（一）（返）を求（二）メて之（返）與・己か職（一）を共（二）ニセンことを欲（三）ス（群書治要巻三［毛詩］－35・注）（・ても・ても・もとむ・これ・ともにす・む・ほす・）

○求ムレトモ［之］・得（返）不。（群書治要巻三［毛詩］－36）（・もとむ・り・とも・）

○寤（め）テモ―寐（ね）テモ思テ服ケタリ（傳）［イ、服セン（箋）］（群書治要巻三［毛詩］－36）（・ても・ても・をもふ・て・つく・たり・ことす・む・）

○賢―女（一）を求（二）ムレトモ［而］・得（返）不。（群書治要巻三［毛詩］－36・注）（・もとむ・り・とも・）

○覺（め）テモ寐（ね）テモ・則（ち）己か職―事當に誰（返）與共（二）ニカス［當］キトイフコトヲ思（三）フ［之］［也］（群書治要巻三［毛詩］－37・注）（・ても・ても・ともに・か・す・べし・と・いふ・こと・を・をもふ・）

○悠―哉フ・々（悠）々（哉）フ。（群書治要巻三［毛詩］－37）（・をもふ・をもふ・）

○展―轉反―側（入）シツヽ（群書治要巻三［毛詩］－37）（・ハンソク・す・つつ・）

○言は己誠に思フ［之］［也］（群書治要巻三［毛詩］－38・注）（・をもふ・）

○臥シ而周（返）シカラ不（る）を・展（上）（返）と曰（ふ）［也］（群書治要巻三［毛詩］－38・注）（・ふす・ただし・）

○●卷―耳（上濁）は后―妃（の）［之］志（訓）ナリ［也］（群書治要巻三［毛詩］－39）（・なり・）

○又（た）當に君子（返）を輔ケ―佐ケて賢（返）を求メ・官（返）（返）を審ニシて臣―下（の）［之］勤―勞（二）を知（二）ル當（三）（し）。（群書治要巻三［毛詩］－39）（・たすく・たすく・もとむ・あきらかなり・す・しる・）

○賢（返）を進ムル［之］志（一）有（二）（り）而險（上）―詖（去）私―謁（の）［之］心（一）無（二）シ。（群書治要巻三［毛詩］－40）（・すすむ・ケンヒ・なし・）

○朝―夕に思ヒ―念（ひ）て［於］憂―勤（一）に至（二）ル。（群書治要巻三［毛詩］－41）（・をもふ・いたる・）

○卷―耳（一）を采（二）リ―采ル頃（平）―筐（平）に盈（二）（返）（た）不（群書治要巻三［毛詩］－42）（・とる・とる・ケイキヤウ・ず・）

○憂ル―者の［之］興（去）ナリ［也］（群書治要巻三［毛詩］－42・注）（・ふる・ひと・なり・）

○采リ々（采）ルトイハ采（返）（る）ことを事ヽスルソ［之］［也］（群書治要巻三［毛詩］－42・注）（・とる・とる・といは・こと・と・す・ぞ・）

○卷—耳は苓（平）耳［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－42・注）（・レイジ・）
○頃—筐は畚（上）の属［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－43・注）（・ホン・たくひ・）
○盈（返）（つ）易キ［之］器（訓）ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－43・注）（・やすし・なり・）
○器［之］盈（返）（つ）易（くし）而盈（返）（た）不ルことは［者］・志（訓）君子（二）（返）を輔（二）（返）ケ—佐（け）ルに在（り）て憂（へ）—思フこと深ケレハナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－43・注）（・ず・たすく・たすく・をもふ・ふかし・り・ば・なり・）
○嗟・我人（返）を懷フ。（群書治要巻三〔毛詩〕－43）（・あ・われ・をもふ・）
○彼周—行（平）（二）に寘（二）カヌカ（群書治要巻三〔毛詩〕－44）（・をく・ぬか・）
○寘は置［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－44・注）（・シ・チ・）
○君子賢—人（返）を官ニシて［之］周（の）［之］列—位（二）に置（二）（く）ことを思（三）フ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－44・注）（・なり・す・をもふ・）

邵南

○●甘（平）—棠（平）は邵（去）—伯（二）を美（二）メタリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－47）（・ほむ・たり・）
○邵—伯（の）［之］教（音）・［于］南國（二）に明（二）ナリ（群書治要巻三〔毛詩〕－47）（・あきらかなり・）
○邵—伯は姫—姓名は爽（入）。（群書治要巻三〔毛詩〕－47・注）（・セキ・）
○上—公（二）（返）と作（二）シて二—伯（二）爲（二）ル（群書治要巻三〔毛詩〕－48・注）（・なす・たり・）
○蔽（去）—芾（去）タル甘—棠。（群書治要巻三〔毛詩〕－48）（・ハイヒ・たり・）
○翦（返）ルこと勿レ［イ、勿キリソ］。（群書治要巻三〔毛詩〕－48）（・きる・なく・なく・り・ぞ・）
○伐（返）ツこと勿レ［イ、勿キリソ］。（群書治要巻三〔毛詩〕－48）（・うつ・なく・なく・り・ぞ・）
○邵—伯か茇（返）シ所ナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－48）（・やどす・なり・）
○蔽—芾は小キナル貌。（群書治要巻三〔毛詩〕－48・注）（・すこしきなり・）
○甘—棠は杜（去）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－49・注）（・ト・）
○茇（入）草—舍［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－49・注）（・ハツ・）
○邵—伯・男女（の）［之］訟（二）を聽（二）クに・百姓（二）（返）を煩（二）（返）—勞センことを重シ不［左、シ］て小—棠（の）［之］下（二）に止（二）—舍シ而聽斷す［焉］。（群書治要巻三〔毛詩〕－49・注）（・きく・す・む・をもんず・す・す・）
○國—人・其（の）德（二）を被（二）リ・其（の）化（二）（返）を悦（二）ンて其（の）樹（二）を敬（二）す［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－49・注）（・かうぶる・よろこぶ・）
○●何（平）—彼（上）—穠（平濁）—矣（上）は王—姫（二）を美（二）メタリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－51・注）（・ジョウ・ほむ・たり・）
○王—姫（二）と雖（二）（も）・亦（た）［於］諸—侯（二）に下（二）—嫁リ［イ、下嫁す］。（群書治要巻三〔毛詩〕－51・注）（・くだる・）（「則」字、見せ消ちあり、左傍「定本无」三字あり）
○車—服・其（の）夫（二）に繫（二）（返）ケ不。（群書治要巻三〔毛詩〕－52）

（・キヨ・ヲフト・かく・ず・）
○王―后（一）に下（二）ルこと一―等。（群書治要巻三〔毛詩〕－52）（・くだる・）（「王」字、補充符により補っており）
○猶（ほ）婦―道（一）（返）を執（二）（り）て以て肅（入）―雍（平）（の）［之］徳（一）を成（二）す。（群書治要巻三〔毛詩〕－52）（・とる・シユクキヨウ・）
○何ソ彼の穠タル［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕－53）（・なん・ぞ・かれ・ジョウ・たり・）
○唐（平）―棣（去）の［之］華（訓）ナリ（群書治要巻三〔毛詩〕－53）（・トウテイ・なり・）（「棣」字、左傍「徒帝反」三字あり）
○穠は猶（ほ）戎―々（戎）（一）（の）［猶］（再讀）（二）（し）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－54・注）（・シユシユ・）
○唐―棣は移（平）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－54・注）（・イ・）（「移」字、左傍「立移」二字あり）
○云（ふ）何ソ乎・彼の戎々（戎）タル者は乃（ち）移の［之］華（訓）ナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－54・注）（・なんぞ・や・たり・もの・イ・なり・）（「之」字、本行にある「也」見せ消ちか）
○興は［者］喩（ふ）・王―姫か顔―色（の）［之］美―盛ナルに［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－54・注）（・なり・）
○曷ソ・肅―雍（一）セ弗（二）ラン。（群書治要巻三〔毛詩〕－54）（・なん・ぞ・す・ず・む・）
○王―姫か車（返）に之クトキニ（群書治要巻三〔毛詩〕－55）（・ゆく・ときに・）
○何ソ・敬―和（一）セ不（二）ラン乎。（群書治要巻三〔毛詩〕－55・注）（・ぞ・す・ず・む・や・）
○王―姫か往（き）て車（返）に乗ルトキニ。（群書治要巻三〔毛詩〕－55・注）（・のる・ときに・）
○言は其レ嫁（音）スル時に・始（はじめ）て車（返）に乗（る）トキンハ・則（ち）已に敬―和す［矣］（群書治要巻三〔毛詩〕－55・注）（・それ・す・はじめて・ときんば・）

邶風

○●柏―舟仁ミ而遇（音）（去濁）（返）セラレ不（一）ルことを言（二）ヘリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－58）（・いつくしむ・す・らる・ず・いふ・り・）
○衛の頃―公か時に・仁人遇（音）（返）（返）セラレ不シて小人側（返）に在（り）（群書治要巻三〔毛詩〕－58）（・ケイコウ・す・らる・ず・す・かたはら・）
○汎（去）タル彼の柏（音）の舟アリ（群書治要巻三〔毛詩〕－59）（・ハン・たり・ふね・あり・）
○亦（た）汎トシ（て）其レ流ル（群書治要巻三〔毛詩〕－59）（・と・す・それ・ながる・）
○汎々（汎）は流ル、貌［也］。（群書治要巻三〔毛詩〕－59・注）（・ながる・）
○柏は木舟（返）に爲（返）ル宜（一）（き）所（二）―以ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－59・注）（・つくる・なり・）
○汎とシて其（れ）流ル（群書治要巻三〔毛詩〕－60・注）（・す・ながる・）
○以て濟―渡（一）セ不（二）ルソ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－60・注）（・す・ながる・す・ず・ぞ・）
○舟は物（一）を載（二）セ―渡（す）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－60・注）（・のす・）
○今用（ゐ）ラレ不シ而衆物（一）與（二）汎―々（汎）―然シて俱に水―中（一）に流（二）ル。（群書治要巻三〔毛詩〕－60・注）（・もちゐる・らる・ず・す・

す・ながる・）（「不用」二字補充符により補っており）
○興（タトヘタラク）は［者］諭フ・仁―人［之］用（返）（ゐ）ラレ不（ス）シて群―小―人（二）
與（と）（二）・並ヒ―列（ツラナ）レルこと亦（た）猶（ほ）是（カ）（返）ク［猶］（再讀）（コト）クに［也］
（群書治要巻三［毛詩］－60・注）（・たとへたらくは・たとふ・もちゐる・
らる・ず・す・ならぶ・つらなる・らる・かく・ごとし・）
○耿（カウ）（上）―々（耿）とシて寐（イ）（返）ネラ不。（群書治要巻三［毛詩］－61）（・
カウカウ・す・いぬ・）
○隱（イタ）ミ―憂（二）フルこと有（二）（返）（る）か如（し）（群書治要巻三［毛詩］
－61）（・いたむ・うれふ・）
○耿々（耿）は猶（ほ）儆（ケイ）々（儆）（二）（か）［猶］（再讀）（二）（し）［也］（群
書治要巻三［毛詩］－61・注）（・ケイケイ・）
○仁人既に遇（音）セラレ不（して）憂へ・侵―害（二）セラ見（ル）（二）丶に在（三）
（り）［也］（群書治要巻三［毛詩］－61・注）（・す・らる・うれふ・す・
らる・る・）
○憂（ふ）ル―心悄（セウ）（上）―々（悄）タリ。（群書治要巻三［毛詩］－62）（・
うれふ・セイセイたり・）
○［于］群―小（二）に慍（イカ）（二）ル（群書治要巻三［毛詩］－62）（・いかる・）
○悄―々（悄）（は）憂（ふ）ル意（なり）［也］（群書治要巻三［毛詩］－62・
注）（・うれふ・）
○閔（ヤマ）（返）シキに覯（ア）フこと・既に多シ。（群書治要巻三［毛詩］－62）（・やま
し・あふ・おほし・）
○侮（アナトリ）を受タルこと少（スクナ）カラ不。（群書治要巻三［毛詩］－63）（・あなどり・
たり・すくなし・）
○●谷風は夫―婦の道（返）（を）失（ウシナ）（二）ヘルことを刺（二）（す）［也］。（群
書治要巻三［毛詩］－63）（・うしなふ・り・）（「谷」の上に、改行符号あり）
○衛―人・其（の）上（カミ）（返）に化（し）て［於］新―婚（二）に淫（音）（二）シ而（テ）
其（の）舊―室を棄（ス）ツ。（群書治要巻三［毛詩］－63）（・かみ・す・すつ・）
（「溪」字、見せ消ちあり、「淫」字、右傍に補っており）
○夫―婦・離―絶シて國―俗傷（ヤフ）レ―敗ル［焉］（群書治要巻三［毛詩］－64）
（・す・やぶる・やぶる・）
○習―々（習）タル谷―風。（群書治要巻三［毛詩］－65）（・たり・）
○以て陰（クモ）リ・以て雨（アメフ）ル（群書治要巻三［毛詩］－65）（・くもる・あめふる・）
（「谷」字、右傍に補っており）
○東風・之を谷―風と謂フ。（群書治要巻三［毛詩］－66・注）（・いふ・）
○陰陽和（ヤハラ）イ而（て）谷風至ル。（群書治要巻三［毛詩］－66・注）（・やはらぐ・い
たる・）
○夫―婦和（やはラ）クトキハ［則］室―家成ル［之］［也］（群書治要巻三［毛詩］
－66・注）（・やはらぐ・ときは・なる・）
○黽（ヒン）（上濁）―勉（ヘン）（上濁）シて心を同す。（群書治要巻三［毛詩］－67）（・ビン
ベン・す・）
○宜（く）・怒（イカ）（返）（る）こと有ル［宜］（再讀）（返）（か）ラ不（ス）（群書治要巻
三［毛詩］－67）（・いかる・あり・べし・ず・）
○言は黽―勉シて君子與（と）・心を同センことを思フ［也］（群書治要巻三［毛詩］
－67・注）（・す・おなじくす・む・おもふ・）
○所―以は黽―勉スル者以―爲ハク譴―怒セ見（ル）丶（は）夫―婦［之］宜（二）
（から）非（二）（ると）以爲（おもへ）（三）（再讀）リ［也］（群書治要巻三［毛詩］－67・
注）（・おもはく・す・る・おもふ・り・）（「爲」字ルビ「ハク」の右に「才
乍」あり）

○葑（平）（返）を采リ菲（上）（返）を采ル・下―禮を以テスルこと無（か）レ。（群書治要巻三〔毛詩〕‐68）（・ホウ・とる・ヒ・とる・もてす・なし・）
○葑は＝〔艹＋須〕（平）也（群書治要巻三〔毛詩〕‐69・注）（・シン・）
○下―體は根―莖（平）也（群書治要巻三〔毛詩〕‐69・注）（・コンカウ・）
○二―菜は皆（な）・上―下食（返）フ可（し）。（群書治要巻三〔毛詩〕‐69・注）（・くらふ・）
○然―而モ・其（の）根・美キ―時有（る）惡（一）シキ―時有（二）（り）。（群書治要巻三〔毛詩〕‐69・注）（・しかれども・むまし・あし・）（「有美時有」四時、補充符により右傍に補っており）
○之（返）（を）采ル者モ・根惡シキ［之］時（一）（返）を以（二）て并て其（の）葉（上）を棄（中）（つ）可（下）（返）（から）不。（群書治要巻三〔毛詩〕‐69・注）（・とる・ひと・も・ね・あし・あはせて・）
○喩フ夫―婦禮―義（返）を以て合（音）シ・顔―色（返）を以て親（音）す。（群書治要巻三〔毛詩〕‐69・注）（・たとふ・す・）
○亦（た）顔色衰（一）タルを以（二）而其（の）相（ひ）―與セシ［之］禮（上）を棄（中）ツ可（下）（返）（から）不に（群書治要巻三〔毛詩〕‐70・注）（・たり・ともにす・す・うつ・）
○德―音違フこと莫クは・爾（返）及［イ、及］・死（返）を同セン（群書治要巻三〔毛詩〕‐70）（・ちがふ・なし・なむぢ・と・ともにす・む・）
○夫婦（の）［之］言・相（ひ）―違（ふ）こと無クは［者］・則（ち）・長（し）・相（ひ）―與（すこと）處て死（返）（に）至（一）（る）可（二）（し）（群書治要巻三〔毛詩〕‐71・注）（・なし・ゐる・）
○顔―色は斯―須ク［之］有（音）ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐71・注）（・しばらく・なり・）

鄘風

○●相（去）―鼠は無―禮（一）を刺（二）レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐73）（・そしる・り・）
○衞の文公・能（く）其（の）群―臣（一）を正（二）ス。（群書治要巻三〔毛詩〕‐73）（・ただす・）
○而て在―位の先―君（の）［之］化（一）（返）を承（二）ケて禮―儀（上）無（中）（く）ことを刺（下）ル［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐73）（・うく・そしる・）
○鼠（返）を相レは皮（返）有（る）・人トシ而儀（返）無（し）（群書治要巻三〔毛詩〕‐75・注）（・みる・と・す・）
○高―顯の［之］居（音）（一）に處（二）（返）リ（と）雖（も）・偸シク―食ミ・苟シク―得て廉―耻（一）を知（二）（返）（ら）不。（群書治要巻三〔毛詩〕‐75・注）（・をり・いやし・はむ・いやし・う・）
○亦（た）人威―儀無キ者（一）與（二）同シ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐76・注）（・なし・おなじ・）
○人と（し）而儀（返）無クは・死（返）（返）（な）不シて胡―爲セン（群書治要巻三〔毛詩〕‐76）（・なし・ず・す・なに・を・か・す・む・）
○今反（り）て禮（返）無（くし）之化（返）を傷リ・俗を（返）敗ル。（群書治要巻三〔毛詩〕‐77・注）（・やぶる・やぶる・）
○如（返）（か）不シ・其（れ）死（に）て害（返）スル所（返）無カランには［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐77・注）（・す・す・なし・む・）
○鼠（返）を相（れ）は體（返）有（り）・人トシ而禮（返）無（し）（群書治要巻三〔毛詩〕‐77）（・と・す・）
○人と（し）而禮（返）無（く）は・胡（そ）遄ク死（一）ナ不（二）ル（群書治要巻三〔毛詩〕‐78）（・はやし・しぬ・ず・）

○●干（平）―旄（平濁）は善（音）（返）好（返）ムことを美メタリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐79）（・カンボウ・このむ・ほむ・たり・）
○衞の文公か［之］臣―子・多ク善（音）（返）を好む。（群書治要巻三〔毛詩〕‐79）（・おほし・）
○賢―者・告クルに善―道（一）を以（二）センことを樂（三）フ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐80）（・つぐ・す・む・ねがふ・）
○子（入）子タル干―旄アリ・浚（去）（の）［之］郊（一）に在（二）（り）（群書治要巻三〔毛詩〕‐80）（・ケツケツ・たり・あり・シユン・）
○旄を［於］干ノ首（一）に注（二）ケタリ。（群書治要巻三〔毛詩〕‐81・注）（・ひを・の・はし・つぐ・たり・）
○大夫（の）［之］旃ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐81・注）（・はた・なり・）
○時に此の旄（返）を建チて來（り）―至（り）浚（の）［之］郊（一）に有（二）（り）。（群書治要巻三〔毛詩〕‐81・注）（・はた・たつ・）
○卿大夫善（音）（返）を好スル者ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐82・注）（・よみす・もの・なり・）
○素―絲ヲモテ（傳）紕スルカコトクシテ（傳）［イ、素―絲ノ（箋）紕スル（箋）］［之］・良―馬四ヲセン（傳）［イ、四ヲス（箋）］［之］（群書治要巻三〔毛詩〕‐82）（・を・もて・くみす・か・ごとし・す・て・の・くみす・よつ・を・す・む・よつ・を・す・）
○紕（去）は組（返）を織（返）ル所―以ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐82・注）（・ソ・をる・なり・）
○紕を［於］此（一）（返）に總（二）て文を［於］彼（一）に成（二）す。（群書治要巻三〔毛詩〕‐83・注）（・くみ・こと・すべて・あや・かしこ・）
○願（く）は素―絲紕―組（の）［之］法（一）（返）を以（二）て四―馬（一）を御（音）（二）セン［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐83・注）（・す・む・）
○彼の姝（平）タルは［者］子（音）ナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕‐83）（・シユ・たり・なり・）
○何を以て畀へ［之］（群書治要巻三〔毛詩〕‐83）（・あたふ・）
○時の賢―者・既に此の大夫忠順（の）［之］德（一）有（二）（る）ことを悅（三）フ。（群書治要巻三〔毛詩〕‐84・注）（・よろこぶ・）
○又（た）善―道（返）を以て與（一）へンことを欲（二）す［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕‐84・注）（・あたふ・む・）
○誠に愛―厚（の）［之］至（いたり）ナリ［焉］（群書治要巻三〔毛詩〕‐84・注）（・いたり・なり・）

衞風

○●淇―澳は武公か［之］德（一）を美（め）（二）タリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐86）（・たり・）
○文―章（一）有（二）（り）・又（た）能（く）・規―諫（一）（返）を聽（二）イて禮（返）（返）を以て自（つから）（ら）防ク。（群書治要巻三〔毛詩〕‐86）（・きく・みづから・ふせく・）
○故に能ク入（り）て［于］周（一）に相（去）（二）タリ。（群書治要巻三〔毛詩〕‐87）（・よく・たり・）
○美（ほ）（め）而（て）是の詩（一）を作（二）ル。（群書治要巻三〔毛詩〕‐87）（・ほむ・つくる・）
○彼の淇―澳（一）を瞻（ミ）（二）レは・綠―竹＝〔イ＋奇〕々（＝〔イ＋奇〕）タリ（群書治要巻三〔毛詩〕‐89）（・みる・たり・）（本行にある「綺」字見せ消ちあり、右傍「＝〔イ＋奇〕」字を補っており。）

○〔彳+奇〕々（＝〔彳+奇〕）は美ナル貌［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐89・注）（・なり・）
○武公・質（音）美（去濁）に・徳盛（サカリ）にシて康叔か［之］［之］餘―烈（二）［也］有（二）（り）（群書治要巻三〔毛詩〕‐89・注）（・さかりなり・す・）
○斐（ヒ）（上）タル君子（一）有（二）（り）。（群書治要巻三〔毛詩〕‐90）（・ヒ・たり・）（「斐」字、左傍「芳尾反」三字あり）
○切（返）スルか如ク・瑳（平）（返）スルか如（く）・琢（タク）（入）（返）スルか如（く）磨（ハ）（平濁）（返）スルか如シ（群書治要巻三〔毛詩〕‐90）（・す・ごとし・す・タク・す・ば・す・ごとし・）
○骨（返）治ムルを・切（返）と曰（ふ）。（群書治要巻三〔毛詩〕‐91・注）（・をさむ・）
○象（上）に瑳（と）曰ヒ・玉（訓）に琢（返）（と）曰（ひ）・石に磨（返）（と）曰フ。（群書治要巻三〔毛詩〕‐91・注）（・いふ・いふ・）
○其（れ）學（マナ）（ひ）而成（テナ）（二）スことを道（イ）（二）フ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐91・注）（・まなぶ・なす・いふ・）
○其レ規―諫（返）を聽（い）て禮（返）を以て自（ら）修メ―飾（カサ）ル。（群書治要巻三〔毛詩〕‐91・注）（・それ・をさむ・かざる・）（「規」字、補充符により補っており。）
○玉―石［之］琢―磨（二）セ見（ラ）（二）ル丶か如（三）シ（群書治要巻三〔毛詩〕‐91・注）（・す・らる・ごとし・）
○●丸（平）―蘭は惠―公（二）を刺（二）レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐92）（・そしる・）（「丸」字、上注に「六凡本又乍丸」六字あり・右傍に「芄本」二字あり）
○驕（フコ）（り）而禮（テ）（返）無（し）。（群書治要巻三〔毛詩〕‐92）（・をごる・）
○大夫刺ル［之］（群書治要巻三〔毛詩〕‐92）（・そしる・）
○惠公・幼童（二）（返）ナルを以（二）て位（返）に即（ツ）ケリ。（群書治要巻三〔毛詩〕‐92・注）（・なり・つく・り・）
○自（ミ）（つか）（ら）謂（ヲモハ）ク才―能（二）有（二）（返）（る）と［謂］（再讀）（ひ）而（テ）［於］大臣（二）に驕（二）―慢す。（群書治要巻三〔毛詩〕‐93・注）（・みづから・をもはく・をもふ・）（「慢」字、補充符により補っており。）
○但（し）・威―儀（二）（返）を習（二）（ひ）て政（返）を爲（す）に禮（返）を以（二）（て）スルコトヲ知（二）（返）（ら）不（三）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐93・注）（・もてす・こと・を・）
○丸―蘭（の）［之］支（エタ）アリ（群書治要巻三〔毛詩〕‐93）（・ゑた・あり・）
○柔―弱ニシて恒に［於］地（二）に延（二）―蔓セリ。（群書治要巻三〔毛詩〕‐94・注）（・なり・す・す・り・）
○依リ―緣（ヨ）（二）（返）ル所（二）（返）有（り）て則（ち）起ル。（群書治要巻三〔毛詩〕‐94・注）（・よる・よる・おこる・）
○興（タトヘタラク）は［者］喻（ふ）・幼―＝〔ネ+尸+羊〕（の）［之］君・大臣（二）（返）を任（二）―用シて乃（イま）（し）能（く）其（の）政（二）を成（ナ）（二）スに［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐94・注）（・たとへたらくは・ヨウチ・す・いまし・なす・）（本行にある「雅」字、見せ消ちあり、「＝〔ネ+尸+羊〕」字、補充符により補っており。「穉」字か）
○童―子にシて觸（返）を佩（ヲ）ヘリ（群書治要巻三〔毛詩〕‐94）（・す・くしり・をぶ・り・）
○觸は結（ムスホシ）（返）タルを解（ト）（返）ク所―以ナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕‐95・注）（・むすほし・たり・とく・なり・）
○成―人（の）［之］佩（ヲモノ）ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐・注95）（・を

もの・なり・）

○童―子（二）ナリと雖（二）（も）・猶（ほ）觸（返）（返）を佩ヒて以て早ク其（の）徳（二）を成（二）（す）［也］（群書治要巻三［毛詩］－95・注）（・なり・おぶ・はやし・）（本行にある「昇」字、消しており、「以」、「早」二字は補充符により補っており。）

○［則］觸（を）佩（二）ヘリと雖（二）（も）・能ク我を知（二）ラ不（二）（群書治要巻三［毛詩］－96）（・をぶ・り・よく・しる・）

○此の幼―稚（の）［之］君・觸（返）を佩（返）ヘリと雖（も）［與］・其（の）才―能・實（マさ）に我か衆―臣（の）［之］知―爲（平）（二）スル所（二）に如（シ）（三）（返）カ不［也］（群書治要巻三［毛詩］－96・注）（・をぶ・り・まさにす・しく・）（本行にある「別」字、見せ消ちあり、「幼」字、右傍に補っており・本行にある「注」字、消しており、「臣」字、右傍に補っており。）

○惠―公・自（ミつか）（ら）謂ク才―能（二）有（二）（返）（る）と［謂］（再讀）（ひ）而（て）驕リ―慢ル。（群書治要巻三［毛詩］－97・注）（・みづから・をもはく・をもふ・おごる・おごる・）（「謂」字ルビ「ヲモハク」下、「辞字也」あり。）

○刺（シ）ラ見（ル）ヽ所―以ナリ［也］（群書治要巻三［毛詩］－97・注）（・そしる・らる・なり・）

王風

○●葛―纍（ルイ）（上）は王―族・桓―王（二）を刺（二）レリ［也］（群書治要巻三［毛詩］－99）（・カツルイ・そしる・り・）（本行にある「Ⅱ〔藟+宀+系〕」字見せ消ちあり、「纍」は右傍に補っており）

○周―室・道―衰（ひ）て其（の）九―族（二）を棄（二）ツ［焉］。（群書治要巻三［毛詩］－99）（・おとろふ・すつ・）

○綿―々（綿）タル葛―纍・河（の）［之］滸（ホリ）（二）に在（二）（り）（群書治要巻三［毛詩］－100）（・たり・ほり・）（本行にある「Ⅱ〔藟+宀+系〕」字見せ消ちあり、「纍」は右傍に補っており・「滸」左傍「呼五反」あり）

○水―涯（平濁）を滸（コ）（上）（返）と曰（ふ）（群書治要巻三［毛詩］－100・注）（・コ・）

○葛［也］・纍［也］・河（の）［之］涯（ホトリ）（二）（返）に生（ヲ）（二）イて其（の）潤―澤（二）（返）を得（二）て以て長（上）シ而（て）絶（返）（ヘ）不。（群書治要巻三［毛詩］－100・注）（・ほとり・をう・す・）

○興（たとへ）（タラク）は［者］喩（ふ）・王（の）［之］同―姓の王の恩―施（去）（二）（返）を得（二）て以て其（の）子（二）を生（二）―長スルに（群書治要巻三［毛詩］－101）（・たとへたらくは・す・）

○終（ツキ）に兄弟（二）を遠（トヲサ）（二）カレは・他―人を父（二）と謂（二）フ（群書治要巻三［毛詩］－101）（・つゐに・とをざかる・いふ・）

○王・［於］恩―施（二）に寡（スクナ）（二）シ。（群書治要巻三［毛詩］－102・注）（・すくなし・）

○今・以て族―親（二）を遠（トホサ）（二）ケ―棄ツ［矣］。（群書治要巻三［毛詩］－102・注）（・とほざける・すつ・）

○是レ我・他―人（二）を以（二）て己か父（二）と爲（二）す［也］・（群書治要巻三［毛詩］－102・注）（・これ・）

○●采―葛は讒（平）（返）を懼（オソ）リタリ（群書治要巻三［毛詩］－103）（・おそる・たり）

○桓王（の）［之］時・政事か明（返）ナラ不。（群書治要巻三［毛詩］－103・注）（・あきらかなり・）

○臣・大―小（二）と無（二）ク・使（ツカヒ）トシて出タル―者（もの）・則（ち）讒―人（二）の爲（二）に・毀（ソコナ）（返）ハ所ル。（群書治要巻三［毛詩］－103・注）（・なし・

つかひ・と・す・たり・そこなふ・らる・）

○故に懼ツ［之］［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－103・注）（・をづ・）

○彼の葛（返）を采ル［兮］。（群書治要巻三〔毛詩〕－104）（・とる・）

○一日モ・見（返）は（）不ルは・三月（一）の如（二）シ［兮］（群書治要巻三〔毛詩〕－104）（・も・ず・ごとし・）

○葛は絺—紘（一）に爲（二）（返）ル所—以ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－104・注）（・つくる・なり・）

○事小ナリと雖（も）・一日モ・［於］君（一）に見（二）（返）（は）不レは［於］讒（一）を憂（二）へ—懼ツ［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕－105・注）（・すこしきなり・も・ず・うれへ・をづ・）

○興は［者］・葛（返）を采（返）（る）を以（て）は・喩フ・臣小—事（一）（返）を以（二）て使トシて出タルに［者］［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－105・注）（・たとへらるる・たとふ・と・す・たり・）

鄭風

○●風—雨は君子（一）を思（二）へリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－107）（・をもふ・り・）

○亂—世ナレは［則］・君子の其（の）度（一）を改メ（返）ラレ不（二）（る）ことを思（三）フ［焉］。（群書治要巻三〔毛詩〕－107）（・なり・あらたむ・らる・をもふ・）

○風—雨・淒—々（淒）タリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－108）（・たり・）

○鷄（訓）鳴クこと喈（平）々（喈）タリ（群書治要巻三〔毛詩〕－108）（・なく・たり・）（「喈」右傍「立皆」二字あり。）

○風キ且夕雨ル・淒—々（淒）—然タリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－108・注）（・かぜふく・あめふる・たり・）

○鷄猶（ほ）時（返）を守而鳴クこと・喈—々（喈）—然。（群書治要巻三〔毛詩〕－108・注）（・まもる・なく・）

○興は［者］喩フ・君子の亂—世（一）に居（二）（返）リと雖（も）・其（の）節—度（一）を改（二）（返）メ不ルに［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－109・注）（・たとへたらくは・たとふ・をる・あらたむ・ず・）

○既に君子（一）を見（二）テハ・云に胡ソ夷（返）ヒ不ラむ（群書治要巻三〔毛詩〕－109）（・みる・てば・ここに・なんぞ・よろこぶ・ず・）（「云」補充符により補っており）

○思（ひ）而見ツ［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕－110・注）（・つ・）

○云に何ソ悦（返）ハ不ラむ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－110・注）（・ここに・なんぞ・よろこぶ・ず・）

○●子—衿は學廢（一）レタルことを刺（二）レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－111）（・すたる・たり・そしる・り・）

○亂—世ナレは［則］・學—校（去）修（返）ラ不。（群書治要巻三〔毛詩〕－111）（・なり・をさまる・り・）

○青—青タル子（音）か衿ノクヒアリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－111）（・たり・ころも・の・くび・あり・）

○悠—々（悠）タル我か心アリ（群書治要巻三〔毛詩〕－112）（・たり・あり・）

○學—子［之］服（返）スル所ナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－112・注）（・すなり・）

○己は留（め）て彼は去ヌ。（群書治要巻三〔毛詩〕－112・注）（・をのれ・かれ・さる・ぬ・）

○故に隨（ひ）而之（を）思フ（群書治要巻三〔毛詩〕－113・注）（・をもふ・）

○縱ヒ・我は往（返）（か）不トモ・子寧嗣（返）カ不ランヤ（箋）［イ、嗣ハ

不（ら）む（傳）］（群書治要巻三〔毛詩〕 - 113）（・たとひ・ず・とも・つぐ・ず・む・や・ならぶ・）

○汝・曾（カツ）て聲（返）（返）を傳（ひ）て我（返）を問（ト）（一）ハ不（二）ランヤ。（群書治要巻三〔毛詩〕 - 113・注）（・かつて・とふ・ず・む・や・）

○々（われ）（我）恩（返）（返）を以て其（れ）己（おのれ）（返）忘（一）レタルことを責（セ）（二）ム［也］（群書治要巻三〔毛詩〕 - 114・注）（・われ・おのれ・わする・たり・せむ・）（「々」補充符により補っており）

齊風

○●鷄―鳴は賢―妃（一）を思（二）ヘリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕 - 116）（・おもふ・り・）

○哀公・荒―淫・怠―慢ナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕 - 116）（・なり・）

○故に賢―妃・貞―女・夙―夜に警（上）―戒（去）シて相―成す［之］道（一）を陳（ノ）（二）フ［焉］。（群書治要巻三〔毛詩〕 - 116）（・す・のぶ・）

○鷄（訓）既に鳴キヌ（ナ）［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕 - 117）（・なく・ぬ・）（118行にある「鷄」字、「既」字見せ消ちあり）

○朝（音）既に盈チヌ（ミ）［矣］（群書治要巻三〔毛詩〕 - 117）（・みつ・ぬ・）

○鷄鳴キ（ナ）・朝盈（ち）て夫人と［也］・君［也］・以て起（ヲ）（一）ク可（二）キは［之］・常禮ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕 - 118・注）（・なく・と・をく・べし・なり・）

○鷄の［則］鳴（一）に匪（ア）（二）ラス。（群書治要巻三〔毛詩〕 - 119）（・あらず・）

○蒼―蠅（平）（の）［之］聲（訓）ナリ（群書治要巻三〔毛詩〕 - 119）（・なり・）

○夫人・蠅聲（一）（返）を以（二）て鷄の鳴（一）（返）と爲（二）シて則（ち）以て作（ヲ）ク。（群書治要巻三〔毛詩〕 - 119・注）（・なす・をく・）

○［於］常時（一）ヨリモ早（スミヤカ）（二）ナリ。群書治要巻三〔毛詩〕 - 119・注）（・より・も・すみやかなり・）

○●甫（上）―田は大夫襄―公（一）を刺（二）レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕 - 120）（・そしる・り・）

○禮―義（一）無（二）（く）シ而（て）大功（一）を求（二）（む）。（群書治要巻三〔毛詩〕 - 120）（・す・）

○其（の）德（一）を修（返）メ不シ而（て）諸侯（一）を求（二）む。（群書治要巻三〔毛詩〕 - 121）（・をさむ・ず・す・）

○志（訓）大キに・心勞（音）シて求（一）ムル所（二）―以の者（もの）・其（の）道（一）に非（二）（す）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕 - 121）（・おほきなり・す・もとむ・）

○甫―田を田（音）スルこと無（か）レ。（群書治要巻三〔毛詩〕 - 123）（・すなし・）

○維レ莠驕（ハクサ）（平）―々（驕）タリ（群書治要巻三〔毛詩〕 - 123）（・これ・はぐさ・たり・）

○大―田・度（去）（返）に過（ス）キ而（て）人功無（ナ）キトキンハ・終に獲（カ）ルこと能（は）不。（群書治要巻三〔毛詩〕 - 123・注）（・すぐ・なし・ときんば・かる・）（本行に「推」字、見せ消ちあり）

○興（タトヘタラク）は［者］喩（ふ）・人君・功（返）を立（ち）治（返）（返）を致（一）サンと欲（二）シて必（す）身（返）を勤（ツト）メ・德（返）（返）を修（め）て小（音）（返）を積（み）て以て高―大（一）を成（二）（す）に［也］（群書治要巻三〔毛詩〕 - 123・注）（・たとへたらくは・いたす・む・ほす・つとむ・）

○遠―人（一）を思（二）（返）フこと無（か）レ。（群書治要巻三〔毛詩〕 - 124）（・をもふ・なし・）

○勞―心・切（タウ）（平）々（切）タリ（群書治要巻三〔毛詩〕 - 124）（・タウタウ・

たり・）（「切」字、左傍「音刀」二字あり）
○此は言は徳（返）無シ。（群書治要巻三〔毛詩〕-125・注）（・なし・）
○而て諸侯（一）を求（二）ムルトキンハ・徒（イタツラ）に其（の）心（一）を勞（イタハ）（二）ラシムルこと・切―々（切）―然タリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-125・注）（・なくす・もとむ・ときんば・いたずらなり・いたはる・しむ・たり・）
○此は言は徳（返）無シ。（群書治要巻三〔毛詩〕-125・注）（・なし・）
而て諸侯（一）を求（二）ムルトキンハ・徒（イタツラ）に其（の）心（一）を勞（イタハ）（二）ラシムルこと・切―々（切）―然タリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-125・注）（・もとむ・ときんば・いたずらなり・いたはる・しむ・たり・）

魏風

○●伐（入）―檀（平）は貪（タン）（平）（返）を刺レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-127）（・タン・そしる・り・）
○在―位・貪―鄙（ヒ）ニシて・功（返）無（くし）而（て）祿（返）を受ク。（群書治要巻三〔毛詩〕-127）（・タンヒ・なり・す・うく・）
○君子・進ミ―仕（一）フルこと得（二）（返）不（サ）ルこと・爾（シカ）リ。（群書治要巻三〔毛詩〕-127）（・すすむ・つかふ・ず・しかり・）
○坎（上）―々（坎）とシて檀（平）（返）を伐（キ）ル［兮］。（群書治要巻三〔毛詩〕-128）（・す・きる・）
○［之］河（音）（の）［之］干（ホトリ）（一）に寘（ヲ）（二）ク［兮］。（群書治要巻三〔毛詩〕-128）（・ほとり・をく・）
○河―水清（ス）ンて且（マ）夕漣（平）―漪（イ）（平）ナリ（群書治要巻三〔毛詩〕-129）（・すむ・また・レンイ・なり・）
○檀（返）（返）を伐（キ）て以て世（返）を俟（マ）ツこと・河―水清（ス）ンて且（た）漣―漪（一）アルを俟（二）（返）（つ）か若（コト）シ。（群書治要巻三〔毛詩〕-129・注）（・きる・まつ・すむ・また・あり・ごとし・）（本行にある「俟」字に見せ消ちがあり、右傍に「俟」字は補っており・「用」字見せ消ちあり・二番目の「俟」字にも見せ消ちがあり）
○是レは君子（の）［之］人の進（み）―仕（一）（ふる）こと得（返）不（二）（る）を謂（三）（ふ）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-129・注）（・これ・）
○稼（返）セ不・穡（返）（する）ことセ不・胡ソ禾（アハ）（返）を取（る）こと・三百廛（テン）（平）ナル［兮］。（群書治要巻三〔毛詩〕-130）（・す・ず・す・なんぞ・あは・テン・なり・）
○狩（返）セ不・獵（レフ）（入）（返）セ不・胡ソ庭（一）を瞻（二）ルに爾リ・懸（カ）レル貆（クワン）（平）（一）有（二）ル［兮］（群書治要巻三〔毛詩〕-131）（・す・レフ・す・なんぞ・みる・しかり・かかる・り・クワン・あり・）
○彼の君子［兮］・素（去）―喰（サン）（平）（一）セ不（二）［兮］（群書治要巻三〔毛詩〕-132）（・ソサン・す・）
○彼（の）君子トイハ［者］・伐―檀（の）［之］人（一）を斥（サ）（二）ス。（群書治要巻三〔毛詩〕-132・注）（・といは・さす・）
○仕へて功（返）有ルは乃（ち）祿（返）を受（ウ）（返）ク肯（ヘ）シ（群書治要巻三〔毛詩〕-132・注）（・つかふ・あり・うく・べし・）
○●碩―鼠（上）は重（レン）―斂（一）を刺（二）レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-133）（・ジユウレン・そしる・り・）
○國―人・其（の）君［之］重―斂シて蠶（サン）（去）―食シ民（返）に於（ひ）て其（の）政（返）を修メ不（ス）シて貪（むさ）（ホ）（り）而（て）人（返）を畏（ヲ）ツルこと大鼠（一）の若（コト）（二）キことを刺（三）ル［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-133）（・す・サンショク・す・をさむ・ず・す・むさぼる・をづ・ごとし・そしる・）（「食」字、右傍「音石」二字あり）

○碩—鼠・碩—鼠・我か黍（音）（上）（一）を食（二）（返）フこと無（か）レ（群書治要巻三〔毛詩〕-135）（・ショ・くふ・なし・）
○三—歳汝（返）に貫フレトモ・我を顧（返）ル肯（一）キこと莫（二）シ（群書治要巻三〔毛詩〕-135）（・つかふ・ども・みる・べし・なし・）
○大—鼠大—鼠トイハ［者］・其（の）君（訓）（一）を斥（二）ス。（群書治要巻三〔毛詩〕-136・注）（・といは・さす・）
○汝・復（た）我か黍（一）を食（二）フこと無（三）（か）レトイハ・其（の）君税（去）—斂（去）（の）［之］多（一）キを疾（二）ムソ。（群書治要巻三〔毛詩〕-136・注）（・くふ・なし・といは・その・ゼイレン・おほし・にくむ・ぞ・）
○我汝（返）に事（ふ）ルこと・已に三歳［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕-136・注）（・われ・つかふ・）
○曾テ教—令恩—徳來て我（一）を顧（二）ミ—眷（み）ルこと無（三）シ。（群書治要巻三〔毛詩〕-136・注）（・かつて・かへりみる・かへりみる・なし・）
○又（た）其（の）徳—政（一）を修（返）メ不（二）ルことを疾（三）（む）（群書治要巻三〔毛詩〕-137・注）（おさむ・ず・）
○逝イて將に汝（返）を去（返）ンナンと［將］（再讀）。（群書治要巻三〔毛詩〕-137）（・ゆく・さる・ぬ・む）
○彼の樂（入）土（一）に適（二）カむ（群書治要巻三〔毛詩〕-137）（・ゆく・）（「樂」左傍「音洛」二字あり）
○往キ矣將に女（返）を去（返）（る）と［將］（再讀）ルトキニ・之（返）與・訣—別スル［之］辭ナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-137・注）（・ゆく・なんぢ・す・とき・に・これ・す・なり・）

唐風

○●杕（去）—杜（上）は時（返）を刺レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-140）（・テイト・そしる・り・）（本行にある「杖」字に見せ消ちがあり、右に「杕」字が補っており・「杜」字左傍「徒油反」あり）
○君・其（の）宗—族（一）を親（二）（返）スルこと能（返）（は）不。（群書治要巻三〔毛詩〕-140）（・す・）
○骨—肉離—散シて獨リ居而兄—弟（一）無（二）シ。（群書治要巻三〔毛詩〕-140）（・す・ゐる・なし・）（「離」字右に補っており）
○將（まさ）に沃（入）（返）の爲并幷（返）セ所（一）レンと［將］（再讀）（二）ルこと・爾リ。（群書治要巻三〔毛詩〕-141）（・まさに・ヲク・あはす・らる・り・ぬ・しかり・）
○杕タル［之］杜（一）有（二）（り）。（群書治要巻三〔毛詩〕-141）（・たり・）（141行にある「有」字、見せ消ちあり）
○其（の）葉湑（去）—々（湑）タリ（群書治要巻三〔毛詩〕-142）（・ショショ・たり・）（本行にある「湑」字に見せ消ちあり、右傍に「湑」字が補っており、左傍「私叙反」あり）
○杕は特リ生ヒタル貌。（群書治要巻三〔毛詩〕-142・注）（・ひとり・をふ・たり・）（「生」字、補充符により、補っており）
○湑々（湑）は枝—葉相ヒ次—比（一）セ不（二）ル［之］皃（群書治要巻三〔毛詩〕-142・注）（・あひ・す・ず・）（本行にある「骨」字は消しており、左傍に「湑々」は補っており）
○獨（り）行クこと踽（上濁）—々（踽）タリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-143）（・ゆく・ここ・たり・）（「踽」字、左傍「俱禹反」あり）
○豈（に）他—人（一）無（二）レヤ・我か同—父（一）に如（二）（返）（か）不（群書治要巻三〔毛詩〕-143）（・なし・や・）
○踽々（踽）は親（音）（返）スル所（返）無（からん）ソ［也］（群書治要巻三〔毛

詩〕-143・注）（・す・ぞ・）
○言は昭―公・其（の）宗―族（一）（返）を遠ケ（二）て獨リ國中（一）に行（ユ）（二）ク・踽―々（踽）―然タリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-144・注）（・さく・ひとり・ゆく・たり・）（本行にある「棄」字、見せ消ちあり、右傍に「遠」字は補っており）
○此（れ）豈（に）・異―姓（の）［之］臣（一）無（二）（か）レ乎。（群書治要巻三〔毛詩〕-144・注）（・なし・や・）
○恩（返）を顧（カヘリ）ミルに同姓（の）［之］親―々（親）（一）スルに如（二）（返）（か）不（サ）ラク耳（ノ）ミ（群書治要巻三〔毛詩〕-144・注）（・かへりみる・す・ず・く・のみ・）（本行にある「＝〔言+見〕」字は見せ消ちあり、「親―々」は左傍に補っており、左下に「本乍」二字あり）

秦風

○●晨―風は康―公（一）を刺（二）レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-146）（・そしる・り・）
○穆公か［之］業（一）（返）を忘（二）レて始て其（の）賢臣（一）を棄（ス）（二）ツ［焉］。（群書治要巻三〔毛詩〕-146）（・わする・すつ・）（「之」、「始」補充符により補っており）
○鴆（イツ）（入）タル彼の晨―風・鬱タル彼の北―林アリ（群書治要巻三〔毛詩〕-147）（・イツ・たり・たり・あり・）（「鴆」字、左傍「尹橘反」三字あり）
○鴆は疾（ト）キ皃［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-147・注）（・とし・）
○先―君賢人（一）を招（二）クに［イ、招（く）か］・々（賢）々（人）・歸―往スルコト［之］駛（ト）ク―疾イこと・晨―風（の）［之］飛（ひ）て北―林（一）に入（二）（る）か如（三）シ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-148・注）（・まねく・す・こと・とし・とし・ごとし・）（「歸」、「駛」補充符により、補っており）
○未（た）君子（一）を見（二）（返）［未］（再讀）ルトキンハ・憂（ふ）ル―心欽（平）―々（欽）タリ（群書治要巻三〔毛詩〕-148）（・ず・ときんば・うれふ・たり・）
○言は穆公始メ・未（た）君子（一）を見（二）（返）［未］（再讀）（る）［之］時に・思（ひ）―望（み）而（て）憂フルこと欽―々（欽）―然［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-149・注）（・はじむ・うれふ・）
○如（イカン）―何ソヤ・々（如）―々（何）。（群書治要巻三〔毛詩〕-149）（・いかんぞ・や・）
○我（一）を忘（二）レタルこと・實（マ（さ））に多キ（群書治要巻三〔毛詩〕-149）（・わする・たり・まさに・おほし・）
○此レ穆公（の）［之］意（一）（返）を言（イ）（二）（ひ）て康公（一）を責（セ）（二）ム。（群書治要巻三〔毛詩〕-150・注）（・これ・いふ・せむ・）
○汝我か［之］事（一）を忘（二）（れ）タルこと・實（マ（さ））に多―大〔左、＼ナル〕［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-150・注）（・たり・まさに・なり・）（「實」字、補充符により、補っており・本行にある「大」字見せ消ちあり、「也」字の左傍に「大」字は補っており・下に「本无」あり・「多」右傍に「ヲホシ」のルビあり）
○●渭―陽は康公・母（返）を念ヘリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-151）（・おもふ・り・）
○康公（の）［之］母は晉の獻（上）公か［之］女（ムスメ）ナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-151）（・むすめ・なり・）
○文公・嬭―姫の［之］難（去）（一）（返）に遭（ア）（二）（ひ）て反（返）ラ未（り）而（て）秦姫卒（音）シヌ。（群書治要巻三〔毛詩〕-152）（・あふ・かへる・す・ぬ・）

○穆公・文公（一）を納（イ）（二）ル。（群書治要巻三〔毛詩〕-153）（・いる・）
○康公時に太子（一）と爲（シ）（二）て文公を［於］渭（の）［之］陽（一）に贈（ヲクル）（二）リ—送ル。（群書治要巻三〔毛詩〕-153）（・す・をくる・をくる・）
○母［之］見（ミ）（返）不（一）ル［イ、不ラン］（サ）ことを念（二）フ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-154）（・みる・ず・ず・む・をもふ・）
○我（わ）（レ）舅—氏（一）を見（二）ルこと・母存（一）セルか如（二）（く）にす［焉］。（群書治要巻三〔毛詩〕-154）（・われ・みる・ぞんず・り・）
○其（れ）位（返）（返）に即（ツ）（一）クに及（二）（ひ）て思（ひ）而（て）是（の）詩（を）作ル［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-155）（・つく・つくる・）
○我（れ）（レ）舅—氏（一）を送（二）ル。（群書治要巻三〔毛詩〕-155）（・われ・をくる・）（156行にある「我」・「送」二字消しており）
○日（ヒ）に渭の陽（一）に至（二）ラン（群書治要巻三〔毛詩〕-156）（・ひび・いたる・む・）
○何を—以て贈ル［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕-156）（・をくる・）
○路—車乘（丈）—黄アリ（群書治要巻三〔毛詩〕-156）（・あり・）
○乘黄は駟—馬皆（な）黄（キ）ナルソ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-157・注）（・き・なり・ぞ・）
○我舅氏（一）を送（二）ル。（群書治要巻三〔毛詩〕-157）（・をくる・）
○悠—々（悠）タル我思（おも）（ヒ）アリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-157）（・たり・をもひ・あり・）
○何を以て贈ル［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕-157）（・をくる・）
○瓊（ケイ）（平）—瑰（クワイ）（平）玉—佩アリ（群書治要巻三〔毛詩〕-158）（・ケイクワイ・あり・）
○瓊—瑰は美—石にシ而玉（て）（返）に次ク（ツ）者（もの）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-158・注）（・す・つぐ・）
○●權—輿は康公を刺レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-159）（そしる・り・）
○先君（の）［之］舊臣（一）與賢—者（返）［與］（再讀）を忘レて始（はじ）（メ）（返）有（り）而終（て）（をは）（リ）（返）無シ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-159）（・わする・はじめ・をはり・なし・）
○我（返）に於乎（ヲホキ）（ヲイテ）夏に屋フルこと渠（ソナ）（平）々（渠）タリ（群書治要巻三〔毛詩〕-161）（・をいて・をほきなり・そなふ・たり・）
○言は君・始メ・我に於（ヲケ）ル・厚（アツ）シ。（群書治要巻三〔毛詩〕-161・注）（・はじむ・をける・あつし・）
○禮—食（返）を設ケて大に具（そな）（ヘ）て以て我に食（丈）す（群書治要巻三〔毛詩〕-161・注）（・まうく・すべて・）
○其（の）意勤—々（勤）—然タリ（群書治要巻三〔毛詩〕-162・注）（・たり・）
○今［也］・食（丈）（返）スル毎に・餘（あま）（リ）（返）無シ（群書治要巻三〔毛詩〕-162）（・す・あまり・なし・）
○此（こ）（レ）は言は君・今・我を遇（音）スルこと・薄シ。（群書治要巻三〔毛詩〕-162・注）（・これ・す・うすし・）
○其（れ）我に食（丈）スルこと・裁（ワツカ）に足ルハカリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-162・注）（・す・わづかなり・たる・ばかり・）（本行にある「截」字、見せ消ちあり、右傍「裁」字、補っており）
○于—嗟［乎］・權—輿に承（ツ）カ不（群書治要巻三〔毛詩〕-163）（・あ・つぐ・）

曹風

○●蜉（平）—蝣（平）は奢（ヲコリ）（返）を刺レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-165）（・をごり・そしる・り・）（「蜉」字、左傍「立浮」二字あり・「蝣」字、左

傍「立由」二字あり）
○昭—公・國小に（し）而迫レリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-165）（・すこしきなり・せまる・り・）
○法以て自（ら）守（二）ル（こと）無（二）シ。（群書治要巻三〔毛詩〕-165）（・まもる・なし・）
○奢（返）を好ン而小人を任（去濁）す。（群書治要巻三〔毛詩〕-166）（・このむ・）（本行にある「始」字、見せ消ちあり）
○將に依（返）ル所（返）無カラ（む）と［將］（再讀）［焉］。（群書治要巻三〔毛詩〕-166）（・よる・なし・）
○蜉—蝣ノ［之］羽アリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-167）（・の・はね・あり・）（167行目にある「蜉」、「蝣」二字見せ消ちあり）
○衣—裳楚—々（楚）タリ（群書治要巻三〔毛詩〕-167）（・たり・）
○朝に生レて夕に—死ヌ。（群書治要巻三〔毛詩〕-167・注）（・うまる・ゆふべ・しぬ・）
○猶（ほ）羽—翼（返）有（り）て以て自（ら）飾レリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-167・注）（・みづから・かざる・り・）
○興（たとヘタラク）は［者］喩（ふ）・昭公（の）［之］朝（音）に・其（の）群—臣皆（な）小—人ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-168・注）（・たとへたらくは・なり・）
○徒（タ）に其（の）衣裳を整（トノ）へ—飾（カサ）（り）て國の將に迫（セ）メ—脇（ヲヒヤカ）サレて君子死—亡センコト（の）［之］日（返）无（ナ）（二）イことを知（二）（ら）不（サ）ルこと・渠—略（二）の如（二）ク然（シカル）に［之］［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-168・注）（・ただなり・ととのふ・かざる・せむ・をびやかす・り・す・む・こと・ひ・なし・ず・ごとく・しかり・）
○心（の）［之］憂アリ［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕-169）（・あり・）
○於（イツクン）か我（わレヨ）歸リ—處（ヲ）ラむ（群書治要巻三〔毛詩〕-169）（・いつくんか・われ・より・をり・）
○君・當に於（イツクン）—何か依（り）—歸ラン。（群書治要巻三〔毛詩〕-169・注）（・いつくんか・かへる・む・）
○言は危亡（の）［之］難（二）有（二）（る）は・將に就（ツ）キ—往ク（二）所（二）（返）无（返）（か）ラント［將］（再讀）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-170・注）（・つく・ゆく・なし・む・と・す・）
○●候—人は小—人近（チカツ）クルことを刺レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-170）（・ちかづく・そしる・り・）
○共公・君子を遠ケ而好（サテコノ）（み）て小人を近（ちかツ）ク［焉］。（群書治要巻三〔毛詩〕-170）（・さく・このむ・ちかづく・）
○彼の候—人［兮］・戈（平）與殺（去）［與］（再讀）を荷（モ）タリ（群書治要巻三〔毛詩〕-171・注）（・タイ・もつ・り・）（「殺」字、左傍「都外反」三字あり）
○候人は道—路に・賓—客を送リ—迎（ムカ）フル者（モノ）（なり）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-172・注）（・をくる・むかふ・）
○荷は揭（ケツ）（入）（なり）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-172・注）（・ケツ・）
○殺は殳（シユ）（平）（なり）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-172・注）（・シユ・）
○言は賢—者（の）［之］官・候—人に過（ス）キ不（群書治要巻三〔毛詩〕-172・注）（・すぐ・）
○彼（カ）ノ［其］之（コ）ノ子（音）・三百の赤—芾（フツ）（入）セリ（群書治要巻三〔毛詩〕-172）（・かの・この・セキフツ・す・り・）（「其」字、左傍「不讀」二字あり・「芾」字、左傍「音弗」二字あり）
○々（芾）は韡（ヒツ）（なり）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-173・注）（・ヒツ・）

（「韡」字、左傍「音必」ニ字あり）
○大夫以上は赤―芾シて軒（返）に乗ル。（群書治要巻三〔毛詩〕－173・注）（・す・のる・）
○赤―芾を佩ヘル者（もの）三百人（群書治要巻三〔毛詩〕－173・注）（・をぶ・り・）

小雅

○既に飲―食（去）シ［之］・又（た）幣―帛を筐（キヤウ）（平）―篚（ヒ）（上）（返）に實（イ）レて以て其（の）厚―意を將（ヲコナ）フ。（群書治要巻三〔毛詩〕－175）（・す・キヤウヒ・いる・をこなふ・）
○然て後に忠―臣・嘉―賓・盡（ツ）（くる）こと其（の）心を得（ウ）［矣］（群書治要巻三〔毛詩〕－176）（・つく・う・）（本行にある「壽」字、見せ消ちあり、左傍に「嘉」字、補っており）
○呦（イウ）（平）―々（呦）トシテ鹿鳴（カ）ク。（群書治要巻三〔毛詩〕－177）（・イウイウ・と・す・て・か・なく・）
○野（の）［之］苹（音）（平）を食（ハ）ム（群書治要巻三〔毛詩〕－177）（・はむ・）
○鹿（音）・苹―草（返）を得て呦―々（呦）―然トシて鳴（ナ）イ而（て）相（ひ）―呼フ。（群書治要巻三〔毛詩〕－178・注）（・と・す・なく・よぶ・）
○懇―誠・［于］中（ウ）（ち）に發（音）す。（群書治要巻三〔毛詩〕－178・注）（・うち・）
○以て興（たと）（タラク）は賓―客を嘉―樂（入）スルこと・當に懇（去）―誠（返）有（り）て相（ひ）招（マネ）（き）―呼（ヨ）（ひ）て以て禮（返）を盛（サカリ）（一）ニス［當］（再讀）（ヘ）（二）キ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－178・注）（・たとへたらくは・す・まねく・よぶ・さかりなり・す・べし・）
○瑟（返）を鼓（音）シ・笙を吹（く）。（群書治要巻三〔毛詩〕－179）（・す・）
○筐（音）（返）を承（サ、）ケて是レに將（コオコナ）フ（群書治要巻三〔毛詩〕－179）（・ささぐ・これ・おこなふ・）
○筐―篚屬は幣―帛を行（ヲコナ）フ所―以ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－180・注）（・をこなふ・なり・）
○●皇―々（皇）―者―華は君（訓）・使（ツかひ）臣を遣（ヤ）レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－181）（・つかひ・やる・り・）
○送ルに［之］・禮―樂（返）を以テシて遠（トホウ）シ而（て）光―華有ルことを言フ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－181）（・をくる・もてす・とほうす・あり・いふ・）
○言は臣使（返）（返）に出て能ク君（の）［之］美（返）を揚ケて其（の）譽（ホマレ）を［於］四方（返）に延（ノ）フルを以て則（ち）君命（一）を辱（ハツカシ）（二）（返）メ不（ス）（返）と爲（す）［之］［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－182・注）（・よく・あぐ・ほまれ・のぶ・はづかしむ・ず・）
○皇―々（皇）タルは［者］華（訓）ナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－183）（・たり・なり・）
○忠臣使（返）を奉（ウケタマ（は））（り）て能ク君―命を光（チラ）スこと・遠（返）シと无ク・近（返）シと无ク・華高―下（返）を以て其（の）色（一）を易（カ）（二）へ不（三）（る）か如（四）シ［矣］（群書治要巻三〔毛詩〕－183・注）（・うけたまはる・よく・ちらす・とほし・なし・ちかし・なし・かふ・ごとし・）
○遠（返）（し）と无ク近（返）（し）と无（き）トイハ・惟（た）之（返）ク所ノマヽに則（ち）然（訓）スルソ［之］［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－184・注）（・なし・といは・ゆく・の・ままに・しかす・ぞ・）
○駪（シン）（平）―駪タル徵（平）―夫・懷（ヤハラケ）リト（傳）毎（イフト）モ（傳）及（ふ）靡（ナ）カレ（傳）［イ、懷ハヽ（箋）毎（箋）（コト）（に）及（ふ）靡（ナ）ケン（箋）］（・シンシン・たり・やはらぐ・り・と・いふとも・なし・をもふ・ば・ごと・なし・む・）（群書治要巻三〔毛詩〕－184）○（「駪」字、左傍「所巾反」三字あり）

○衆（モロ〳〵）の行―夫・既に君―命（返）を受ケて當に速（スみやか）に行ク。（群書治要巻三〔毛詩〕-185・注）（・もろもろ・うく・すみやかなり・ゆく・）
○人（返）毎に・其（の）私（返）を懐（フモひ）て相（ひ）稽（平）―留セは［則］王―事（返）に於て將に及（返）（ふ）所（返）無（返）ランと［將（す）］（再讀）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-186・注）（・をもふ・す・なし・む・）
○●常―棣（去）は兄―弟を燕（去）セリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-187）（・す・り・）
○管蔡か［之］道（返）失（一）ヘルことを閔（カナシ）（二）フ。（群書治要巻三〔毛詩〕-187）（・うしなふ・かなしぶ・）
○故に常棣を作ル［焉］（群書治要巻三〔毛詩〕-187）（・つくる・）
○周公・二―叔［之］減（ヤハラ）（返）カ不シ而（スて）兄弟（の）［之］恩（返）を使て疏（シウト）（一）カラ使（シ）（二）（む）ことを弔（イタ）（三）ム。（群書治要巻三〔毛詩〕-188・注）（・やはらぐ・ず・す・うとし・しむ・いたむ・）（本行にある「戚」字見せ消ちあり、右傍に「減」字、補っており・本行にある「弗」字、見せ消ちあり、右傍に「弔」字、補っており・「之」字、補充符により、補っており）
○召公・爲（タメ）に・是の詩を作（り）而（テ）之（返）（を）歌（ひ）て以て親（音）す［之］（群書治要巻三〔毛詩〕-188・注）（・ために・）
○常棣（の）［之］華（訓）アリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-189）（・あり・）
○蕚（入濁）ノ（箋）［イ、蕚トシテ（傳）］不（箋）煒（キ）―々（煒）タリ（箋）［イ、煒々（カク）（煒）タラ（傳）不（サ）ランヤ（傳）］（群書治要巻三〔毛詩〕-189）（・がく・の・がく・と・す・て・あし・キキ・たり・たり・ず・む・や・）
○華（返）（を）承（ウケタ）ル者（モの）を蕚（返）と曰（ふ）。（群書治要巻三〔毛詩〕-189・注）（・うけたる・）
○不（音）は「イ、不を」當に跗（フ）（平）（返）に作（返）ル［當］（し）。（群書治要巻三〔毛詩〕-189・注）（・フ・つくる・）
○々（跗）は蕚の足（アシ）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-189・注）（・あし・）
○蕚足・華（の）［之］光明（返）を得て煒―々（煒）―然タリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-190・注）（・たり・）（「足」字、補充符により、補っており）
○興（たとへ）（タラク）は［者］喩フ・弟は敬（返）（返）を以て兄（返）に事（ま）リ・々（兄）は榮（返）（返）を以て弟（返）を覆（フホ）フに。（群書治要巻三〔毛詩〕-190・注）（・たとへたらくは・たとふ・まつる・をほふ・）
○恩―義［之］顯（アキラカ）ナルこと・亦（た）煒―々（煒）―然タリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-190・注）（・あきらかなり・たり・）
○凡（そ）・今（の）［之］人・兄弟に如（シ）クは莫シ（群書治要巻三〔毛詩〕-191）（・しく・なし・）
○人（の）［之］恩―親・兄弟［之］最（モト）モ厚（アツ）キに如（シ）クこと無（し）［之］（群書治要巻三〔毛詩〕-191・注）（・もとも・あつし・しく・）
○鶺（セキ）（入）―鴒（レイ）（平）原（音）（返）に在（り）。（群書治要巻三〔毛詩〕-192）（・セキレイ・）
○飛（ふ）トキンハ［則］鳴ク。（群書治要巻三〔毛詩〕-192・注）（・ときんば・なく・）
○行（ユ）クトキンハ［則］搖（ユラ）ク。（群書治要巻三〔毛詩〕-192・注）（・ゆく・ときんば・ゆらく・）
○自―舍（去）スルこと能（は）不（る）こと・爾（り）。（群書治要巻三〔毛詩〕-192・注）（・す・）
○急―難ニスト言ハは兄弟［之］［於］急―難（一）を相（ひ）―救（ふ）ソ［矣］（群書治要巻三〔毛詩〕-192・注）（・なり・す・と・いふ・ぞ・）
○良―朋（一）有（二）（る）と毎（イヘト）モ・況（コヽ）ニ［也］・永ク嘆ク（群書治要巻三〔毛

詩〕-193）（・いへども・ここに・ながし・なげく・）
○急―難（の）［之］時に當（り）善キ同―門來レルこと有（る）と雖（も）・茲に之（返）（に）對（ひ）て長ク嘆クラク而＿已（み）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-194・注）（・あたる・よし・く・り・ここに・むかふ・ながし・なげく・らく・）（本行にある「月」字、消しており、右傍に「同」字は、補っており）
○兄弟［于］牆に鬩ク。（群書治要巻三〔毛詩〕-194）（・せめぐ・）
○外には其（の）侮を禦ク（群書治要巻三〔毛詩〕-194）（・あなどり・ふせく・）（本行にある「御」、「其」見せ消ちあり、「禦」、「其」は左傍に補っており・「侮」字、左傍「務本乍」三字あり）
○鬩（入）は狠（去）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-195・注）（・げき・）
○兄弟・内に鬩クと雖（も）・外に猶（ほ）侮を禦ク［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-195・注）（・せめぐ・ふせく・）
○●伐―木は朋―友故―舊（一）を燕（去）（二）セリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-196）（・す・り・）
○天子以＿下自（り）［於］庶人に至ルマ（て）に・未（た）友（返）（返）を須（返）タ不シて以て成ル＿者（一）有（二）（り）。（群書治要巻三〔毛詩〕-196）（・いたる・まで・まつ・ず・す・なる・）
○々（親）（返）を親シて以て睦ヒ・賢（返）を友トシて棄（返）（て）不。（群書治要巻三〔毛詩〕-197）（・むつぶ・とも・と・す・）（本行にある「睡」字、見せ消ちあり、右傍に「睦」字、補っており、左傍に「二字本无」四字あり）
○故―舊（一）を遺（二）レ不ルトキンハ・［則］民の德厚キに歸ル［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕-198）（・わする・ず・ときんば・あつし・よる・よる・）
○木（を）伐ル丁―々（丁）［イ、丁々（丁）］。（群書治要巻三〔毛詩〕-198）（・きる・タイタイ・タウタウ・）（「丁」字、左傍「陟耕反」三字あり）
○鳥の鳴クこと嚶（平）―々（嚶）タリ（群書治要巻三〔毛詩〕-199）（・なく・アウアウ・たり・）
○丁―々（丁）嚶―々（嚶）は相（ひ）切―直スルソ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-199・注）（・す・ぞ・）
○言は昔＿日・未（た）位に居ラ［未］（再讀）友―生與・山―巖シて木（返）を伐（り）て勤―苦の［之］事を爲シカトモ猶（ほ）道―德（返）を以て相（ひ）政正す［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-199・注）（・むかし・をり・す・す・き・ども・）
○其（の）鳴ク［之］志（訓）・［於］朋―友の道（一）有（二）（る）ことに似（三）ルこと・然リ。（群書治要巻三〔毛詩〕-199・注）（・なく・のる・しかり・）
○故に連ネて言フ［之］［也］［呼］（群書治要巻三〔毛詩〕-200・注）（・つらぬ・いふ・）
○幽―谷（返）自リ出て［于］喬（平）―木に遷ル（群書治要巻三〔毛詩〕-200）（・より・うつる・）
○遷（平）は徙（上）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-201・注）（・シ・）
○嚮＿時ノ［之］鳥（一）を謂（二）フ。（群書治要巻三〔毛詩〕-201・注）（・さき・の・いふ・）
○深―谷從リ出（て）今移（り）て高―木に處リ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-201・注）（・より・をり・）（本行にある「徒」字、見せ消ちあり、「從」字右傍に補っており・本行にある「足」字、消しており）
○嚶トシて其レ鳴ク［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕-201）（・アウ・と・す・それ・なく・）
○其（の）友を求ル聲（訓）アリ（群書治要巻三〔毛詩〕-202）（・もとむ・あり・）

○君子・[於]高―位に遷（し）處リと雖（も）・以て其（の）朋―友を忘ル可（から）不[也]（群書治要巻三〔毛詩〕-202・注）（・をり・わする・）
○彼（の）鳥を相レ[矣]・猶（ほ）友（返）を求ル聲アリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-202）（・みる・もとむ・あり・）
○矧ヤ・伊ノ―人[矣]・友―生を求（め）不ランヤ（群書治要巻三〔毛詩〕-203）（・いはんや・この・ず・む・や・）
○矧（上）は況[也]（群書治要巻三〔毛詩〕-204・注）（・シン・）
○鳥尚ホ・高木（返）に居（り）て其（の）友を呼フことを知リ。（群書治要巻三〔毛詩〕-204・注）（・なほ・よばふ・しる・）（本行にある「々」、見せ消ちあり）
○況ヤ是（の）人乎。（群書治要巻三〔毛詩〕-204・注）（・いはむや・や・）（「況」字、補充符により、補っており）
○之求（め）不（る）可ケン乎[也]（群書治要巻三〔毛詩〕-204・注）（・べし・む・や・）
○●天―保は下上に報イタリ[也]（群書治要巻三〔毛詩〕-205）（・しも・かみ・むくゆ・たり・）
○君能ク々（下）（返）を下（りて）以（て）其（の）政（を）成（す）（群書治要巻三〔毛詩〕-205）（・よく・しも・くだる・）
○則（ち）臣亦（た）美（音）（を）歸セ（て）以（て）其の上（を）報ユ[焉]（群書治要巻三〔毛詩〕-205）（・よす・むくゆ・）（「臣亦」二字、右傍により補っており）
○天・爾を保シ―定ム。（群書治要巻三〔毛詩〕-207）（・やすんず・さだむ・）
○戩（上）―穀（一）（入）ナラは爾（返）（返）を俾（二）（め）て（群書治要巻三〔毛詩〕-207）（・センコク・なり・）（「戩」字、左傍「子浅反」三字あり）
○罄に宜カラ不トイフこと無（し）。（群書治要巻三〔毛詩〕-207）（・ことごとくに・よろし・ず・と・いふ・）
○天の百禄を受ク（群書治要巻三〔毛詩〕-207）（・うく・）
○戩は福[也]（群書治要巻三〔毛詩〕-208・注）（・セン・）
○天・汝を（返）使（め）て[所]福―禄スル[之]人（一）[使]（再讀）（二）ランコトイハは群―臣を謂（ふ）[也]（群書治要巻三〔毛詩〕-208・注）（・すたる・む・こと・いふ・）
○其の事（返）を舉スルこと・盡に其（の）宜（音）（返）を得て天（の）[之]多―禄を受ク（群書治要巻三〔毛詩〕-208・注）（・す・ことごとくに・うく・）（本行にある「々」、見せ消ちあり・「福」字見せ消ちあり、右傍「本无」二字あり）
○月（の）[之]恒ナルか如（し）（群書治要巻三〔毛詩〕-209）（・ゆはりなり・）
○日（の）[之]升ルか如（し）（群書治要巻三〔毛詩〕-209）（・のぼる・）（本行にある「昇」字、右傍合點がつく「升」字あり、「本」字あり）
○言は俱に進ムソ[也]（群書治要巻三〔毛詩〕-210・注）（・すすむ・ぞ・）
○月は上―弦に（し）而盈（平）（返）に就ク。（群書治要巻三〔毛詩〕-210・注）（・つく・）
○日は始て出（る）トキニシ而明（音）に就（く）[也]（群書治要巻三〔毛詩〕-210・注）（・ときに・す・）
○騫（返）ケ不・崩（返）レ不（群書治要巻三〔毛詩〕-210）（・かく・くづる・）
○騫（平）は虧（平）[也]（群書治要巻三〔毛詩〕-211・注）（・キ・）
○松―柏[之]茂キか如（し）。（群書治要巻三〔毛詩〕-211）（・もし・）
○爾に承（返）クルこと或（一）ラ不（二）（返）トイフこと無（し）（群書治要

巻三〔毛詩〕-211）（・なんぢ・うく・あり・ず・と・いふ・）
○松―柏（の）［之］枝―葉の常に茂―盛（去）ニシて青―々（青）と（し）て相（ひ）―承ケて衰へ―落（一）（つ）ルこと无（二）（き）か如（三）（し）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-212・注）（・ボウセイなり・す・うく・おとろふ・おつ・）
○●南―山有―臺は賢（音）（返）得（返）タル（を）樂（たの）シ へリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-212）（・たり・たのしぶ・り・）
○賢（返）を得ツルトキンハ［者］・則（ち）能（く）・邦家（一）（返）を爲（ヲサ）（二）メて太―平（の）［之］基（もと）（一）を立（二）ツ［矣］（群書治要巻三〔毛詩〕-213）（・つ・ときんば・をさむ・もとゐ・たつ・）（本行にある「本」字、見せ消ちあり、右傍に「太」字、補っており）
○人君・賢―者を得ツルトキンハ・［則］其（の）徳・廣―大・堅―固ナルこと・山（の）［之］基―趾（上）（一）有（二）（る）か如（三）（し）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-214・注）（・つ・ときんば・なり・）
○北―山に萊（ライ）（平）（返）有（り）（群書治要巻三〔毛詩〕-215）（・ライ・）
○臺は夫（フ）（平）―須（平）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-215・注）（・フシウ・）
○興（たとへた）は［者］山［之］草―木（一）（返）有（二）（り）て以て自（オのつか）（ら）・覆（フホ）ヒ―蓋（ラヒ）（ひ）て其（の）高―大（一）を成（二）（る）ことは・喩フ・人―君賢―臣（一）（返）有（二）（り）て自（オのつか）（ら）以て尊―顯ナルに［之］［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-215・注）（・たとへたらくは・おのづから・をほふ・をほふ・たとふ・おのづから・なり・）（215行にある「喩」字、見せ消ちあり、右傍に「本无」二字あり・「高」字は補充符により、補っており）
○只ノ君子（一）を樂（ラク）（二）す。（群書治要巻三〔毛詩〕-216）（・この・ラク・）
○邦―家（の）［之］基（もと）キ ナリ（群書治要巻三〔毛詩〕-216）（・もとゐ・なり・）
○只（シ）（上）かに［之］言は是（コト）（上）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-217・注）（・シ・ことは・）
○人君・既に賢―者（返）を得て之（こレ）を［於］位に置（ヲ）キ。（群書治要巻三〔毛詩〕-217・注）（・これ・をき・）（本行にある「倍」字、見せ消ちあり、右傍に「位」字は補っており）
○又（た）尊―敬シて禮―樂（返）を以て々（タノシ）（樂）フトキンハ［之］・則（ち）能（く）國家（の）［之］本（訓）（一）爲（タ）（二）リ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-217・注）（・す・たのしぶ・ときんば・たり・）
○●蓼（リク）（入）―蕭（セウ）（平）は澤（音）・四海（一）に及（二）へリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-218）（・リクセウ・およぶ・り・）
○蓼タル彼（の）蕭（音）［イ、蕭］アリ［斯］。（群書治要巻三〔毛詩〕-219）（・たり・よもぎ・あり・）（「斯」左傍に「辭字也」三字あり）
○零（平）―露滫（ショ）（去）タリ［兮］（群書治要巻三〔毛詩〕-219）（・ショ・たり・）
○滫々（滫）然は蕭（音）上（ウ）の露の貌（群書治要巻三〔毛詩〕-219・注）（・うへ・）
○興は［者］・蕭は香―物（の）［之］微（ヒ）ナル者。（群書治要巻三〔毛詩〕-220・注）（・び・なり・）（「微」字、補っており）
○亦（た）國君（の）［之］賤シキ―者ナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-220・注）（・いやし・なり・）（「國」字、補充符により。補っており）
○露は天の萬―物（一）を潤（ウルホ）（二）ス所―以ナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-220・注）（・うるほす・なり・）（本行にある「薄」字、見せ消ちあり、「萬」字右傍に、補っており）
○喩フ・王―者の恩―澤遠―國の爲（タメ）に則（ち）及（およホ）（返）サ不（ス）（一）ンハアラ

不（二）ルに［之］（群書治要巻三［毛詩］－220・注）（・たとふ・ために・およぼす・ずんば・あらず・）（本行にある「息」字、見せ消ちあり、右傍に「恩」字、補っており・「國」字補充符により補っており）

○既に君子（一）を見（二）レは・我か心寫リヌ［兮］（群書治要巻三［毛詩］－221）（・みる・うつる・ぬ・）

○既に君子を見レハトイハ［者］・遠國（の）［之］君・［於］天子（一）に朝（二）—見（去）スルソ［也］（群書治要巻三［毛詩］－221・注）（・みる・ば・といは・す・ぞ・）

○我か心寫ンヌトイハ［者］・其（の）情—意（一）（返）を舒（二）へて恨（返）を留ムル者（一）无（二）（し）ソ（群書治要巻三［毛詩］－222・注）（・うつる・ぬ・といは・のぶ・とどむ・ぞ・）

○燕（音）（去）シて咲（去）—語（上濁）す［兮］。（群書治要巻三［毛詩］－222）（・す・）（「子」字消しており、右傍に「兮」字、補っており）

○是（を）以て譽—（返）（返）有（り）て處リ［兮］（群書治要巻三［毛詩］－222）（・ほまれ・をり・）

○天子與之（返）［與］（再讀）・燕シ而咲—語スルトキンハ［則］・遠—國（の）［之］君・各（く）其（の）所（一）を得（二）。（群書治要巻三［毛詩］－223・注）（・これ・す・す・ときんば・う・）

○是（を）以て德—美（一）（返）を稱（二）—揚シて聲—譽（返）を使（ひ）て常に天子（一）に處（二）ラ［使］（再讀）（三）（む）［也］（群書治要巻三［毛詩］－223・注）（・す・をり・）

○●湛—露は天子諸侯（一）を燕（去）（二）セリ［也］（群書治要巻三［毛詩］－224）（・す・り・）

○湛湛タル露（訓）アリ［斯］。（群書治要巻三［毛詩］－224）（・たり・あり・）（「湛」字、補充符により補っており・「斯」字、左傍に「辭字也」三字あり）

○陽（返）に匪ラサレは晞（返）不（群書治要巻三［毛詩］－225）（・ひ・あらず・ヒ・）（「晞」字、右傍に補っており）

○晞（平）は乾（平）［也］（群書治要巻三［毛詩］－225・注）（・キ・）（「晞」字、右傍に補っており）

○露湛々（湛）然タリと雖（も）・陽（返）（返）を見て則（ち）乾ク。（群書治要巻三［毛詩］－225・注）（・たり・ひ・みる・かはく・）

○興（たとへた）は［者］露［之］物（返）に在（り）て湛々（湛）然とシて物—柯—葉（返）を使（ひ）て低レ—垂（一）ラ［使］（再讀）（二）（むる）ことは・喩フ・諸侯燕（去）—爵（一）（返）を受（二）（け）て其（の）威—儀・醉ヽル［之］貌（一）に似（二）（返）ルこと有（る）に。（群書治要巻三［毛詩］－225・注）（・たとへたらくは・す・たる・たる・たとふ・ゑふ・り・のる・）

○唯（た）天子・爵（返）を賜フトキンハ・［則］自—變シて肅—敬シて命（返）を承ク。（群書治要巻三［毛詩］－226・注）（・たまふ・ときんば・す・す・うく・）

○露の日（返）を見而晞ルに似ルこと有（り）［也］（群書治要巻三［毛詩］－226・注）（・ひる・のる・）

○厭（平輕）—々（厭）タル夜—飲・醉（返）不ンは歸（返）ルこと無（か）レ（群書治要巻三［毛詩］－226・注）（・たり・ずんば・かへる・なし・）（「厭」字、左傍に「於塩反」三字あり）

○●六月は宣王北—伐セリ［也］（群書治要巻三［毛詩］－227）（・す・り・）

○鹿—鳴・廢ルヽトキンハ・［則］和—樂缺ク［矣］。（群書治要巻三［毛詩］－227）（・すたる・ときんば・かく・）（「樂」字、左傍に「立洛」二字あり）

○出—車・廢（るゝときんは）・［則］功—力缺（く）［矣］。（群書治要巻三［毛

詩〕-232）（・シユツシヤ・）（「力」字、右傍に「臣本」二字あり）
○杙（テイ）—杜・廢（るゝときんは）・［則］師—衆（去）缺（く）［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕-233）（・テイト・）
○華—黍・廢（るゝときんは）・［則］奇（チク）—積（シ）缺（く）［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕-235）（・チクシ・）
○由—庚・廢（るゝときんは）・［則］陰—陽其（の）道—理（一）を失（二）フ［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕-236）（・うしなふ・）
○南—有—嘉—魚・廢（るゝときんは）・［則］賢—者安（返）（か）ラ不・下民其（の）所（一）を得（二）（返）不［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕-236）（・やすし・）
○崇—丘・廢（るゝときんは）・［則］萬物遂（返）ナラ不［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕-238）（・なり・）
○南—山—有—臺・廢（るゝときんは）・［則］國（の）［之］基（もと）（一）キ爲（二）タルこと・墜（ヲ）ツ［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕-238）（・もとゐ・たり・をつ・）
○由—儀・廢（るゝときんは）・［則］萬物其（の）道—理（一）を失（二）フ［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕-239）（・うしなふ・）
○蓼（リク）（入）—蕭（平）・廢（るゝときんは）・［則］恩—澤乖（ソム）ク［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕-240）（・リクセウ・そむく・）
○湛—露・廢（るゝときんは）・［則］萬國離（ハナ）ル［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕-240）（・はなる・）
○彤（トウ）—弓廢（るゝときんは）・［則］諸—夏衰フ［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕-241）（・トウキウ・おとろふ・）
○菁—々（菁）—者—莪・廢（るゝときんは）・［則］禮—儀（一）無（二）シ［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕-241）（・なし・）
○小雅・盡（コトゝ）クに廢（るゝときんは）・［則］四夷交（コモゝ）侵（ヲカ）シて中—國微（音）ナリ［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕-242）（・ことごとく・こもごも・をかす・なり・）
○六月に棲—々（棲）タリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-243）（・たり・）
○戎—車既に飭（タヽ）シ（群書治要巻三〔毛詩〕-243）（・ただし・）
○棲—々（棲）は簡—閱（エツ）（入輕）貌。（群書治要巻三〔毛詩〕-244・注）（・カンエツ・）
○六月（一）に記（シル）（二）スことは［者］・盛ナル—夏兵（返）を出（す）ソ。（群書治要巻三〔毛詩〕-244・注）（・しるす・さかんなり・ぞ・）
○其（の）急（音）（一）ナルことを明（アカ）す［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-244・注）（・なり・あかす・）
○玁（ケム）（上）—狁（イン）（上）か孔（ハナハ）タ熾（サカン）ナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-244）（・ケムイン・はなはだ・さかんなり・）
○我（われ）レ是レ用（ゐ）て急（音）ナリ（群書治要巻三〔毛詩〕-245）（・われ・これ・なり・）（「急」字左傍に補っており）
○熾（シ）（去）は盛（去）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-245・注）（・シ・）
○此（ここレ）は吉—甫（フ）か［之］意（一）を序（ツイ）（二）ツ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-245・注）（・これ・キツフ・ついつ・）
○北—狄・交（コモゝ）—侵（ヲカ）スこと［來（り）侵（すこと）］甚（た）熾ナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-245・注）（・こもごも・をかす・さかんなり・）（「來」字、左傍に補っており）
○故に王・是（返）（返）を以て急に我（返）を遣（ヤ）ル［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-245・注）（・やる・）
○●車（シヤ）—攻（コウ）は宣王・古（いにしへ）（返）に復（入輕）セリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕

- 247）（・シヤコウ・いにしへ・す・り・）（本行にある「攻」字、見せ消ちあり、右傍に「攻」字、補っており）

○宣王・能（く）内には政事（一）を修（二）メ・外には夷―狄（一）を攘（二）フ。（群書治要巻三〔毛詩〕- 247）（・をさむ・はらふ・）（「夷」字、補充符により左傍に補っており）

○文武（の）［之］境（上）―土（一）（返）に復（入輕）（二）シて車―馬（一）を修（二）メ・器―械（一）を備（二）フ。（群書治要巻三〔毛詩〕- 248）（・す・をさむ・キカイ・そなふ・）

○復タ・諸侯を［於］東都（一）に會（音）（二）す。（群書治要巻三〔毛詩〕- 249）（・また・）

○田―獵（一）に因（二）（り）而車―徒（一）を選（二）フ［焉］（群書治要巻三〔毛詩〕- 249）（・かぞふ・）

○我か車既に攻シ。（群書治要巻三〔毛詩〕- 251）（・かたし・）

○我（か）馬既に同シ（群書治要巻三〔毛詩〕- 251）（・ひとし・）

○四牡龐々（龐）タリ。（群書治要巻三〔毛詩〕- 251）（・ロウロウ・たり・）

○駕（音）セヨ・言東（返）に徂カレ（群書治要巻三〔毛詩〕- 251）（・す・われ・なし・）

○蕭―々（蕭）とシて馬鳴ク。（群書治要巻三〔毛詩〕- 252）（・す・いななく・）

○悠々（悠）旆（去）―旌（平）アリ（群書治要巻三〔毛詩〕- 252）（・ハイセイ・あり・）（本行にある「旌（方+亠+圭）」字、見せ消ちあり、右傍に「旌」字、補っており）

○言は讙（平）―嘩（平）ナラ不［也］（群書治要巻三〔毛詩〕- 253・注）（・クヱンカ・なり・ず・）（本行にある「譁」字、消しており、右傍に「讙」字、補っており）

○之の子（音）于に征ク。（群書治要巻三〔毛詩〕- 253）（・ここに・ゆく・）

○善―聞（一）有（二）（り）而讙―嘩（一）無（二）シ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕- 253・注）（・なし・）

○●鴻―鴈は宣王（一）を美（二）（め）タリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕- 254）（・たり・）

○萬―民離―散シて其（の）居（音）（一）を安（二）（返）セ不。（群書治要巻三〔毛詩〕- 254）（・す・やすんず・）

○而（て）能（く）・勞（去）―來（去）・遲（平）―定・安―集す［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕- 255）（・センテイ・）（「來」字、左傍に「力代反」三字あり・本行にある「還」字、見せ消ちあり、上注に補っており・「定」字、補充符により、補っており）

○［乎］鰥―寡（一）に至（二）に・其（の）所（一）を得（二）（返）不（返）トイフこと無（し）［焉］（群書治要巻三〔毛詩〕- 255）（・クワンクワ・までに・う・ず・と・いふ・）（「鰥」字、左傍に「矜本作」三字あり・本行にある「々」、「寡」見せ消ちあり）

○宣王・厲王の衰亂（の）［之］獘（一）に承（二）（け）而先王（の）［之］道（一）（返）を興（二）―復シて衆―民（一）を安（二）―集（返）スルを以て始と爲（群書治要巻三〔毛詩〕- 256・注）（・つひえ・す・す・はじめ・）

○鴻―鴈の于キ―飛フ。（群書治要巻三〔毛詩〕- 258）（・ゆく・とぶ・）

○［于］中澤（一）に集（二）ル（群書治要巻三〔毛詩〕- 258）（・ゐる・）

○鴻鴈（の）［之］性・澤―中（一）に居（二）（返）ルことを安す。（群書治要巻三〔毛詩〕- 258・注）（・をる・やすんず・）

○今飛（ひ）而又（た）［于］澤中（一）に集（二）ルは・猶（ほ）民の其（の）

居を去（り）而離—散セル・今・遲—定安—集（一）セラ見（二）ヽか［猶］（三）（再讀）（し）［之］［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－259・注）（・ゐる・さる・す・り・センテイ・す・らる・）

○之ノ子（音）于に垣ク。（群書治要巻三〔毛詩〕－259）（・この・ここに・かきつく・）

○百—堵皆（な）作ル（群書治要巻三〔毛詩〕－260）（・をこる・）（［皆］字、補充符により右傍に補っており）

○侯—伯・卿—士・又（た）壞—滅セル［之］國（一）（返）に於（二）て民（返）を徵シて屋—舍（一）を起（二）シ・牆—壁（一）を築（二）カシム。（群書治要巻三〔毛詩〕－260・注）（・す・り・めす・をこす・つく・しむ・）

○百—堵同—時シて起（る）。（群書治要巻三〔毛詩〕－260・注）（・す・）

○言は事（返）趨ル［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－261・注）（・をこる・）（本行に「常」字、消しており、「事」字、右傍に補っており）

○則（ち）劬—勞（一）スト雖（二）（も）・其（の）安—宅（一）に究（二）ンナン（群書治要巻三〔毛詩〕－261）（・す・と・いふとも・きはまる・む・ぬ・む・）

○此レ萬民を勸ムル［之］辭ナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－261・注）（・これ・すすむ・なり・）

○汝今・病—勞と雖（も）・安—居（一）スル所（二）（返）有（返）（る）に終ヘン［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－261・注）（・す・をふ・む・）（本行にある「苦」字、見せ消ちあり、「勞」字、右傍に補っており・本行にある「於」字、見せ消ちあり、「本无」二字注あり）

○●白—駒は大夫・宣王（一）を刺（二）レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－263）（・そしる・り・）

○其ノ賢（返）留（返）ムルこと能（返）（は）不（一）（る）ことを刺（二）ル［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－263）（・その・とどむ・そしる・）

○皎（上）々（皎）タル白駒・我か場（音）（平）［イ、場］の苗（一）を食（二）マヌカ。（群書治要巻三〔毛詩〕－264）（・たり・には・なへ・はむ・ぬか・）（［皎］字、左傍「古了反」三字あり）

○縶（入輕）シ［之］維（平）シ之以て今—朝（一）を永（二）セン（群書治要巻三〔毛詩〕－264）（・チフ・す・ヰ・す・ひさしうす・む・）

○宣王（の）［之］末に・賢（返）を用（返）（ゐ）ルこと能（返）（は）不。（群書治要巻三〔毛詩〕－265・注）（・するゑ・もちゐる・）

○々（賢）—者白駒に乘（り）而去ル者（一）有（二）（り）。（群書治要巻三〔毛詩〕－265・注）（・のる・さる・ひと・）（［去］字の右傍に「者」字、補っており）

○縶は絆（平）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－265・注）（・ケイ・）

○維は繫（去）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－265・注）（・ケイ・）

○願は此の去（る）—者・白駒（一）に乘（二）（り）而來（り）て我か場（音）の中（の）［之］苗（一）を食（二）（返）マ使メヌカ。（群書治要巻三〔毛詩〕－265・注）（・ひと・うち・はむ・しむ・ぬか・）

○我則（ち）絆（去）シ之・繫（去）シ之以て今—朝を久セン。（群書治要巻三〔毛詩〕－266・注）（・す・ケイ・す・ひさしうす・む・）

○愛シ之留（めむと）欲スルソ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－266・注）（・す・ほす・ぞ・）（本行にある「番」字、見せ消ちあり、左に「留」字、補っており）

○所（いは）謂ル・伊ノ—人・於（イツクン）焉カ逍—遥スラン（群書治要巻三〔毛詩〕－267）（・いはゆる・この・いつくんか・す・らむ・）

○白駒に乗（り）而去ル［之］賢人・今於（イック ン）—何か游—息スラン乎（ヤ）。（群書治要巻三［毛詩］-267・注）（・さる・いつくんか・す・らむ・や・）（「於」字、補充符により左傍に補っており）

○思フコトノ［之］甚ナリ［矣］（群書治要巻三［毛詩］-267・注）（・をもふ・こと・の・なり・）

○●節—南—山は家—父・幽—王を刺レリ［也］（群書治要巻三［毛詩］-268）（・そしる・り・）

○家—父は字（アサナ）は周の大夫［也］（群書治要巻三［毛詩］-268・注）（・あざな・）

○節タル・彼の南山・維レ石（訓）巖—々（巖）タリ（群書治要巻三［毛詩］-269）（・たり・これ・たり・）

○巖々（巖）は積レル—石の貌。（群書治要巻三［毛詩］-269・注）（・つもる・り・）

○（たと〈）興（タラク）（は）［者］喩フ・三公（の）［之］位は人の尊—嚴スル所ナルに［也］（群書治要巻三［毛詩］-269・注）（・たとへたらくは・たとふ・す・なり・）（「之」字、補充符により右傍に補っており）

○赫（入）—々（赫）タル師—尹・民具（トモ）に爾（ナ（んち））を瞻（ミ）る（群書治要巻三［毛詩］-270）（・カクカク・たり・ともに・なんぢ・みる・）（「君」字、見せ消ちあり、「尹」字補っており）

○師は大師周（の）［之］三公ナリ。（群書治要巻三［毛詩］-270・注）（・なり・）（「周」字右傍に補っており）

○尹氏は太師爲（タ）リ。（群書治要巻三［毛詩］-271・注）（・たり・）

○天下（の）［之］民・俱（トモ）に汝（ス）か［之］爲ル所を視ル［也］（群書治要巻三［毛詩］-271・注）（・ともに・す・みる・）（「天下之民」補充符により、右傍に補っており）

○國既に卒（コト〈ク）に斬（タエ）ヌ。（群書治要巻三［毛詩］-271）（・ことごとくに・たえる・ぬ・）

○何（ナ（に））を用（モチ）（ふ）か監（ミサ）不ラむ（群書治要巻三［毛詩］-272）（・なに・もちふ・みる・ず・）

○天下（の）［之］諸侯・日（ヒ）に・侵—伐シて其（の）國已に盡（こと〈〉ク）に絶（え）—滅（ひ）タリ。（群書治要巻三［毛詩］-272・注）（・ひびに・す・ことごとくに・たり・）（本行にある「相」字、左傍に「本无」二字あり）

○汝何を用（モ）て職（トモ）（返）と爲（シ）て監—察セ不ルヤ［之］（群書治要巻三［毛詩］-273・注）（・もて・もと・す・す・ず・や・）

○正月は大夫・幽—王を刺レリ［也］（群書治要巻三［毛詩］-274）（・そしる・り・）

○正月に・霜（訓）（返）繁（ヲホ）シ。（群書治要巻三［毛詩］-275）（・をほし・）

○我か心憂へ—傷ム（群書治要巻三［毛詩］-275）（・うれふ・いたむ・）

○夏（の）［之］四月に（し）而（て）霜多シ。（群書治要巻三［毛詩］-275・注）（・をほし・）

○急（音）ナルトキンハ恒（ツ（ね））に寒（音）（の）［之］異（イミ）（返）ヲ若（シタカフ）て萬物を傷—害す。（群書治要巻三［毛詩］-275・注）（・なり・ときんば・つねに・いみ・を・したがふ・）（「本行にある「也」字、見せ消ちあり）

○故に我（か）心之（コレ）（返）か爲に・憂へ—傷ム［也］（群書治要巻三［毛詩］-276）（・これ・うれふ・いたむ・）（「我」字、補充符により、補っており）

○民（の）［之］訛—言・亦（た）孔（ハナハ）タ［之］將（オホイ）ナリ（群書治要巻三［毛詩］-276）（・はなはだ・おほいなり・）

○人・僞—言（返）を以て相（ひ）陷（ヲト）シ—入（イ）レて王（返）を使て酷（入）—暴（の）［之］刑（返）を行（ひ）て此（の）灾—異を致（ら）［使］（再讀）（む）。（群書

治要巻三〔毛詩〕-277・注）（・をとす・いる・）（本行にある「言」字、見せ消ちあり、「異」字、右に補っており）
○故に甚（た）大（訓）ナリと言フ。（群書治要巻三〔毛詩〕-277・注）（・おほきなり・いふ・）
○天を蓋（し）高（一）シと謂（二）フ。（群書治要巻三〔毛詩〕-277）（・たかし・いふ・）
○敢て局（セクマ）ラ不（ス）ンハアラ不（ス）。（群書治要巻三〔毛詩〕-277）（・せくぐまる・ずんば・あり・ず・）（「局」左傍に「本文乍蹋」四字あり）
○地を蓋（し）厚シ（一）と謂（二）（ふ）。（群書治要巻三〔毛詩〕-278）（・あつし・）
○敢て踏（返）（ヌキアシ）セ不（ス）（一）ンハアラ不（二）（群書治要巻三〔毛詩〕-278）（・ぬきあし・ずんば・あり・）
○踏（セキ）（入輕）は足を累（カサ）ヌルソ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-278・注）（・セキ・かさぬ・ぞ・）
○此は民王政（返）を疾（ニク）ミ苦（クル）シンて上下皆（な）畏（返）ル可キ（と）［之］言（イ）ヒナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-278・注）（・にくむ・くるしぶ・おそる・べし・いふ・なり・）（本行にある「有」字、見せ消ちあり）
○哀（カナ）シイカナ・今（の）［之］人・胡（ナン）ソ虺（クキ）（上）―蜴（セキ）（入）を爲（ス）ル（群書治要巻三〔毛詩〕-279）（・かなし・かな・なんぞ・クキセキ・す・）
○々（虺）々（蜴）（の）［之］性・人を見ては・則（ち）走ル。（群書治要巻三〔毛詩〕-279・注）（・はしる・）
○哀（しい）哉・今（の）［之］人・何（ナンスレ）―爲ソ是（返）の如キナル。（群書治要巻三〔毛詩〕-280・注）（・なんすれぞ・ごとし・なり・）
○時の政を傷（イタ）ンテナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-280・注）（・いたむ・て・なり・）
○燎（ヒ）の［之］方に揚（サカン）ナルトキニ・寧（そ）滅（ケ）ツこと或（ア）レヤ［之］（群書治要巻三〔毛詩〕-280）（・ひ・さかんなり・ときに・けつ・あり・や・）
○滅（ケ）ツに［之］・水を以（つ）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-281・注）（・けつ・）（本行にある「者」字、見せ消ちあり、右傍に「以」字、補っており）
○燎（ヒ）（の）［之］方に盛ナル［之］時に炎―熾（去）シ・熛（平）―怒す。（群書治要巻三〔毛詩〕-281・注）（・ひ・さかんなり・す・）
○寧（そ）・能ク滅（ケ）チ―息（ヤム）ル［之］者（モノ）有ラン乎。（群書治要巻三〔毛詩〕-281・注）（・よく・けつ・やむ・あり・む・）（「乎」字、補充符により、補っており）
○言（いふ）（コヽロ）は有（返）（る）こと無（し）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-281・注）（・いふこころは・）（「言」字、補充符により、右傍に補っており）
○有（返）（る）こと無（返）（き）を以て有（返）に喩（ふ）ことは［之］［者］甚（た）と爲（ス）ルナリ［之］（群書治要巻三〔毛詩〕-281・注）（・す・なり・）
○赫々（赫）タル宗―周を・褒（ホウ）（平）―姒（シ）（上）威（ホロホ）ス［之］（群書治要巻三〔毛詩〕-282）（・たり・ホウシ・ほろぼす・）（本行にある「滅」字、見せ消ちあり、「威」字、左傍に補っており）
○威（入）は滅（ケ）ツ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-282・注）（・けつ・）（「威」字、補充符により、右傍に補っており）
○褒（の）［之］女（ムスメ）に有（り）・幽王惑（マト）フ［焉］。（群書治要巻三〔毛詩〕-282・注）（・むすめ・まどふ・）
○詩人・其（れ）必す周（返）を滅（ホロホ）（一）サンことを知（二）レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-283・注）（・ほろぼす・む・しる・り・）
○●十―月之―交は大夫幽（イウ）―王（傳）［イ、幽王（箋）］（レイ）を刺レリ［也］（群書治

要巻三〔毛詩〕－284）（・イウオウ・レイオウ・そしる・り・）
○十月之交（音）・朔日辛―卯に・日蝕セルこと（返）有（り）［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕－285）（・ひ・をかす・り・）（本行にある「月」字、見せ消ちあり、「日」字、右傍に補っており）
○亦（た）孔タ［之］醜シ（群書治要巻三〔毛詩〕－285）（・はなはだ・あし・）
○日食は陽（返）を陰侵シ・臣君（返）を侵ス［之］象ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－286・注）（・す・をかす・なり・）（「也」字、補充符により、補っており）
○辛（平輕）は金（訓）ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－286・注）（・なり・）
○卯は木（訓）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－287・注）（・ハウ・）
○故に甚（た）悪シ［之］［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－287・注）（・あし・）
○彼の月（訓）にシ而蝕スルは［則］維レ其（の）常ナリ（群書治要巻三〔毛詩〕－287）（・をかす・り・これ・なり・）
○此（の）日（訓）にシ而蝕スルは于に何ソ臧（返）カラ不ル（群書治要巻三〔毛詩〕－287）（・をかす・り・ここに・なんぞ・よし・ず・）（本行にある「否」「臧」二字、見せ消ちあり、「不」「臧」二字、右傍に補っており）
○百川沸キ―騰ル。（群書治要巻三〔毛詩〕－288）（・わく・のぼる・）
○山の冢崒タル崩ル（群書治要巻三〔毛詩〕－288）（・みね・シュツ・たり・くづる・）（「崒」字、補充符により補充しており）
○沸（去）は出［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－289・注）（・ヒ・）
○山（の）頂を冢と曰フ。（群書治要巻三〔毛詩〕－289・注）（・みね・いふ・）
○百川沸（き）―出相（ひ）て乗（去）―浚スルコトハ［者］小人（一）を貴（二）（返）フルに由テナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－289・注）（・す・こと・は・たうとぶ・よて・なり・）（本行にある「申」字、見せ消ちあり、「由」字、右傍に補っており）
○山の頂の崔―嵬タル者崩ル丶ことは君道壊ルレハナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－289・注）（・みね・たり・くづる・やぶる・ば・なり・）（本行にある「喻」字、見せ消ちあり、左傍に「本无」二字あり）
○高―岸（去濁）は谷（訓）（返）と爲ル。（群書治要巻三〔毛詩〕－290）（・なり・）
○深―谷は陵（返）と爲ル（群書治要巻三〔毛詩〕－290）（・をか・なり・）
○小人は上に處リ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－290・注）（・をり・）
○哀シイカナ今（の）［之］人・胡ソ〓〔亠+朁〕テ懲ル丶こと莫キ（群書治要巻三〔毛詩〕－290）（・かなし・かな・なんぞ・かつて・こる・なし・）
○〓〔亠+朁〕（上）は曾［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－291・注）（・セン・）
○禍―亂方に至レ・哀（しい）哉・今の在―位（の）［之］人・何ソ曾て道―德を以て止（二）ムルことに無（二）キ［之］［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－291・注）（・まさに・なる・なんぞ・かつて・やむ・なし・）（本行にある「興」字、見せ消ちあり、右傍に「至」、「哉」、「何」三字、補っており）
○黽（去濁）―勉（上濁）シて事（訓）に從フ。（群書治要巻三〔毛詩〕－292）（・ビンベン・す・したがふ・）（「黽」字、右傍に補っており）
○敢て勞（音）を告ケ不（群書治要巻三〔毛詩〕－292）（・つぐ・）
○詩人・賢―者・時の是（返）の如（く）ことを見て自（ら）勉メて以て王事に從フ。（群書治要巻三〔毛詩〕－292・注）（・みづから・つとむ・したがふ・）
○勞（返）スト雖（も）・敢て自（ら）勞（返）を爲（返）と謂（返）（一）（は）不（二）。（群書治要巻三〔毛詩〕－293・注）（・す・と・）
○刑―罰に畏リテナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－293・注）（・おそる・

て・なり・）

○罪（音）（返）無ク・辜（音）無（し）。（群書治要巻三〔毛詩〕－293）（・なし・コ・）（本行にある「事」字、消しており、左に「辜」字、補っており）

○讒―口囂（平濁）々（囂）タリ（群書治要巻三〔毛詩〕－293）（・ガウガウ・たり・）（本行にある「囂」字、見せ消ちあり、左傍に「囂」字、補っており）

○時人・辜―罪（二）有（二）（返）（る）に非（す）其レ讒―口（返）を被（り）て椓（入）―譖セラ見丶こと・囂―々（囂）―然タリ（群書治要巻三〔毛詩〕－294・注）（・それ・かうぶる・タクシン・す・らる・たり・）

○●小―旻（平濁）は大夫幽―王（傳）〔イ、幽王（箋）〕を刺レリ〔也〕（群書治要巻三〔毛詩〕－295）（・セウビン・イウオウ・レイオウ・そしる・り・）

○謀の臧キに従（は）不。（群書治要巻三〔毛詩〕－296）（・よし・）

○臧（返）（から）不ルをは覆（り）て用（ゐ）ル（群書治要巻三〔毛詩〕－296）（ず・かへる・もちゐる・）

○其（の）善（返）カラ不（る）者（もの）をは反（り）て用（ゐ）ル〔之〕〔也〕（群書治要巻三〔毛詩〕－296・注）（・よし・もちゐる・）

○我か龜（平）既に厭キヌ。（群書治要巻三〔毛詩〕－297）（・あく・ぬ・）

○我（われ）に猶（傳）「イ、猶（箋）」を告ケ不（群書治要巻三〔毛詩〕－297）（・われ・みち・はかりこと・つぐ・）

○卜―筮（シヘ）シ而龜（て）を瀆（ケカ）ス。（群書治要巻三〔毛詩〕－297・注）（・しばしば・す・けがす・）

○々（龜）―靈厭（アて）イ之復（た）其（の）圖（返）ル所の〔之〕吉―凶を告（け）不〔也〕（群書治要巻三〔毛詩〕－297・注）（・あく・はかる・）

○謀―夫孔（ハナハ）夕多シ。（群書治要巻三〔毛詩〕－298）（・はなはだ・をほし・）

○是（コヽラ）（を）―用（モナ）て集（返）ラ不（群書治要巻三〔毛詩〕－298）（・ここら・もつ・なる・）

○事（返）謀（る）者（もの）衆―多ナレトモ而モ賢―者に非（す）。（群書治要巻三〔毛詩〕－298・注）（・なり・ども・しかも・）（「多」字、補充符により、右傍に補っており）

○是―非相（ひ）―奪（ひ）て適（テキ）トシて從（返）フ可（二）（き）莫（二）シ。（群書治要巻三〔毛詩〕－299・注）（・テキ・と・す・したがふ・なし・）（「是」字、補充符による右傍に補っており・「知」、「過」二字見せ消ちあり、「適」、「可」二字、右傍に補っており）

○故に爲（ス）（返）ル所・成（返）ラ不〔也〕（群書治要巻三〔毛詩〕－299・注）（・す・なる・）

○言（コト）（返）を發スこと・庭に盈チリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－299）（・こと・をこす・みつ・り・）

○誰か敢て其の咎（訓）を執（ト）ラむ（群書治要巻三〔毛詩〕－299）（・とる・）（本行にある「々」、見せ消ちあり・「咎」字、右傍に補っており）

○事（音）（返）を謀ル者（もの）衆（音）にシて＝〔言+凶〕々（＝〔言+凶〕）トシて庭（返）に滿（ち）レトモ・而モ・能（く）是―非を決―當（去）スルこと無（し）。（群書治要巻三〔毛詩〕－300・注）（・はかる・す・と・す・みつ・ども・しかも・す・）（「＝〔言+凶〕」左傍に、「立凶」二字あり）

○事若（し）成（ら）不（む）は・誰か己（をのレ）其（の）咎―責（二）に當（二）（る）と云（イ）（三）ハン者（モノ）ヤ（群書治要巻三〔毛詩〕－300・注）（・をのれ・いふ・む・もの・や・）（本行にある「受」字、見せ消ちあり）

○言は小人智（返）（を）争（アらそ）（ひ）而過（てアやまち）を讓ル（群書治要巻三〔毛詩〕－301・注）（・あらそふ・あやまち・ゆづる・）（本行にある「之」字、見せ消ちあり）

○彼の室を［于］道（一）に築（キツ）（二）ク謀（上）の如（下）シ。（群書治要巻三〔毛詩〕‐302）（・きづく・ごとし・）
○是（を）＿用て［于］成（音）（一）を潰（ト）（二）（返）ケ不（群書治要巻三〔毛詩〕‐302）（・とぐ・）（本行にある「々」、見せ消ちあり）
○潰（去）は遂［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐302・注）（・クワイ・）
○路（返）に當（アタ）て室（返）を築（キツ）（一）クか如（二）シ。（群書治要巻三〔毛詩〕‐302・注）（・あたる・きづく・ごとし・）
○人を得而之（返）與爲（返）ン所（返）を謀ル。（群書治要巻三〔毛詩〕‐302・注）（・これ・す・む・はかる・）（「之」字、補充符により、右傍に補っており）
○敢て暴＿虎（一）セ不（二）。（群書治要巻三〔毛詩〕‐303）（・す・）
○敢て馮（ヒヨウ）（平）＿河セ不。（群書治要巻三〔毛詩〕‐303）（・ヒヨウカ・す・）
○人・其（の）一（音）（返）を知（シ）（り）て其（の）他を知ルこと莫（し）（群書治要巻三〔毛詩〕‐303）（・しる・）
○人皆（な）暴＿虎馮＿河の立チトコロに［之］害（一）に至（二）ルことを知（三）レリ。（群書治要巻三〔毛詩〕‐304・注）（・たつ・ところ・いたる・しる・り・）
○而（しかシ）て小＿人の能ク己（をのレ）（一）を危＿亡（二）センことを畏リ（三）＿慎（むに）當（四）（返）（つ）ことを知（返）（る）こと無シ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐304・注）（・しかして・よく・をのれ・す・む・おそる・なし・）
○●小宛は大夫幽（イウ）＿王（傳）［イ、幽王（箋）］を刺レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐304）（・イウオウ・レイオウ・そしる・り・）
○温＿々（温）タル恭＿人アリ（群書治要巻三〔毛詩〕‐305）（・たり・あり・）
○［于］木に集（ヲ）ルか如シ（群書治要巻三〔毛詩〕‐305）（・をる・ごとし・）
○墜（ヲ）（返）チンことを恐（る）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐305・注）（・をつ・む・）
○惴（スイ）（去）＿々（惴）タル小＿心・［于］谷に臨メルカ如シ（群書治要巻三〔毛詩〕‐306）（・スイスイ・たり・のぞむ・り・が・ごとし・）
○隕（ヲ）チランことを恐ル（群書治要巻三〔毛詩〕‐306・注）（・をつ・り・おそる・）
○戰々（戰）兢々（兢）トシて薄キ＿冰を履（フ）メルか如シ（群書治要巻三〔毛詩〕‐306）（・と・す・うすし・ひ・ふむ・り・ごとし・）
○衰＿亂（の）［之］世に・賢人君子・罪（返）無（返）（し）と雖（も）・猶（ほ）恐リ＿懼ル［猶］（再讀）（し）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐307・注）（・おそる・おそる・）（本行にある「過」、「懷」、「之」三字、見せ消ちあり）
○●小弁は幽王を刺レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐308）（・そしる・り・）
○太子（の）［之］傅・作ル［焉］（群書治要巻三〔毛詩〕‐308）（「傅」、左傍に「立付」二字あり）（・つくる・）
○踧（テキ）（入）＿々（踧）タル周道・鞫（キハマ（ル））て茂＿草と爲（ナ）レヌ（群書治要巻三〔毛詩〕‐309）（・テキテキ・たり・きはまる・なる・ぬ・）（「踧」字、左傍に、「徒歴反」三字あり）
○我か心憂へ＿傷む。（群書治要巻三〔毛詩〕‐310）（・うれふ・）
○怒（テキ）（入）＿焉タルこと擣（ムネウ）ツか如（し）。（群書治要巻三〔毛詩〕‐310）（・テキエン・たり・むねうつ・）（「怒焉」二字、右傍に補っており、本行にある「愁」字見せ消ちあり）
○假（上）＿寐にシて永ク嘆ク。（群書治要巻三〔毛詩〕‐310）（・す・ながし・なげく・）
○維レ憂へて用て老（い）ヌ。（群書治要巻三〔毛詩〕‐310）（・これ・うれ

ふ・ぬ・）

○心（の）［之］憂（うれへ）アリ［矣］。（群書治要巻三［毛詩］－311）（・うれへ・あり・）

○疢（ヤマ）シキこと首（カウベ）（返）に疾（ヤ）ム（返）か如シ（群書治要巻三［毛詩］－311）（・やまし・かうべ・やむ・ごとし・）

○怒（テキ）（入）は思（去）［也］（群書治要巻三［毛詩］－311・注）（・テキ・）

○冠（返）衣を脱（ヌ）カ不（スて）シ而寐（イ）ヌルを假―寐と曰（ふ）。（群書治要巻三［毛詩］－311・注）（・ぬぐ・ず・す・いぬ・）

○疢（チン）（上）は猶（ほ）病（去）［也］（群書治要巻三［毛詩］－312・注）（・チン・）

○維（れ）桑與梓（シ）（上）［與］（ト）（再讀）ヲ・必（す）［止］恭―敬す（群書治要巻三［毛詩］－312）（・シ・と・を・）（本行にある「心」字、見せ消ちあり、「止」字、右傍に補っており。下に「詞字也」三字あり）

○父（訓）（の）［之］樹（ウ）ヘタル所に・己（おのレ）尚（ほ）敢て恭―敬セ不（ス）ンハアラ不［也］（群書治要巻三［毛詩］－312・注）（・うう・たる・おのれ・す・ずんば・あらず・）

○瞻（ミ）ルトシて父（返）を匪（アラ）（二）ストイフこと靡（ナ）（二）シ。（群書治要巻三［毛詩］－313）（・みる・と・す・あらず・と・いふ・なし・）

○依（ヨ）ルトシて母（返）を匪（二）（す）トイフこと靡（二）シ。（群書治要巻三［毛詩］－313）（・よる・と・す・と・いふ・なし・）

○［于］毛（チ）（傳）［イ、毛（箋）］に屬（ツ）カ不（サ）ランヤ［イ、不（左、レヤ）］。（群書治要巻三［毛詩］－313）（・ちち・け・つく・ず・む・や・ず・や・）

○［于］裏（ハ）（傳）［イ、裏（箋）］に離（カ）ラ不（ら）ムヤ［イ、不（左、レヤ）］。（群書治要巻三［毛詩］－313）（・はは・うら・かかる・む・や・ず・や・）

○此は言は人其（の）父（返）を瞻（ミ）―仰（き）て法―則（二）を取（二）（ら）不（ス）（三）トイフ者（もの）（上）無（下）シ。（群書治要巻三［毛詩］－314・注）（・みる・ず・と・いふ・なし・）

○其（の）母（返）に依（り）―恃（タ（よ））（り）て以て長―大（二）セ不（二）（る）者（もの）（上）無（下）シ（群書治要巻三［毛詩］－314・注）（・たよる・す・なし・）

○今我か太子・獨（り）父の［之］皮―膚（の）［之］氣（二）を瞻―仰（二）（く）と得（三）（返）不（サ）ラン乎。（群書治要巻三［毛詩］－314・注）（・ず・む・）（「瞻仰」二字、補充符により補っており）

○母（の）［之］胞（ハウ）―胎（二）に處（ヲ）（二）（返）ラ不（らむ）乎。（群書治要巻三［毛詩］－315・注）（・ハウテイ・をり・）

○何ソ曾（カツ）て［於］我に恩无（し）［也］（群書治要巻三［毛詩］－315・注）（・なんぞ・かつて・）

○我か梁に逝（ヤナ）（ユ）クこと無（か）レ。（群書治要巻三［毛詩］－315）（・やな・ゆく・なし・）（「梁」字の下の「々」見せ消ちあり）

○我（か）筍（ウヘ）を發（アハ）クこと無（か）レ（群書治要巻三［毛詩］－315）（・うへ・あばく・なし・）

○人の梁（返）に之（ユ）イて人（の）筍を發（アハ）クは・此（は）必（す）魚（返）を盗ム［之］罪（一）有（二）（り）。（群書治要巻三［毛詩］－316・注）（・ゆく・あばく・ぬすむ・）（「魚」右傍に補っており、本行にある字見せ消ちあり）

○以て言は褒―姒・淫―色（返）を以て來て［於］王（返）に嬖（ヘイ）（去）セラレて我か太―子の母―子（の）［之］寵（一）を盗（二）メリ［也］。（群書治要巻三［毛詩］－316・注）（・ヘイ・す・らる・ぬすむ・り・）（一番目の「以」字、左傍に「本」字あり・二番目の「以」字、補充符により補っており）

○我か躬（ミ）スラ閱（イレ）（返）ラレ不（群書治要巻三［毛詩］－317）（・み・すら・いれる・り・）

○我か後（一）を遑（二）キ―恤ヘンヤ（群書治要巻三〔毛詩〕-317）（・いとまあく・うれふ・む・や・）
○父を念フは孝ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-318・注）（・おもふ・なり・）
○父を念（ふ）は孝は［者］・太子・王將に讒―言を受ルコトの・止（返）（ら）不（一）ランと［將］（二）（再讀）ルコトヲ念（三）フ。（群書治要巻三〔毛詩〕-318・注）（・うく・こと・ず・む・す・こと・を・をもふ・）
○我後（に）死（に）テ［之］・懼（おそ）ラクは復（た）讒（返）を被ル者（一）（返）有（二）（り）て如―之―何（一）無（二）（か）ランことを。（群書治要巻三〔毛詩〕-318）（・て・おそらくは・かうぶる・いふこと・なし・む・）
○故に自―決（し）て云（ふ）・身スラ尚（ほ）自（ら）容（一）ラルヽこと能（二）（返）（は）不。（群書治要巻三〔毛詩〕-318）（・み・すら・いれる・り・）
（本行にある「得」字、見せ消ちあり）
○何ノ暇（いとま）ア キカ［乃］・我か死（に）て［之］後（一）を憂（二）（へん）乎（群書治要巻三〔毛詩〕-319・注）（・の・いとまあく・か・や・）
○●巧言は幽―王を刺レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-320）（・そしる・り・）
○大夫・［於］讒を傷（イた）（み）而是の詩（を）作ル。（群書治要巻三〔毛詩〕-320）（・いたむ・つくる・）
○亂（の）［之］初（はじ）メ（て）生ルこと・僭（シハ〳〵）（傳）［イ、僭ヲ（箋）］始て（コトく）既ク涵（イレ）ラルレハナリ（傳）［イ、涵スレハナリ（箋）］（群書治要巻三〔毛詩〕-321）（・はじめて・なる・しばしば・いつはる・を・ことごとく・いる・り・ば・なり・をなじくす・り・ば・なり・）
○僭（セン）は不―信［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-321・注）（・セン・）
○涵（カン）（上）は同［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-321・注）（・カン・）
○王（の）［之］初（はじ）メ・亂の萌（キサシ）（一）を生（ナ）（二）スことは・群―臣（の）［之］言・信與不―信［與］（再讀）を・盡（コトく）クに同（をな）シ（シウ）之別（てワカ）（れ）不（サ）レハナリ（群書治要巻三〔毛詩〕-321・注）（・はじめ・きざし・なす・ことごとく・おなじうす・わかる・ず・ば・なり・）
○亂（の）［之］又（た）生ルことは・君子讒（返）を信スレハナリ（群書治要巻三〔毛詩〕-322）（・なる・す・ば・なり・）（本行にある「之」字、見せ消ちあり）
○君子は在―位（の）者（ヒト）を斥（サ）ス。（群書治要巻三〔毛詩〕-323・注）（・ひと・さす・）
○是レ復（マ）タ亂（の）［之］生（ナ）（返）ル所ナリ（群書治要巻三〔毛詩〕-323・注）（・これ・また・なる・なり・）
○亂是（を）用て暴（モシ）フ（群書治要巻三〔毛詩〕-324）（・もて・しふ・）
○盗トイハ小人を謂（ふ）（群書治要巻三〔毛詩〕-324・注）（・といは・）
○盗（訓）の言（コト）孔（た）甘シ（群書治要巻三〔毛詩〕-324）（・こと・あまし・）
（本行にある「其」字、見せ消ちあり、右傍に「甘」字、補っており）
○亂是（を）用て餤（スヽ）ム（群書治要巻三〔毛詩〕-324）（・すすむ・）
○●巷（去）―伯は幽王を刺レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-325）（・そしる・り・）
○寺―人・［於］讒を傷（イた）（み）而是の詩（を）作ル（群書治要巻三〔毛詩〕-325）（・いたむ・つくる・）
○萋（平）タリ［兮］・斐（上）タリ［兮］。（群書治要巻三〔毛詩〕-326）（・セイ・たり・ヒ・たり・）
○是の貝（去）―錦を成（ナ）（す）（群書治要巻三〔毛詩〕-326）（・なす・）

○興（たと〈）タラク）は［者］喩フ・讒―人・己（オ〈のれ）か過（ア〈やまち）（返）を集―作シて以て［於］罪を成（す）こと・猶（ほ）女工（の）［之］采―色（返）を集メて錦―文（一）を成（二）（す）か［猶］（三）（再讀）（し）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-327・注）（・たとへたらくは・たとふ・おのれ・あやまち・す・あつむ・）（本行にある「依」字見せ消ちあり、下に「采」字補っており・「之」字、見せ消ちあり）

○彼人を譖スル者（モノ）・亦（た）已（に）太（ハナハタ）―甚シ（群書治要巻三〔毛詩〕-328）（・す・もの・はなはだし・）（本行にある「讒」字、見せ消ちあり、「譖」字、右傍に補っており）

○太―甚シトイハ［者］・己（おのレ）（返）を使て重―罪（一）を得（二）［使］（三）（再讀）（返）（む）を謂（ふ）（群書治要巻三〔毛詩〕-329・注）（・はなはだし・といは・おのれ・）

○彼譖―人（返）を取（り）て豺―虎（一）に投（ナ）（二）ケ―畀（アタ）ヘン。（群書治要巻三〔毛詩〕-329）（・なぐ・あたふ・む・）（本行にある「讒」字、見せ消ちあり、「譖」字、右傍に補っており・「材」字、右傍「豺本」二字あり）

○豺―虎食（クヘン）（は）不（ん）は・有―北に投（け）―畀（へん）（群書治要巻三〔毛詩〕-329）（・くふ・）（本行にある「材」字、見せ消ちあり、右傍「豺」字補っており）

○北方は寒―凉ニシ而不（て）―毛ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-330・注）（・なり・す・なり・）

○昊―天（返）に與へて其（の）罪を製セ使メン（シ）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-331・注）（・あたふ・す・しむ・む・）

○●谷―風は幽王（一）を刺（二）レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-332）（・そしる・り・）

○天下俗は薄（ウスラ）イて朋―友道（訓）に絶（タ）エヌ［焉］。（群書治要巻三〔毛詩〕-332）（・うすらぐ・たゆ・ぬ・）

○習―々（習）タル谷―風アリ・維（れ）風（フ）イて雨（返）に及フ（群書治要巻三〔毛詩〕-333）（・たり・コクフウ（フウ）・あり・ふく・およぶ・）

○風―雨相（ひ）―感シて朋友相（ひ）―須（マ）ツ。（群書治要巻三〔毛詩〕-333・注）（・す・まつ・）

○風（かせ）イ而（フて）雨（返）有（る）トキンハ・則（ち）潤―澤行（ヲコナ）ハル。（群書治要巻三〔毛詩〕-334・注）（・かぜふく・ときんば・をこなふ・り・）

○喩フ・朋―友志（返）を同スルトキンハ・則（ち）恩―愛成ルに（群書治要巻三〔毛詩〕-334・注）（・たとふ・おなじくす・ときんば・なる・）

○將に恐（ヲソ）（返）リン（と）［將］（再讀）・將に懼（返）リンと［將］（再讀）ルハ・維レ予（わ）レ與汝（返）［與］（再讀）（シ）ナリ（群書治要巻三〔毛詩〕-334）（・をそる・む・す・をそる・む・す・は・これ・われ・なり・）

○將は且（シャ）（上）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-335・注）（・シヤ・）

○恐―懼（去）は喩フ・厄―難に遭（ア）ヘルに［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-335・注）（・たとふ・あふ・り・）

○將に安（返）カランと［將］（再讀）將に樂（たの）シ（返）ハンと［將］（再讀）ルトキンハ・汝轉（カヘ）（り）て予（返）を棄（シ）ツ（群書治要巻三〔毛詩〕-335）（・やすし・む・す・たのしぶ・む・す・ときんば・かへる・すつ・）

○汝今已に志達シ而（て）安―樂ナルトキニシ而恩（て）（返）を棄ツ・舊（返）キを忘ル。（群書治要巻三〔毛詩〕-336・注）（・す・なり・ときに・す・すつ・ふるし・わする・）（「已志」二字、補充符により、右傍に補っており）

○薄（ウス）イコトノ［之］甚ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-336・注）（・うすし・こと・の・なり・）

○我か大德（一）（返）を忘（二）レて我か小—怨（一）を思（二）（ふ）（群書治要巻三［毛詩］-336）（・わする・）（「小」字、補充符により補っており）
○大德は切—嗟（平）スルに道（返）（返）を以チシて相（ひ）＿成（る）を［之］謂フ［也］（群書治要巻三［毛詩］-337・注）（・す・もつ・す・いふ・）
○●蓼（入）＿莪（平濁）は幽王（一）を刺（二）レリ［也］（群書治要巻三［毛詩］-337）（・そしる・り・）（「蓼」字、左傍に「音六」二字あり、「莪」字、「五何反」三字あり）
○民人・勞—苦シて孝子・終へ＿養（一）フこと得（二）（返）不（る）こと・爾リ。（群書治要巻三［毛詩］-338）（・す・をふ・やしなふ・しかり・）
○蓼—々（蓼）タルは［者］莪ナリ。（群書治要巻三［毛詩］-338）（・たり・なり・）
○莪（返）に匪（す）・伊レ蒿（音）（平）ナリ（群書治要巻三［毛詩］-339）（・これ・なり・）
○莪已に蓼—々（蓼）とシて長—大ナリ。（群書治要巻三［毛詩］-339・注）（・す・なり・）
○我視之反（り）て之を蒿（一）ナリと謂（二）フ。（群書治要巻三［毛詩］-339・注）（・なり・いふ・）（本行にある「之」字、見せ消ちあり）
○興者喩（ふ）・憂（へ）思（ひ）て心に精シク其（の）事（一）を識（二）ラ不（三）ルに［也］（群書治要巻三［毛詩］-340・注）（・くはし・しる・ず・）
○父母（一）を哀ヒ（二）＿々（哀）フ。（群書治要巻三［毛詩］-340）（・あはれぶ・あはれぶ・）
○我（返）を生ムトシて劬—勞セリ（群書治要巻三［毛詩］-340）（・うむ・と・す・す・り・）（本行にある「々」、見せ消ちあり）
○哀（ひ）＿々（哀）（ふ）トイハ［者］・父母を終（へ）＿養（ひ）て其（れ）己（おのレ）を生—長セシ（む）［之］苦（訓）（一）シヒに報（二）スルこと得（三）（返）不（返）ルことを恨（む）ルソ［也］（群書治要巻三［毛詩］-341・注）（・といは・おのれ・す・しむ・くるしび・す・ず・うらむ・ぞ・）
○父（返）（訓）無クは・何をか怙マン。（群書治要巻三［毛詩］-341）（・なし・なに・たのむ・む・）
○母（返）無クは・何をか恃マン。（群書治要巻三［毛詩］-342）（・なし・たのむ・む・）
○出（て）ては［則］恤を銜ミ・入（り）ては［則］至ルこと靡シ（群書治要巻三［毛詩］-342）（・うれへ・ふくむ・いたる・なし・）
○孝子（の）［之］心・父母を怙ミ＿恃ム・依—々（依）＿然タリ。（群書治要巻三［毛詩］-343・注）（・たのむ・たのむ・たり・）
○以＿爲ク斯＿須モ無（一）クンハアル可（二）（返）（から）不（返）と［以爲］（再讀）ヘリ［也］（群書治要巻三［毛詩］-343・注）（・おもはく・しばらくも・なし・む・ば・あり・おもふ・り・）
○門（返）を出（て）ては・則（ち）思（ひ）之憂フ。（群書治要巻三［毛詩］-343・注）（・うれふ・）
○旋て門（返）を入（り）ては・又（た）見（返）不ルは・入（り）て至（返）ル所（返）無（一）（し）か如（二）シ［也］（群書治要巻三［毛詩］-343・注）（・かへて・ず・いたる・ごとし・）
○父［兮］・我（返）を生ム。（群書治要巻三［毛詩］-344）（・うむ・）（本行にある「予」字、見せ消ちあり、「兮」字補っており）
○母［兮］・我（返）を鞠フ。（群書治要巻三［毛詩］-344）（・やしなふ・）（本行にある「予」字、見せ消ちあり、「兮」字補っており）
○我（返）を拊（音）シ・我（返）を畜（音）（す）。（群書治要巻三［毛詩］-344）

（・す・）（「拊」字、音「Ⅱ〔木+無〕」二字あり）
○我（返）を長（上）シ・我（返）を育（音）す。（群書治要巻三〔毛詩〕－345）（・す・）
○我（返）を顧（カヘリ）ミ・我（返）を復（カヘサ）フ［イ、復ス］。（群書治要巻三〔毛詩〕－345）（・かへりみる・かへさふ・フク・す・）
○出―入シて我（返）を腹（アツ）クス（傳）［イ、腹クす（箋）］（群書治要巻三〔毛詩〕－345）（・す・あつし・す・いたし・す・）
○之（コ）ノ徳（一）を報（二）（返）センと欲（ヲモ）フ。（群書治要巻三〔毛詩〕－346）（・この・ほうず・む・をもふ・）
○昊―天 極（返）罔（ナ）シ（群書治要巻三〔毛詩〕－346）（・きはまり・なし・）
○我（わレ）父母の是の徳（一）を報（二）（返）センと欲フ。（群書治要巻三〔毛詩〕－347・注）（・われ・ほうず・む・をもふ・）（本行にある「於」「也」二字、見せ消ちあり）
○昊天［乎］・我か心に極（きはま）リ（返）無（し）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－347・注）（・きはまり・）（「是」字、消しており）
○●北山は大夫・幽王（一）を刺（二）レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－348）（・そしる・り・）
○役―使スルこと・均（ヒト）（返）シカラ不。（群書治要巻三〔毛詩〕－348）（・すひとし・）
○己（ヲノレ）・［於］従―事（一）に勞（ラウ）（去）シ而（て）其（の）父母（一）を養（二）（返）フこと得（返）不［焉］（群書治要巻三〔毛詩〕－348）（・をのれ・ラウ・す・やしなふ・）
○溥（フ）―天（の）［之］下（シタ）・王―土（一）に非（二）（返）（す）トイフこと莫（し）。（群書治要巻三〔毛詩〕－349）（・フテン・した・と・いふ・）（「溥」字、左傍に「音普」二字があり）
○率（入）―土（の）［之］濱（平）・王臣（一）に非（二）（返）（す）トイフこと莫（し）（群書治要巻三〔毛詩〕－350）（・と・いふ・）
○此は言（いふコヽロ）は王（の）［之］土―地・廣―大ナリ［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕－351・注）（・いふこころは・なり・）（本行にある「乎」消しており、右傍「矣」字、補っており）
○王（の）［之］臣・又（た）衆（音）ナリ［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕－351・注）（・なり・）（本行にある「乎」見せ消ちあり、右傍「矣」字、補っており）
○何を求ムトシテカ［而］・得（返）不（サ）ラン。（群書治要巻三〔毛詩〕－351・注）（・もとむ・として・か・ず・む・）
○何を使フトシテカ［而］・行（ユ）（返）カ不（らむ）乎（ヤ）（群書治要巻三〔毛詩〕－351・注）（・つかふ・として・か・ゆく・や・）
○大夫均（ヒト）（返）シカラ不。（群書治要巻三〔毛詩〕－352）（・ひとし・）
○我・事（返）に従（シタカ）テ（傳）［イ、従フコトハ（箋）］獨（イタハ）リ賢（ケン）ル（傳）［イ、賢ナレハカ（箋）］（群書治要巻三〔毛詩〕－352）（・したがふ・て・したがふ・こと・は・ひとり・いたはる・ケン・なり・ば・か・）
○或は燕（去）―々（燕）トシて以て居―息スルアリ（群書治要巻三〔毛詩〕－352）（・と・す・す・あり・）
○或は盡（コトヽク）クに瘁（ヤ）ンて以て國（返）に事（ツカ）フルアリ（群書治要巻三〔毛詩〕－353）（・ことごとく・やむ・つかふ・あり・）
○力（返）（返）を盡（ツク）シて勞―病シて以て國―事（一）に從（二）フ（群書治要巻三〔毛詩〕－354・注）（・つくす・す・したがふ・）
○或は息―偃（上）とシて牀（ユカ）（上）（返）に在（ア）ルアリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－354）（・す・ゆか・あり・あり・）

○或は［于］行（ニ）クに已（ニ）（返）マ不ルアリ（群書治要巻三〔毛詩〕－354）（・ゆく・やむ・ず・あり・）
○不―已猶（ほ）不―止（ニ）の［猶］（ニ）（再讀）（し）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－355・注）（・フイ・）
○或は棲―遲シて偃（上）―仰（上濁）スルアリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－355）（・す・エンギヤウ・す・あり・）
○或は王事にヲイて鞅―掌スルアリ（群書治要巻三〔毛詩〕－355）（・をいて・ヤウシヤウ・す・あり・）
○掌トイハ捧―持スルを謂（ふ）［之］［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－356・注）（・といは・ホウチ・す・）
○負―荷・捧―持シて以て趨リ―走ル。（群書治要巻三〔毛詩〕－356・注）（・す・はしる・はしる・）（本行にある「以」字、消しており）
○促に―遽ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－356・注）（・すみやかなり・すみやかなり・）
○或は耽―樂シて酒を飲ムアリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－356・注）（・タンラク・す・のむ・あり・）（「樂」字左傍、「音洛」二字あり）
○或は慘（上）―々（慘）シて咎（訓）を畏ルヽアリ（群書治要巻三〔毛詩〕－357）（・サンサン・す・をそる・り・あり・）（「慘」左傍「七感反」三字あり）
○●青―蠅は大―夫幽―王（ニ）（を）刺（ニ）レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－358）（・そしる・り・）
○營（平）―々（營）タル青―蠅・［于］樊に止ヨ［イ、止ル］（群書治要巻三〔毛詩〕－359）（・たり・かき・ゐる・ゐる・）
○　興（たとへ）者蠅（たらくは）［之］蟲（訓）爲ル（群書治要巻三〔毛詩〕－359・注）（・たとへたらくは・たり・）
○白キ（返）（返）を汚シて黒カラ使む。（群書治要巻三〔毛詩〕－360・注）（・しろし・けがす・くろし・）
○黒キ（返）を汚シて白カラ使む。（群書治要巻三〔毛詩〕－360・注）（・くろし・けがす・くろし・）
○喻フ・讒―佞の人（の）［之］善―惡（ニ）を變（ニ）―亂スルに［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－360・注）（・たとふ・す・）
○［於］藩（ニ）に止（ニ）ヨトイハ・外（訓）ニシ［之］物（返）に遠（返）カラ令（ニ）メマク（と）欲（ニ）シテナリ［之］［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－360・注）（・ゐる・といは・なり・す・とほし・しむ・む・ほす・て・なり・）
○愷―悌君子・讒―言（ニ）を信（ニ）（返）スルこと無（か）レ（群書治要巻三〔毛詩〕－360）（・す・なし・）
○愷―悌・樂―易（去）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－361・注）（・ラクイ・）
○營―々（營）青―蠅・［于］棘（ニ）に止（ニ）ヨ。（群書治要巻三〔毛詩〕－361）（・ゐる・）
○讒―人極（返）ムこと罔シ。（群書治要巻三〔毛詩〕－362）（・やむ・なし・）
○　交（かはる）・四―國（ニ）を亂（ニ）ル（群書治要巻三〔毛詩〕－362）（・かはるがはる・みだる・）
○●賓―之初―筵は衞の武―公時（返）を刺レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－363）（・そしる・り・）
○幽王荒―廢ニシて小―人（ニ）を媟（入）―近（ニ）す［イ、媟へ近ク］。（群書治要巻三〔毛詩〕－363）（・クワウハイ・なり・す・セツキン・ならぶ・ちかづく・）（「媟」字、「息列反」三字あり）
○酒（返）を飲（み）て度（返）無シ。（群書治要巻三〔毛詩〕－364）（・なし・）
○天下（返）化シ之君臣上と下沈（平）―湎（上）シて淫―液す。（群書治要巻三

〔毛詩〕‐364）（・す・チンメン・す・）

○淫―液とは［者］酒（返）を飲（む）時の情―態ソ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐366・注）（・ぞ・）（「態」は右傍に補っており、本行の文字見せ消ちあり・「態」の下の「出」字見せ消ちあり）

○言は武公・入トイハ［者］入（り）て王卿―士（ニ）爲（ニ）ルソ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐366・注）（・といは・たる・ぞ・）（本行にある「父」字、消しており、「公」字、補っており・「入」字、補充符により、補っており）

○賓（の）［之］初（て）筵ニツクトキニ・温―々（温）トシて其（れ）恭シ（群書治要巻三〔毛詩〕‐366）（・むしろ・に・つく・ときに・と・す・ゐやゐやし・）

○其（れ）未（た）醉ハ（返）［未］（再讀）ルトキンハ［止］・威―儀反―々（反）タリ。（群書治要巻三〔毛詩〕‐367）（・ゑふ・ず・ときんば・たり・）

○曰に既に醉（ひ）ヌルトキンハ［止］・威―儀幡（平）―々（幡）タリ。（群書治要巻三〔毛詩〕‐368）（・ここに・ぬ・ときんば・たり・）（「既」字、右傍に補っており、本行の文字に見せ消しがあり）

○其（の）坐（返）を舍テて遷ル。（群書治要巻三〔毛詩〕‐368）（・すつ・うつる・）

○屢（舞フこと僊々（僊）タリ（群書治要巻三〔毛詩〕‐368）（・しばしば・まふ・たり・）

○反々（反）トイハ言は重ネて慎（む）ソ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐369・注）（・といは・かさぬ・ぞ・）（最後の「是々」に見せ消しがあり）

○幡々（幡）は威儀を失ヘルソ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐369・注）（・うしなふ・ぞ・）

○僊々（僊）は儛フソ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐369・注）（・まふ・ぞ・）

○此は言は賓初（はじめ）て筵に即ク［之］時に・自（ら）敕―戒スルに禮を以（て）す。（群書治要巻三〔毛詩〕‐369・注）（・はじめて・つく・す・）（「筵」、「戒」二字、右傍に補っており・「儛」字、上「然」字見せ消ちあり）

○［於］旅―酬に至（り）而小人（の）［之］態出ツ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐370・注）（・わざ・いづ・）

○賓既に醉（ひ）ヌルトキンハ［止］・載チ號シ［イ、號ヒ］載（ち）呶（平濁）す［イ、呶フ］。（群書治要巻三〔毛詩〕‐370）（・ぬ・ときんば・すなはち・カウ・す・さけぶ・ダウ・よばふ・）

○我籩豆を亂ル。（群書治要巻三〔毛詩〕‐371）（・みだる・）

○屢（は）舞フこと＝〔イ+欺〕（平）々（＝〔イ+欺〕）タリ。（群書治要巻三〔毛詩〕‐371）（・まふ・キキ・たり・）

○是（れ）曰に既に醉フて・其（の）郵を知（ら）不。（群書治要巻三〔毛詩〕‐371）（・ここに・ゑふ・あやまち・）

○側―弁（の）［之］俄（平濁）タルアリ。（群書治要巻三〔毛詩〕‐372）（・ガ・たり・あり・）（「俄」、左傍、「五何反」三字あり）

○屢（は）舞フこと傞（平）―々（傞）タリ（群書治要巻三〔毛詩〕‐372）（・まふ・たり・）（「傞」、左傍、「秦多反」三字あり）

○號（平）―呶（平濁）は號―呼（去）＝〔言+雚〕―呶スルソ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐373）（・カウダウ・クワンダウ・す・ぞ・）

○＝〔イ+欺〕（平）―々（＝〔イ+欺〕）は儛（ひ）て自（ら）止ムこと能（は）不［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐373・注）（・まふ・やむ・）

○傞―々（傞）は止マ不ルソ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐373・注）（・やむ・ず・ぞ・）

○郵（平）は過［也］（群書治要巻三〔毛詩〕‐373・注）（・イウ・）

○俄は傾（かたフ）ケル貌［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－373・注）（・かたぶく・り・）
○●采―叔（シク）（入）は幽―王を刺レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－374）（・サイシク・そしる・り・）（本行にある「叔」字、左傍に「本文乍菽」四字あり）
○諸侯來―朝スルトキに・命（返）を錫（タマ）フに禮（返）を以（一）（て）スルこと能（二）（返）（は）不。（群書治要巻三〔毛詩〕－374）（・す・ときに・たまふ・す・）
○數（シハ〳〵）徵（チウ）―會スレトモ［之］・而モ信―義無シ。（群書治要巻三〔毛詩〕－375）（・しばしば・チウカイ・す・ども・しかも・なし・）
○君子微（ヒ）（平濁）（返）を見而（てイ）古（にしへ）を思フ［焉］（群書治要巻三〔毛詩〕－376）（・ビ・いにしへ・おもふ・）
○叔（入）（返）［イ、叔］を采（ト）リ・菽（返）を采（ト）ル。（群書治要巻三〔毛詩〕－376）（・まめ・とる・とる・）
○筐（平）ニシ［之］・筥（上）にす［之］（群書治要巻三〔毛詩〕－377）（・なり・す・）
○菽は所―以大―牢（一）に芼（二）（去濁）ニシ而君子を待ツ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－377・注）（・なり・す・まつ・）
○何（ナニ）を錫（タマ）ヒ―與（コマ）（す）［イ、與（アタ）へむ］［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕－378）（・なに・たまふ・こます・あたふ・）（「與」字、右下に「本」があり）
○與（返）（す）［イ、與フル］無（返）（し）と雖（も）［之］・路―車乘（去）―馬（コマ）アリ（群書治要巻三〔毛詩〕－378）（・こます・あたふ・あり・）
○君子とは諸侯を謂フ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－379・注）（・いふ・）
○諸侯（一）に賜（二）フに・車―馬を以（て）す。（群書治要巻三〔毛詩〕－379・注）（・たまふ・）
○言は與（返）フルこと無（返）（し）と雖（も）［之］・尚（ナ）ヲ以て薄シと爲（ス）ルナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－379・注）（・あたふ・なを・うすし・す・なり・）
○●角―弓は父―兄・幽王を刺レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－380）（・そしる・り・）
○九―族を親セ不シ而讒（て）―佞を好（コノ）ム。（群書治要巻三〔毛詩〕－380）（・す・ず・す・このむ・）
○騂（セイ）（平）―々（騂）タル角―弓アリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－382）（・セイセイ・たり・あり・）（「騂」字、左傍に「自營反」三字あり）
○翩（ヘン）トシて其（れ）反（ソ）レリ［矣］（群書治要巻三〔毛詩〕－382）（・ヘン・と・す・そる・り・）
○善ク紲（セツ）（入輕）―縶（ケイ）（上）シて巧（タクミ）に用（一）ヰ不（サ）（二）ルトキンハ・則（ち）翩―然トシ而反（てソ）リヌ。（群書治要巻三〔毛詩〕－383・注）（・よく・セツケイ・す・たくみなり・もちゐる・ず・ときんば・と・す・そる・ぬ・）
○（たと）興（タラク）ハ［者］喩フ・王・與（と）九―族［與］（再讀）・恩―禮（返）を以て御―待（一）セ不（二）ルトキンハ［之］・則（ち）之（返）を使て怨―心（一）多（二）カラ［使］（三）（再讀）（むる）に［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－383・注）（・たとへたらくは・たとふ・す・ず・ときんば・おほし・）（「族」・「心」二字右傍に補っており）
○兄―弟婚―姻を（し）・胥（ア）ヒ―遠（とほ）サクルこと無（か）レ［矣］（群書治要巻三〔毛詩〕－383）（・あひ・とほざく・なし・）
○胥（ショ）（平）は相（平）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－384・注）（・ショ・）
○骨―肉の［之］親（音）は當に相（ひ）―親（平）シて相ひ疏（ウトン）シ―遠（サ）（一）クルこと無（二）（か）ル［當］（再讀）（三）（し）。（群書治要巻三〔毛詩〕－384・注）（・す・うとんず・さく・なし・）（「無」字、右傍に補っており、本行の

字に見せ消ちあり）

○相（ひ）疏シ—遠（く）ルトキンハ［則］親—々（親）（の）［之］望（返）を以て以て怨（返）を成（一）（る）に易（ヤス）（二）シ［也］（群書治要巻三［毛詩］－384・注）（・うとんず・さく・ときんば・やすし・）（本行にある「大」字、見せ消ちあり、「以」字、右傍に補っており）

○爾（ナンチ）［之］・遠クレハ［矣］・民胥ナ然（シカ）す［矣］。（群書治要巻三［毛詩］－384）（・なんち・さく・り・ば・みな・しかす・）（「民」は右傍に補っており、本行の字に見せ消しがあり）

○爾［之］・教（ふ）レハ［矣］・民胥ナ傚（ミナラ）フ［矣］（群書治要巻三［毛詩］－385）（・り・ば・みな・ならふ・）

○幽王（一）に爾（なむ）（チ）［也］（群書治要巻三［毛詩］－386・注）（・なむぢ・）

○言は王汝・骨—肉（一）を親（二）（返）セ不（サ）レハ・則（ち）天下（の）［之］人・皆（な）斯（返）の如シ。（群書治要巻三［毛詩］－386・注）（・す・ず・り・ば・ごとし・）（「骨」、「肉」二字、右傍に補っており）

○汝（の）［之］教令には善（音）トモ无（し）・惡（音）（入）トモ无（し）・尚（タト）（返）フル所の者を・天下（の）［之］人皆（な）學（ナラ）フ［之］。（群書治要巻三［毛詩］－386・注）（・とも・とも・たとふ・ならふ・）

○言は上（カミ）の［之］下（返）を化スルこと慎（つつし）（返）マ不（ス）（返）ンハアル可（返）（から）不［也］（群書治要巻三［毛詩］－387・注）（・かみ・す・つつしむ・ずんば・あり・）（「不」字、補充符により、補っており）

○●菀（入）—柳は幽王を刺レリ［也］（群書治要巻三［毛詩］－387）（・そしる・り・）（「菀」字、左傍「音欝」二字あり）

○暴—虐にシ而刑（て）—罰・中（ア）（返）テ不。（群書治要巻三［毛詩］－387）（・すあつ・）

○諸侯皆（な）朝（返）（返）センことを欲（返）（せ）不（ス）シて王—者（の）［之］朝—事（一）ス可（返）（から）不（サ）（二）ルことを言（三）フ［也］（群書治要巻三［毛詩］－388）（・す・む・ず・す・す・ず・いふ・）

○菀（返）タルこと有ル［者］・柳ナリ。（群書治要巻三［毛詩］－390）（・たり・あり・なり・）

○尚（コヒネ（ひ））（ひ）て息（イコ）ハ不（サ）ランヤ［焉］（群書治要巻三［毛詩］－390）（・こびねがふ・いこふ・ず・む・や・）

○菀（入）—然トシて枝—葉茂ク—盛ナル［之］柳（一）有（二）（り）。（群書治要巻三［毛詩］－390・注）（・と・す・おほし・さかんなり・）

○行—路（の）［之］人・豈（に）庶（コヒネカ）—幾（ひ）て就（ツ）イて［之］止—息（一）センことを欲（二）セ不（サ）（三）（返）ル（こと）有ラン乎（ヤ）。（群書治要巻三［毛詩］－390・注）（・こひねがふ・つく・す・む・ほす・ず・あり・む・や・）

○興（たとへ）（タラクハ）［者］喩フ。（群書治要巻三［毛詩］－391・注）（・たとへたらくは・たとふ・）（「喩」字、補充符により、補っており）

○王・盛—德有ルトキンハ・則（ち）天下皆（な）庶—幾（ひ）て往（き）て朝（一）センことを願（二）フに［焉］。（群書治要巻三［毛詩］－391・注）（・あり・ときんば・す・む・ねがふ・）（「王」、「天」、「朝」三字、補っており）

○今然（返）ラ不（サ）（一）ルことを憂（二）フ［也］（群書治要巻三［毛詩］－391・注）（・しかり・ず・うれふ・）

○予（返）（返）を俾（シ）て靖（ハカ）（一）ラ［俾］（再讀）（二）メハ（傳）［イ、［俾］（再讀）ムトモ（箋）］［之］・後に予（わ）極（レイタ）ラン（傳）［イ、極セラレナン（箋）］［焉］（シ）（群書治要巻三［毛詩］－392）（・す・はかる・しむ・ば・しむ・ども・われ・いたる・む・キョク（キョク）・す・らる・ぬ・む・）

○假（タト）—使ヒ我（わレ）王（返）に朝セハ・王・我（返）を留（トヽ）メて我（返）（返）を使て政—

事（一）を謀（二）ラ［使］（再讀）（三）ムトモ・王・讒（返）（返）を信シて功（返）を察ンシ・績（返）（返）を考（一）へ不（二）シて後に反（り）て我（一）を誅（二）—放セン。（群書治要巻三〔毛詩〕-392・注）（・たとふ・われ・す・ば・とどむ・はかる・しむ・とも・す・あきらかなり・す・かんがふ・す・かへる・す・む・）（「使」字、補充符により右に補っており・「我」「考」「績」三字、左傍に補っており）

○是は王刑—罰・中（返）（返）テ不シて朝—事（一）ス可（返）（から）不（二）ルを言（三）フ（群書治要巻三〔毛詩〕-393・注）（・あつ・ず・す・す・ず・いふ・）

○●隰—桑は幽王を刺レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-394）（・そしる・り・）

○小人は位に在リ。（群書治要巻三〔毛詩〕-394）（・あり・）

○君子は野（音）に在リ。（群書治要巻三〔毛詩〕-394）（・あり・）

○君子（返）を見て心（返）を盡シて以て事（一）へンことを思（二）フ［之］［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-395）（・つくす・つかふ・む・をもふ・）

○隰—桑・阿（平）タルこと有（り）。（群書治要巻三〔毛詩〕-395）（・たり・）（本行にある「何」字、見せ消ちあり、「阿」字、補っており）

○其（の）葉（訓）難（平濁）（返）丶ル有リ（群書治要巻三〔毛詩〕-396）（・ダ・たり・あり・）（本行にある「菜」に見せ消しがあり、「葉」は右傍に補っており・「難」、右傍に補っており、「本乍」二字あり）

○隰—中（の）［之］桑（訓）・枝—條・阿—然トシて長ク—美シ。（群書治要巻三〔毛詩〕-396・注）（・と・す・ながし・うるはし・）（本行にある「儺」字、見せ消ちあり）

○其（の）葉・又（た）茂ク—盛ニシて以て人（返）を庇（去）—勛（去）（一）す可（二）（し）。（群書治要巻三〔毛詩〕-396・注）（・おほし・なり・す・）

○　興　者喩フ。（群書治要巻三〔毛詩〕-396・注）（・たとへたらく・たとふ・）

○時（に）賢人・君子・用（ゐ）ラレ不シ而野—處シて覆（去）—養（の）［之］德（一）有（二）ル［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-397・注）（・らる・ず・す・す・フヤウ・あり・）

○既に君子を見ては・其の樂シヒこと如—何（群書治要巻三〔毛詩〕-397）（・たのし・）

○野（に）在（る）［之］君子を思（ひ）而其（の）位（返）に在（一）（る）を見（二）（る）こと得ては・喜—樂・度（去）（返）无ケ（む）［之］［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-398・注）（・なげなり・）（「我」字、左傍「本无」二字あり・本行にある「嘉」字、見せ消ちあり、「喜」字、補っており）

○心に［乎］愛（音）セは［矣］・遐クトモ・謂（返）メ不ランヤ［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕-398）（・す・とほし・とも・つとむ・ず・む・や・）

○中—心に臧セは［之］・何（の）日か忘レン［之］（群書治要巻三〔毛詩〕-399）（・よみす・いづれ・ひ・わする・む・）

○我（レ）心此の君子（一）を愛（二）セは・遠ク野（返）に在（一）（る）と雖（二）（も）・豈（に）能（く）・勤メ—思（は）不ラン［之］乎。（群書治要巻三〔毛詩〕-399・注）（・われ・す・とほし・つとむ・ず・む・や・）

○我（レ）心に・此の君子を善（ミ）す。（群書治要巻三〔毛詩〕-400・注）（・われ・よみす・）

○又（た）誠に・忘ル丶こと能（は）不シ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-400・注）（・わする・す・）

○●白—華は周—人・幽—后を刺レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-401）（・

そしる・り・）
○幽王・申（平）の女（返）を娶（り）て以て后（返）と爲。（群書治要巻三〔毛詩〕-401）（・むすめ・とめる・）
○又（た）褒―姒を得而申―后を黜ク。（群書治要巻三〔毛詩〕-402）（・しりぞく・）
○故に下國・化シ之妾（返）（返）を以て妻と爲。（群書治要巻三〔毛詩〕-402）（・す・す・）
○孽（入）（返）を以て宗（返）に代フ。（群書治要巻三〔毛詩〕-403）（・ケツ・かふ・）
○而て王・治（返）ムルこと能（返）（は）弗（群書治要巻三〔毛詩〕-403）（・おさむ・）
○王の治（むる）こと能（は）不（る）コトハ・己（れ）か正（返）シカラ不ル故［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-404・注）（・こと・は・をのれ・ただし・ず・）
○英―々（英）タル白雲アリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-404）（・エイエイ・たり・あり・）
○彼（の）菅（平）―茅（平濁）を露ス［イ、露ク彼（の）菅―茅］（群書治要巻三〔毛詩〕-405）（・クワンバウ・うるをす・つゆをく・クワンボ・）
○白雲・露（返）（返）を下シて彼の以て［之］菅（返）に爲（一）可（二）キ茅（上）（返）を養（ひ）て・與白華（の）［之］菅［與］い（再讀）相（ひ）亂―易（入）（一）す可（二）カラ使（三）ムルこと・猶（ほ）天［之］妖―氣（返）を下シて褒―姒（返）を生シて使申―后（返）を使て黜（返）ケ見レ［使］（再讀）（二）メタル［猶］（再讀）（三）（し）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-405・注）（・くだす・す・べし・やしなふ・と・べし・しむ・くだす・なす・しりぞく・らる・しむ・たり・）
○天・艱―難を歩フ。（群書治要巻三〔毛詩〕-406）（・をこなふ・）
○之ノ子猶カラ不（傳）［イ、猶ラ不（箋）］（群書治要巻三〔毛詩〕-406）（・この・よし・はかる・）
○天・行此（の）艱―難（の）［之］妖（一）を行（をこ）ナ（二）フこと・久シ［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕-407・注）（・をこなふ・ひさし・）
○王・其（の）變（の）［之］由（返）ル所（一）を圖（二）（返）（ら）不・昔・夏［之］衰（ふ）ルトキに二龍（の）［之］妖（一）有（二）リ。（群書治要巻三〔毛詩〕-407・注）（・よる・おとろふ・ときに・あり・）
○卜（ひ）て其（の）蔡（一）を藏（二）ム。（群書治要巻三〔毛詩〕-408・注）（・うらなふ・あは・をさむ・）
○周の厲王・發イ而觀ル［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕-408・注）（・あばく・みる・）
○化シて玄―黿と爲ル。（群書治要巻三〔毛詩〕-408・注）（・す・ゲンクヱン・なる・）
○童女遇ヘリ［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕-408・注）（・あふ・り・）
○宣王（の）［之］時に當（一）（り）而女（返）を生ム。（群書治要巻三〔毛詩〕-408・注）（あたる・うむ・）
○懼チ而［イ、懼（ち）而］棄ツ［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕-409・注）（をつ・すつ・）（「懼而」二字は補っており、上注「懼而」、また左傍に「懼而二字オチ」注あり）
○是を褒―姒と謂フ（群書治要巻三〔毛詩〕-409・注）（・いふ・）
○聲（訓）か・［于］外に聞ユ（群書治要巻三〔毛詩〕-409）（・きこゆ・）
○王・禮を［於］内（一）に失（二）（ひ）而下―國・聞ヽ―知（り）而化す［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕-410・注）（・きく・）

○王治㊀ムルこと能㊀（は）弗ルこと・鐘―鼓を［於］宮―中（一）に鳴（二）シ而外―人［之］聞㊀（か）不（一）ランことを欲（二）スル・亦（た）得㊀［イ、止ム］可㊀（から）不（上）か如（下）シ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－410・注）（・をさむ・ず・ならす・ず・む・ほす・やむ・ごとし・）（「止」字、右傍に補っており、「本乍」二字あり）（本行にある「使」字、見せ消ちあり、左傍に「本无」二字あり、「第」字、見せ消ちあり、「之」字、右傍に補っており）

○子㊀を念（ふ）こと・懆（上）々（懆）タリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－411）（・サンサン・たり・）

○我㊀を視ルこと・邁々（邁）タリ（群書治要巻三〔毛詩〕－411）（・みる・マイマイ・たり・）

○邁々（邁）は悦（よろコ）ヒ不ルソ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－411・注）（・よろこぶ・ず・ぞ・）

○申后［之］［於］王（一）に忠（二）アルを言（三）フ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－411・注）（・あり・いふ・）

○念フこと［之］・懆―々（懆）―然トシて諫メ―正サンことを欲スレトモ［之］・王・反（り）て［於］其（の）言㊀フ所（一）を悦（二）㊀ヒ不（群書治要巻三〔毛詩〕－412・注）（・をもふ・と・す・いさむ・ただす・む・ほす・ども・いふ・よろこぶ・）（「懆」字、右傍に補っており）

○●何―草不―黄は下―國・幽王を刺レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－413）（・そしる・り・）

○四夷 交（コモ〳〵）―侵シて中―國背（ソム）キ―叛ク。（群書治要巻三〔毛詩〕－413）（・こもごも・をかす・そむく・そむく・）（本行にある「後」字、見せ消ちあり、「侵」字、右傍に補っており）

○兵㊀を用（ふ）こと息㊀マ不。（群書治要巻三〔毛詩〕－414）（・やむ・）

○民㊀を視ルこと・禽―獸か如シ。（群書治要巻三〔毛詩〕－414）（・みる・ごとし・）

○君子憂フ［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕－414）（・うれふ・）

○故に是の詩を作ル［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－415）（・つくる・）

○何（イつれ）の草か黄㊀（ま）不ラン。（群書治要巻三〔毛詩〕－415）（・いづれ・ず・む・）

○何の日か行カ不ラン（群書治要巻三〔毛詩〕－415）（・ひ・ゆく・ず・む・）

○兵を用（ふ）こと息マ不レは・軍―旅・歳始メ草の生（一）ユル自（二）シ而出（て）て歳晩ルヽに至ル［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕－416・注）（・やむ・ず・はじめ・をゆ・よりす・くる・いたる・）（「至」字、右傍に補っており・「何」字、消されており）

○何（イつれ）の草トシテカ［而］・黄ナラ不ラむ乎。（群書治要巻三〔毛詩〕－416・注）（・いづれ・と・す・て・か・なり・ず・や・）

○草皆（な）黄（訓）ナリ［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕－416・注）（・なり・）

○是（に）於（て）問（ふ）・將―率何（イつれ）の日行（ヒユ）㊀（か）不ラン乎。（群書治要巻三〔毛詩〕－416・注）（・いづれ・ひ・ゆく・ず・む・や・）（「聞」、「卒」二字、消されており。「問」、「乎」二字、右傍に補っており）

○言は常に行ク。（群書治要巻三〔毛詩〕－417・注）（・ゆく・）（「々」、消しており）

○勞―苦スルコト甚（し）キナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－417・注）（・す・こと・はなはだし・なり・）（「之」字、消しており・「甚」、補充符により、補っており）

○何（イつれ）の人か將（ヒキキ）㊀ラレ不ランヤ。（群書治要巻三〔毛詩〕－417）（・いづ

れ・ひきゐる・らる・ず・む・や・）

○言は萬民・役（返）に從（返）（は）不（返）トイフ者（一）無（二）シ［也］（群書治要巻三［毛詩］-417・注）（・ず・と・いふ・なし・）

○兕（返）ニモ匪ス・虎（返）ニモ匪ス。（群書治要巻三［毛詩］-418）（・にも・あらず・にも・あらず・）

○彼の曠―野（一）に率（二）フ（群書治要巻三［毛詩］-418）（・したがふ・）

○兕虎は［者］・戰―士に比フ［也］（群書治要巻三［毛詩］-418・注）（・たとふ・）（「以」字、見せ消ちあり）

○我か徴―夫（一）を哀（二）フ。（群書治要巻三［毛詩］-419）（・かなしふ・）（「長」字、見せ消ちあり）

○朝―夕に暇（返）アラ不（群書治要巻三［毛詩］-419）（・いとま・あり・）（「夫」字、見せ消ちあり）

大雅

○●文王は文王・命（返）（返）を受（け）て周を作セリ［也］（群書治要巻三［毛詩］-421）（・なす・り・）

○命を受（く）トイハ・天―命を受（け）而天下（返）に王トシて周―邦（一）を製（二）―立スルソ（群書治要巻三［毛詩］-421・注）（・といは・と・す・す・ぞ・）

○文王上（み）に在マス。（群書治要巻三［毛詩］-422）（・かみ・います・）

○於・［于］天に昭（あきらか）ナリ（群書治要巻三［毛詩］-422）（・あ・あきらなり・）

○上に在（り）とは民上に在（る）ソ［也］（群書治要巻三［毛詩］-422・注）（・ぞ・）

○於（平）は嘆（ほ）ムル辭［也］（群書治要巻三［毛詩］-422・注）（・ヨ・ほむ・）

○文王・初メ西伯（返）と爲（し）て［於］民に功有（り）。（群書治要巻三［毛詩］-422・注）（・はじめ・す・）

○其（の）德・［於］天に著（あらは）レ―見ユ。（群書治要巻三［毛詩］-423・注）（・あらはる・みゆ・）

○故に天命シ之（て）以て王（返）と爲（す）［也］（群書治要巻三［毛詩］-423・注）（・す・）

○周・舊―邦ナリと雖（も）・其（の）命（音）・惟（た）新（あらた）ナリ（群書治要巻三［毛詩］-423）（・なり・あらたなり・）

○乃（なは）（ち）新ナル文王に在（り）［也］（群書治要巻三［毛詩］-424・注）（・すなはち・あらたなり・）

○濟（せい）（上）―々（濟）タル多―士・文王以て寧（やす）シ（群書治要巻三［毛詩］-424）（・セイセイ・たり・やすし・）

○濟―々（濟）は威―儀の多キソ［也］（群書治要巻三［毛詩］-424・注）（・おほし・ぞ・）

○商（の）［之］孫―子・其（の）麗（カス）・億（入）（返）ノミナラ不。（群書治要巻三［毛詩］-425）（・かず・のみ・なり・）

○上帝既に命シて［于］周〈ノ服（フク）ニ侯（キミ）（二）タリ（箋）［イ、侯（コレ）［于］周（シウ）ニ服（フク）ス（傳）］（群書治要巻三［毛詩］-425）（・す・の・フク・に・きみ・たり・これ・シウ・に・フク・す・）

○商（の）［之］孫―子・其（の）數（訓）徒（タ）億（一）ノミナラ不（二）トイハ。（群書治要巻三［毛詩］-426・注）（・ただ・のみ・なり・といは・）（「億」字、補充符により、補っており）

○言は多（ヲホ）シ［之］［也］（群書治要巻三［毛詩］-426・注）（・をほし・）

○天已に文王（一）を命（二）スル［之］後（上）（返）に至（下）（り）て乃（ち）

[於]周の[之]九—服(の)[之]中(一)に君(二)(返)爲リ。(群書治要巻三〔毛詩〕-426・注)(・す・たり・)
○衆[之]德(返)に如(返)カ不(一)(る)ことを言(二)フ[也](群書治要巻三〔毛詩〕-427・注)(・しく・いふ・)
○侯トシテ(箋)[イ、侯(傳)]・[于]周(一)に服(音)(二)す。(群書治要巻三〔毛詩〕-427)(・きみ・として・これ・)
○天—命常(返)靡シ(群書治要巻三〔毛詩〕-427)(・なし・)(本行にある「々」、見せ消ちあり)
○則(ち)天命(の)[之]常(返)無(一)(き)ことを見(二)ス[也](群書治要巻三〔毛詩〕-428・注)(・しめす・)
○無常トイハ[者]・善(音)ニハ則(ち)就ク[之]。(群書治要巻三〔毛詩〕-428・注)(・といは・には・つく・)(「無」字、補充符により補っており)
○惡(音)ニハ則(ち)去ル[之](群書治要巻三〔毛詩〕-428・注)(・には・さる・)
○殷/ノ士[イ、殷—士]・膚敏ナリ(箋)[イ、殷—士膚ク敏クシテ(傳)]裸(去)[于]京に將フ(群書治要巻三〔毛詩〕-428)(・の・ビン・なり・よく・とし・す・て・クワン・をこなふ・)(「裸」字、左傍「古亂反」三字あり)
○殷/ノ士は殷—侯[也](群書治要巻三〔毛詩〕-429・注)(・の・)
○膚(平)は美[也](群書治要巻三〔毛詩〕-429・注)(・フ・)
○裸(去)は鬯(返)を灌クソ[也](群書治要巻三〔毛詩〕-429・注)(・チヤウ・そそぐ・ぞ・)
○殷(の)[之]臣・壯—美ニシ而敏ナリ。(群書治要巻三〔毛詩〕-429・注)(・なり・す・なり・)
○來(り)て周の祭を助ク[也](群書治要巻三〔毛詩〕-430・注)(・たすく・)
○故に天復タ武王に命セリ[也](群書治要巻三〔毛詩〕-431)(・また・す・り・)
○二聖相(ひ)—承(け)て其(の)明—德日に廣—大ナリ。(群書治要巻三〔毛詩〕-432・注)(・うく・ひび・なり・)
○故に大—明と曰フ[也](群書治要巻三〔毛詩〕-432・注)(・いふ・)
○明々(明)トシて下に在リ。(群書治要巻三〔毛詩〕-433)(・として・しも・あり・)
○赫(入)—々(赫)トシて上に在(り)(群書治要巻三〔毛詩〕-433)(・カクカク・と・す・)
○文王(の)[之]德・明々(明)トシて[於]下(に)在(り)。(群書治要巻三〔毛詩〕-433・注)(・として・)
○故に赫—々(赫)—然トシて[於]天に著レ—見ユ[也](群書治要巻三〔毛詩〕-433・注)(・と・す・あらはる・みゆ・)(「故」字、補充符により補っており)
○天忱(返)シ難シ[斯]。(群書治要巻三〔毛詩〕-434)(・まことにす・かたし・)(「斯」字、左傍「辞字也」三字あり)
○易(返)ラ不ルは・維(た)王ナリ。(群書治要巻三〔毛詩〕-434)(・かはる・ず・なり・)
○天—位ニシて殷の嫡(入輕)ナリ。(群書治要巻三〔毛詩〕-434)(・に・す・テキ・なり・)
○四方(一)に浹(二)(返)サ不(返)ラ使ム(群書治要巻三〔毛詩〕-434)(・とほす・ず・しむ・)
○忱は信[也](群書治要巻三〔毛詩〕-435・注)(・シン・)

○浹（入）は達［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－435・注）（・サフ・）（本行にある「使」字、見せ消ちあり、「浹」字、右傍に補っており）
○天（の）［之］意・信（返）シ難（し）［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕－435・注）（・まことにす・）（「知」字、見せ消ちあり）
○改メ―易フ可（から）不ルは［者］・天子［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－435・注）（・あらたむ・かふ・ず・）
○今紂・王―位（返）に居而又（た）殷（の）［之］正―嫡ナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－435・注）（・ゐる・なり・）（「位」字、補充符により、補っており）
○其（の）惡（返）を爲ルを以て乃（ち）絶チ―棄（て）之教―令（返）を使て［於］四方（一）に行（返）ハレ不（二）ラ［使］（再讀）（三）（む）。（群書治要巻三〔毛詩〕－436・注）（・す・たつ・をこなはる・ず・）
○四方・共に叛ク［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕－436・注）（・そむく・）
○是（れ）天―命・常（返）无シ。（群書治要巻三〔毛詩〕－436・注）（・なし・）
○唯（た）德・是に與スラク耳ミ（群書治要巻三〔毛詩〕－436・注）（・くみす・らく・のみ・）
○維レ此（の）文王・心（返）を小メて翼（入）―々（翼）タリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－437）（・これ・せむ・ヨクヨク・たり・）
○昭に上帝に事フ。（群書治要巻三〔毛詩〕－437）（・あきらかなり・つかふ・）
○聿へて多―福を懷フ。（群書治要巻三〔毛詩〕－437）（・のぶ・をもふ・）
○厥德・回ハ不。（群書治要巻三〔毛詩〕－438）（・たがふ・）（本行にある「迴」字、見せ消ちあり、「回」字、右傍に補っており）
○方―國を受ク（群書治要巻三〔毛詩〕－438）（・うく・）
○心（返）（返）を小メて翼―々（翼）タリとは恭―慎の貌ソ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－438・注）（・せむ・たり・かたち・ぞ・）（「也」字、補充符により補っており）
○方―國は四―方の來リ―附ク者ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－439・注）（・きたる・つく・なり・）（本行にある「圖」字、消されており、「國」字、左傍に補っており）
○●思（平）―齊は文王・聖（返）ナル所―以ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－439）（・なり・なり・）
○言は其レ但（た）天―性（一）ノミに非（二）（す）。（群書治要巻三〔毛詩〕－440・注）（・それ・のみ・）
○德・由（り）て成（一）ル所（二）（返）有リ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－440・注）（・よる・なる・あり・）
○齊（返）ナルことを思フ・大―任・文王（の）［之］母（訓）ナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－440）（・をごそかなり・をもふ・なり・）
○周―姜を思ヒ―媚フ・京―室（の）［之］婦ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－440）（・をもひ・うつくしぶ・よめ・なり・）
○常に莊―敬ナルことを思フ者・大―任［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－442・注）（・なり・をもふ・）
○及（に）文王（の）［之］母（一）爲（二）リ。（群書治要巻三〔毛詩〕－442・注）（・たり・）
○又（た）常に大姜の［之］大王に配セシ［之］禮（一）を思（二）―愛（す）。（群書治要巻三〔毛詩〕－442・注）（・す・す・）
○以て京―室（の）［之］婦（一）爲（二）リ。（群書治要巻三〔毛詩〕－442・注）（・たり・）

○言は其（の）德—行・純ラ（モハ）—備（ソナハ）レリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-442・注）（・もはら・そなはる・り・）
○以て聖—子を生メリ（群書治要巻三〔毛詩〕-442・注）（・うむ・り・）
○大—姒・徽（クキ）（平）—音を嗣（ツ）ク。（群書治要巻三〔毛詩〕-443）（・クキオン・つく・）
○則（ち）百斯（モ、）の男（ヲノコ、）アリ（群書治要巻三〔毛詩〕-443）（・もも・をのこ・あり・）
○大姒・十（トホ）の子アリトナラは衆—妾は［則］百（モ、）の子（一）アル宜（二）（し）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-443・注）（・とほ・あり・と・なり・もも・あり・）（本行にある「者」字、見せ消ちあり、「也」右傍に補っており）
○大—任（の）［之］美—音（一）を嗣（二）（く）トイハ・其（の）善キ教—令（二）を續（ツ）（二）（返）キ—行（く）を謂（ふ）（群書治要巻三〔毛詩〕-444・注）（・といは・よし・つぐ・）
○［于］寡—妻（返）に刑（ノト）（り）て［于］兄弟に至ル。（群書治要巻三〔毛詩〕-444）（・のとる・いたる・）
○以て［于］家—邦を御（ムカ）フ（傳）［イ、御ム（ヲサ）（箋）］（群書治要巻三〔毛詩〕-445）（・むかふ・をさむ・）
○言は賢ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-446・注）（・なり・）
○御（カ）（去濁）は迎（ケイ）（去濁）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-446・注）（・ガ・ゲイ・）
○文王・禮—法（返）を以て其（の）妻（返）を接—待シて［于］其（の）宗—族に至ル。（群書治要巻三〔毛詩〕-446・注）（・す・いたる・）（「接—」補充符により補っており）
○此（返）を以て又（た）能ク政（返）を爲（シ）て［於］家—邦（一）を治（二）メシム（群書治要巻三〔毛詩〕-446・注）（・よく・す・をさむ・しむ・）
○●靈—臺は民始メて附（ツ）ケリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-447）（・はじめて・つく・り・）（「也」字、補充符により補っており）
○文王・命を受（け）而（て）民其（れ）靈—德（返）有（り）て以て鳥—獸昆—蟲（一）に及（二）フことを樂（三）フ［焉］（群書治要巻三〔毛詩〕-447）（・およぶ・たのしぶ・）（本行にある「息」字、見せ消ちあり、「鳥」字、補っており）
○文王命（返）を受（け）而（て）邑を［于］豐（返）に作（ツクル）（り）て靈—臺を立ツ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-448・注）（・つくる・たつ・）
○經（音）シ［之］・營（音）す［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕-449）（・す・）
○庶—民攻（ツク）ル［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕-449）（・つくる・）（本行にある「鹿」「政」字、見せ消ちあり、「庶」「攻」字補っており）
○日（ヒ）（返）アラ不（ナ）シて成（ス）す［之］（群書治要巻三〔毛詩〕-450）（・ひ・あり・ず・す・なす・）
○文王・天—命（返）に應（音）シて靈—臺（の）［之］基—趾（返）を度（入輕）—始シて其（の）位を營—表す。（群書治要巻三〔毛詩〕-450・注）（・おうず・す・）
○衆民・則（ち）築—作シて期—日を設ケ不（し）而（て）成（す）こと［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕-450・注）（・す・まうく・）
○言は文王（の）［之］德（一）（返）に説（ヨロコ）ンて其（の）事（返）に勸（ス、）ンて己（ヲノ）カ勞を忘ル［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-451・注）（・よろこぶ・すすむ・をの・が・わする・）（「説」左傍に補っており・「己」字、補充符により補っており）
○經—始スルこと亟（スミヤカ）ニスルこと勿（か）レトモ・庶—民子（訓）ノコトクシて來ル（群書治要巻三〔毛詩〕-451）（・す・すみやかなり・す・なし・とも・の・ごとし・す・くる・）
○亟（キヨク）（入輕）は急［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-452・注）（・キヨク・）

○靈—臺（の）［之］基—趾（一）を經—始（二）スルこと・急（スミヤカ）に成（ナ）サレトイフ［之］意（一）有（返）（る）に非（す）。（群書治要巻三〔毛詩〕-452・注）（・すみやかなり・なす・と・いふ・）（「趾」字、右傍に補っており）

○衆—民・各（く）以て子（訓）父事（一）を成（ナ）スカコトクニシ而（て）來（ク）て攻レリ［之］（群書治要巻三〔毛詩〕-452・注）（・なす・が・ごとくにす・つくる・り・）

○●行（平）—葦（上）は忠厚ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-453）（・カウウヰ・なり・）（「忠厚也」三字、補充符により補っており）

○周—家・忠—厚にシて仁・草—木に及フ。（群書治要巻三〔毛詩〕-453）（・す・およぶ・）

○故に能（く）・内［於］九族を睦（ムツ）ヒ・外黄—耇（コウ）（上）を尊—事（す）。（群書治要巻三〔毛詩〕-453）（・むつぶ・コウコウ・）（本行にある「者」字見せ消ちあり、「耇」字、右傍に補っており）

○老（返）を養ヒ・言（返）（返）を乞（コ）フて以て其（の）福—禄を成す［焉］（群書治要巻三〔毛詩〕-454）（・やしなふ・こふ・）

○言（返）を乞（ふ）とは從（ひ）て善—言以て政（返）を爲（す）（一）可（二）キ者（上）を求（下）（む）ソ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-455・注）（・べし・ぞ・）

○敦（タン）（平）タル彼の行—葦アリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-455）（・タン・たり・あり・）

○羊—牛に踐（フ）ミ—履（フ）マシムルこと勿（か）レ。（群書治要巻三〔毛詩〕-456）（・ふむ・ふむ・しむ・なし・）

○方（マさ）に苞（ハウ）シ・方に體アラントス。（群書治要巻三〔毛詩〕-456）（・まさに・ハウ・あり・と・す・）（「體」字、右傍「徒端反」三字あり）

○維レ葉（訓）泥（上濁）—々（泥）タリ（群書治要巻三〔毛詩〕-456）（・これ・たり・）

○敦（タン）は聚（アツマ）レル貌［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-457・注）（・タン・あつまる・り・）

○葉初て生（ヲ）フルトキに泥—々（泥）—然タリ（群書治要巻三〔毛詩〕-457・注）（・をふ・とき・たり・）

○體は形（返）を成（ナ）スソ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-457・注）（・なす・ぞ・）

○敦—々（敦）—然タル・道の旁（カタハラ）（の）［之］葦（訓）を・羊—牛を牧フ者（もの）・蹈（フ）ミ—履（フ）ミ折（ヤフ）リ—傷（一）ラ使（二）（返）（む）こと无（か）レ［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕-457・注）（・たり・かたはら・かふ・ふむ・ふむ・をる・やぶる・なし・）

○草—物方に茂ク—盛ナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-458・注）（・もし・さかんなり・）（「草」字、補充符により補っており）

○其（の）終に將（マさ）（に）人の用（一）に爲（タ）（返）ランと［將］（再讀）（二）ルを以（三）（す）（群書治要巻三〔毛詩〕-458・注）（・まさに・たる・む・す・）（本行にある「也」字、見せ消ちあり）

○況（や）・其ヲ人に於（ヲイ）テ乎（ヤ）（群書治要巻三〔毛詩〕-458・注）（・を・をいて・や・）

○黄—耇・臺（平）—背アリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-459）（・あり・）（本行にある「者」字、消しており、「耇」字、補っており）

○以て引（ナカウ）シ（傳）［イ、引ク（箋）］・以て翼（ツヽシ）ム［イ、翼ク（箋）］（群書治要巻三〔毛詩〕-459）（・ながうす・みちびく・つつしむ・たすく・）

○大に老ヌルトキンハ［則］背に鮐（サメ）の文（アヤ）有（り）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-459・注）（・しぬ・ときんば・・さめ・あや・）

○既に老—人（返）に告（ツ）ケて其（れ）來（返）（る）に及（ひ）て［也］禮（返）を以て引（イ）ンシ［之］・禮（返）を以て翼（ヨク）ス［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕-459・

注）（・つぐ・いぬ・き・ヨク・す・）
○壽―考ニシて維レ祺シ。（群書治要巻三〔毛詩〕－460・注）（・なり・す・これ・よし・）
○以て景―福を介ク（箋）［イ、介ニス（傳）］（群書治要巻三〔毛詩〕－460）（・たすく・をほきなり・す・）
○老人を養（ひ）而吉（音）（返）得。（群書治要巻三〔毛詩〕－461・注）（・やしなふ・う・）
○大―福を助クル所―以ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－461・注）（・たすく・なり・）
○●假（去）―樂成王（を）嘉セリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－462）（・カラク・よみす・り・）
○顯―々（顯）タル令―德アリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－462）（・たり・あり・）
○民（返）に宜シク・人（返）に宜シ。（群書治要巻三〔毛詩〕－463）（・よろし・よろし・）
○禄［于］天に受ク（群書治要巻三〔毛詩〕－463）（・うく・）
○民（返）に宜（し）ク人（返）に宜シトイハ・民（返）を安（返）スルに宜（し）ク・人（返）を官（返）スルに宜シキソ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－463・注）（・よろし・よろし・といは・やすんず・よろし・す・よろし・ぞ・）
○天下・成―王光―々（光）（の）［之］善―德（一）有（二）ルことを嘉（三）―樂す。（群書治要巻三〔毛詩〕－464・注）（・あり・）
○民（返）を安シ・能（く）人（返）を官スルに・皆（な）其（の）宜（音）（返）を得て　以て福―禄を［於］天に受ク［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－464・注）（・やすんず・す・うく・）
○禄（返）（返）を千メて百―福アリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－465）（・ともむ・あり・）
○子孫千億アリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－465）（・あり・）
○穆―穆・皇―皇タリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－465）（・たり・）
○君（返）タルに宜シク・王（返）タルに宜シ（群書治要巻三〔毛詩〕－465）（・たり・よろし・たり・よろし・）
○天下に君―王タルに宜シ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－466・注）（・たり・よろし・）
○成王・顯―々（顯）（の）［之］令―德（返）行（をこナ）（ひ）て禄（返）を求メて百福得。（群書治要巻三〔毛詩〕－466・注）（・をこなふ・もとむ・う・）
○其（の）子孫・亦（た）勤メ―行（をこナ）（ひ）而求メ之禄（返）を得ルこと・千億ナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－466・注）（・つとむ・をこなふ・もとむ・う・なり・）（「之」字、補充符により補っており）
○故に或は諸侯爲リ。（群書治要巻三〔毛詩〕－467・注）（・たり・）
○或は天子爲リ。（群書治要巻三〔毛詩〕－467・注）（・たり・）
○言は皆（な）相（ひ）―勗ムルに道（返）を以（す）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－467・注）（・つとむ・）
○愆（返）ラ不・忘（返）レ不。（群書治要巻三〔毛詩〕－467）（・あやまる・わする・）（本行にある「正」字、見せ消ちあり、「忘」字、右傍に補っており）
○舊―章を率ヰ―由ヰル（群書治要巻三〔毛詩〕－467）（・ひきゐる・もちゐる・）
○成王（の）［之］令―德・過（去）―誤セ不。（群書治要巻三〔毛詩〕－468・注）（・す・）（「設」字、見せ消ちあり、「誤」字、右傍に補っており）
○遺―失セ不。（群書治要巻三〔毛詩〕－468・注）（・す・）

○舊—典（の）［之］文—章（ニ）を循（シタカ）（ニ）ヒ—用（ゐ）ルトイハ・周（の）公（の）［之］禮法（ニ）を謂（ニ）フ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－468・注）（・したがふ・もちゐる・といは・いふ・）（本行にある「用」字、見せ消ちあり、「周」字、補っており）

○●民—勞は召—穆—公・厲王を刺レリ［也］。（群書治要巻三〔毛詩〕－469）（・そしる・り・）

○民亦（た）勞（去）シヌ［止］。（群書治要巻三〔毛詩〕－469）（・す・ぬ・）（「止」字、左傍に「辞也」二字あり）

○汔ト（箋）［イ、汔シ（傳）］・小シ康カル可ケレヤ（箋）［イ、康ス可シ（傳）］。（群書治要巻三〔毛詩〕－469）（・ほとをど・あやふし・すこし・べし・や・やすし・やすんず・べし・）（本行にある「沇」字、見せ消ちあり、「汔」字、右傍に補っており）

○此（れ）中國（返）を惠（ウツクシ）ンて以て四方を綏（ヤスン）セヨ（群書治要巻三〔毛詩〕－470）（・うつくしぶ・やすんず・）

○汔（キツ）（入輕）は幾（平）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－470・注）（・キツ・）

○今周の民・疲—勞シンタリ［矣］（群書治要巻三〔毛詩〕－471・注）（・す・む・たり・）

○王幾（ホトフト）に・小シ安カル可（ヘ）シ［之］乎（ヤ）・此（の）京師（の）［之］人（返）を愛シて以て天下を安セヨ。（群書治要巻三〔毛詩〕－471・注）（・ほとをどに・すこし・やすし・べし・や・す・やすんず・）

○京—師は［者］諸—夏（の）［之］根—本ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－471・注）（・なり・）（本行にある「黄」字、消しており）

○●板（上）凡—伯厲王（を）刺レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－472）（・そしる・り・）

○上帝板—々（板）タリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－473）（・たり・）

○下民卒（コトゴク）に癉（ヤ）ミヌ。（群書治要巻三〔毛詩〕－473）（・ことごとくに・やむ・ぬ・）（「癉」字、左傍「本乍憚」三字あり）

○話（コト）（返）を出セトモ・然（音）（返）セ不。（群書治要巻三〔毛詩〕－473）（・こと・いだす・とも・す・）

○猶（箋）［イ、猶（傳）］を爲（ス）ルこと遠（返）カラ不（群書治要巻三〔毛詩〕－474）（・はかりこと・みち・す・とほし・）

○上帝トイハ以て王—者を稱す。（群書治要巻三〔毛詩〕－474・注）（・といは・）

○癉（タン）（上）は病［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－474・注）（・タン・）

○話（クワイ）（去）は善—言［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－474・注）（・クワイ・）

○王・政（返）を爲（ス）ルこと・先—王與（と）天（の）［之］道（訓）（ニ）［與］（再讀）（ニ）に反（音）（ニ）セリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－474・注）（・す・す・り・）

○天下の民盡（コトゴク）に癉（み）ヌ。（群書治要巻三〔毛詩〕－475・注）（・ことごとくに・ぬ・）

○其（れ）善—言を出セトモ［而］・行（をこナ）（返）ハ不［之］［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－475・注）（・いだす・とも・をこなふ・）（「而」字、補充符により補っており）

○此（返）（返）を以て謀（返）を爲（ス）ルこと・遠ク圖（ハカ）ルこと能（は）不。（群書治要巻三〔毛詩〕－475・注）（・す・はかる・）

○禍（の）［之］將に至（返）（り）ナント［將］（再讀）（ニ）ルを知（ニ）（返）（ら）不［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－475・注）（・ぬ・む・と・す・）

○猶（ハカリコト）［之］・未（た）遠（から）［未］（再讀）。（群書治要巻三〔毛詩〕－475）（・はかりこと・）（本行に「不」字あり、「未」字、合点付き、左傍により補

っており）
○王（の）［之］謀・遠キを圖ルこと能（は）不。（群書治要巻三［毛詩］－476・注）（・とほし・はかる・）（「遠」字、右傍により補ており）
○是を用テ故に・我大に王を諫む［也］（群書治要巻三［毛詩］－476・注）（・もて・）
○介—人維レ藩（平）ナリ。（群書治要巻三［毛詩］－476）（・カイジン・これ・ハン・なり・）
○太—師維レ垣ナリ。（群書治要巻三［毛詩］－477）（・これ・エン・なり・）
○大—邦維（れ）屏ナリ。（群書治要巻三［毛詩］－477）（・ヘイ・なり・）
○太宗維レ翰（去）ナリ（群書治要巻三［毛詩］－477）（・これ・カン・なり・）
○王當に公卿・諸侯・及ヒ・宗宗（の）［之］貴キ—者（返）を用ヰて藩—屏・垣—幹（返）と爲て輔—弼（返）と爲て疏シ—遠（返）サ（一）クル（こと）無（二）カル（と）［當］（再讀）（三）［之］［也］（群書治要巻三［毛詩］－478・注）（・および・たふとし・もちゐる・す・うとんず・とほざく・なし・）（「宗」補充符により補っており・「宗宗」は「宗室」の誤記か・「屏」、「垣」二字、右傍に補っており、本行にある字見せ消ちあり）
○德（返）を懷クル維レ寧シ。（群書治要巻三［毛詩］－479）（・やはらぐ・これ・やすし・）
○宗子維レ城ナリ。（群書治要巻三［毛詩］－480）（・これ・なり・）
○城（返）（返）を俾テ壞（一）レ［俾］（再讀）（二）（返）ムルこと無シ。（群書治要巻三［毛詩］－480）（・す・こぼる・しむ・なし・）
○獨（り）斯レ（箋）［イ、斯ノ（傳）］畏（一）ルゝこと無（二）シ（群書治要巻三［毛詩］－480）（・はなる・この・をそる・なし・）
○汝の德（返）を和ケて酷（入）—暴（の）［之］政（返）を行（こな）（ふ）こと無クシて以て汝の國を安セヨ。（群書治要巻三［毛詩］－481・注）（・やはらぐ・おこなふ・なし・す・やすんず・）
○是（返）を以て宗子（の）［之］城（一）（返）と爲（二）て［於］難に免（まぬ）レ使メヨ。（群書治要巻三［毛詩］－481・注）（・す・まぬかる・しむ・）
○宗子城・壞レは［則］乖（平）—離シ而汝獨（り）—居而畏リン［矣］（群書治要巻三［毛詩］－481・注）（・こぼる・す・ゐる・をそる・む・）
○●蕩（平）は邵—穆—公・周—室大に壞レヌルことを傷メリ［也］（群書治要巻三［毛詩］－483）（・おほきなり・やぶる・ぬ・いたむ・り・）（「蕩」字、左傍「唐黨反」三字あり）
○厲—王・無—道にシて天下蕩—蕩とシて綱—紀文—章無シ。（群書治要巻三［毛詩］－483）（・す・す・なし・）
○故に是の詩（を）作ル［也］（群書治要巻三［毛詩］－484）（・つくる・）
○蕩—蕩タル上帝・下—民（の）［之］辟ナリ（群書治要巻三［毛詩］－485）（・たり・きみ・なり・）
○上帝は以て君王に託ク［也］（群書治要巻三［毛詩］－485・注）（・つく・）（「託」字、右傍に補っており、下に「本」一字あり、本行にある字、見せ消ちあり）
○蕩々（蕩）とは言は法—度廢レ—壞（ナ）ル［之］皃ナリ［也］（群書治要巻三［毛詩］－485・注）（・すたる・すたる・なり・）（「也」字、補充符より補っており）
○厲—王乃（ち）此（返）を以て人上（カみ）（返）に居（キ）て天下（の）［之］君爲（タ）リ。（群書治要巻三［毛詩］－486・注）（・かみ・ゐる・たり・）（本行にある「及」字、見せ消ちあり、「乃」字、補っており）
○言は其レ則（ノト）リ—像（カタト）（一）ル可（二）（返）（し）と無（く）こと［之］甚シ［也］

（群書治要巻三〔毛詩〕－486・注）（・それ・のとる・かたどる・はなはだし・）
○疾―威スル上帝・其（の）命（音）僻（返）多シ（群書治要巻三〔毛詩〕－486）（・す・よこしま・おほし・）
○人（返）を疾―病（する）とは［者］・賦―斂（一）を重（二）スルソ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－487・注）（・をもうす・ぞ・）
○人（一）を威―罪（二）（する）とは［者］・刑―法（一）を峻（二）シウスルソ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－487・注）（・さがし・す・ぞ・）
○其（の）政―教・又（た）邪―僻（返）多シて舊―章に由ラ不［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－488・注）（・おほし・よる・）
○天・烝―民を生ス。（群書治要巻三〔毛詩〕－488）（・なす・）（本行にある「蒸」字、見せ消ちあり、「烝」字補っており）
○其（の）命諶（返）アルに匪ス。（群書治要巻三〔毛詩〕－488）（・まこと・あり・あらず・）
○初（返）有ラ不トイフこと靡シ。（群書治要巻三〔毛詩〕－489）（・はじめ・あり・ず・と・いふ・なし・）
○終（返）有ルこと克ク鮮シ（群書治要巻三〔毛詩〕－489）（・をはり・あり・よく・すくなし・）
○天［之］此の衆―民を生ス・其レ教へ―道ク［之］・誠―信（返）を以て之（返）を使て忠―厚（一）ナラ［使］（再讀）（二）（む）こと［當］（再讀）（三）（返）（ら）非［乎］。（群書治要巻三〔毛詩〕－489・注）（・なす・それ・をしふ・みちびく・なり・）
○今則（ち）然ラ不。（群書治要巻三〔毛詩〕－490・注）（・しかり・）
○既に爾（音）（上）の止（音）を愆ツ。（群書治要巻三〔毛詩〕－490）（・なむぢ・あやまつ・）
○明（音）（返）靡ク・晦（音）（返）靡シ。（群書治要巻三〔毛詩〕－490）（・なし・なし・）
○式テ號（平）シ・式（て）呼（去）す。（群書治要巻三〔毛詩〕－491）（・もて・カウ・す・）
○晝（返）（返）を俾て夜（一）（返）に作（一）サ［俾］（再讀）（二）ム（群書治要巻三〔毛詩〕－491）（・ひる・す・なす・しむ・）
○晝（返）（を）使て夜に爲サ［使］（再讀）ムルソ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－491・注）（・す・なす・しむ・ぞ・）
○汝既に［於］沈―湎に過チリ［矣］（群書治要巻三〔毛詩〕－492・注）（・あやまつ・り・）
○又（た）明―晦の爲に・止―息（一）スルこと有（二）（ら）不（三）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－492・注）（・す・）
○醉（ひ）ヌルトキンハ［則］號―呼シて相（ひ）―效（ひ）て晝―日（返）を用て夜（返）に作シて政事（一）を視（二）（返）不［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－492・注）（・よふ・ぬ・ときんば・す・ならふ・もて・なす・）
○文王曰（く）咨―咨・汝殷―商。（群書治要巻三〔毛詩〕－492）（・ああ・）
○上帝時（返）アラ不（一）ルには匪（二）（す）・殷の舊キを用（ゐ）不レハナリ（群書治要巻三〔毛詩〕－493）（・あり・ず・ふるし・ず・ば・なり・）
○此レ言は紂（の）［之］亂・其（れ）生ケルこと其（の）時（一）を得（返）不（二）に非（三）（す）。（群書治要巻三〔毛詩〕－494・注）（・これ・いく・）
○乃（ち）先王（の）［之］故―法を用（ゐ）不（る）か・致（返）セル所ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－494・注）（・いたす・り・なり・）
○老―成―人（一）無（二）（返）（し）と雖（も）・尚ヲ典―刑有（り）（群書治要巻三〔毛詩〕－494）（・なを・）

○老―成―人とは伊―尹・伊―陟と・臣―扈（上）か［之］屬（一）の若（二）（返）キを謂（ふ）［也］（群書治要巻三［毛詩］－495・注）（・シンコ・たぐひ・ごとし・）

○此の臣（一）無（二）（返）（し）と雖（も）・猶（ほ）常―事故―法の案へ―用（一）ル可（二）（しこと）有（三）（り）（群書治要巻三［毛詩］－495・注）（・かんがふ・もちゐる・）

○曾て是を聽（返）（く）こと莫（し）。（群書治要巻三［毛詩］－496）（・かつて・）

○大―命以て傾ヒタリ（群書治要巻三［毛詩］－496）（・これをもて・ほろぶ・たり・）

○朝―廷臣・皆（な）喜―怒（返）に任（せ）て曾て典―刑（返）を用ヰて事を治（む）ル者（一）无（二）（し）。（群書治要巻三［毛詩］－496・注）（・まかす・もちゐる・をさむ・）（「治」字、補充符により、補っており）

○以て誅―滅（一）に至（二）ル［也］（群書治要巻三［毛詩］－497・注）（・いたる・）（本行にある「至」「以」二字、見せ消ちあり）

○殷―鑒（去）遠（返）カラ不。（群書治要巻三［毛詩］－497）（・とほし・）（本行にある「監」字、見せ消ちあり、「鑒」字、補っており）

○此レは言は殷（の）［之］明―鏡・遠（返）（から）不［也］（群書治要巻三［毛詩］－498・注）（・これ・）（本行にある「紂」字、見せ消ちあり）

○近ク・夏后（の）［之］世に在（り）とは・湯桀を誅スルを謂（ふ）［也］（群書治要巻三［毛詩］－498・注）（・ちかし・す・）（「世」字、補充符により補っており）

○後にシ而武王紂を誅す。（群書治要巻三［毛詩］－498・注）（・す・）

○今（の）［之］王・何を以て用て戒（返）と爲（一）不（二）ル乎［也］（群書治要巻三［毛詩］－498・注）（・もて・す・ず・や・）

○●抑は衞の武公・厲―王を刺レリ［也］（群書治要巻三［毛詩］－499）（・そしる・り・）（「也」字、補充符により補っており）

○亦（た）以て自（ら）警ム［也］（群書治要巻三［毛詩］－499）（・いましむ・）

○競イこと無ランヤ・維レ人アラントキ。（群書治要巻三［毛詩］－500）（・こはし・なかれ・む・や・これ・あり・む・とき・）

○四方其レ訓フ［之］。（群書治要巻三［毛詩］－500）（・それ・をしふ・）

○覺シキ德―行（一）有（二）ルトキンハ・四國順フ［之］（群書治要巻三［毛詩］－500）（・ただし・あり・ときんば・したがふ・）

○人君の政を爲ルこと・［於］賢人（一）を得（二）ント（する）に強（三）（返）イこと无ランヤ。（群書治要巻三［毛詩］－501・注）（・す・う・む・と・こはし・なし・む・や・）

○賢―人（一）を得（二）ツルトキンハ・［則］天下［於］其（の）俗（一）に教（二）―化す（群書治要巻三［毛詩］－501・注）（・つ・ときんば・）

○大ナル德―行（一）有ルトキンハ・［則］天下・其（の）政（一）に順（二）ヒ―從フ。（群書治要巻三［毛詩］－502・注）（・おほいなり・あり・ときんば・したがふ・したがふ・）（「大」字、補充符により補っており）

○言は上の倡ヒ―道（一）ク所（二）―以に在（三）（り）［之］（群書治要巻三［毛詩］－502・注）（・かみ・いざなふ・みちびく・）

○威―儀を敬（み）―慎ム・維レ民（の）［之］則ナリ（群書治要巻三［毛詩］－503）（・つつしむ・つつしむ・これ・のり・なり・）

○爾の話（返）出（一）サンこと慎（二）ミ・爾威―儀（返）を敬ンて柔―嘉ナラ不トイフこと無（か）レ（群書治要巻三［毛詩］－503）（・なむぢ・

こと・いだす・む・つつしむ・つつしむ・なり・ず・と・いふ・なし・）
○話（クワイ）は言［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－504・注）（・クワイ・）（本行にある「善」字、見せ消ちあり）
○教―令を謂フ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－504・注）（・いふ・）
○白―珪（の）［之］玷（カ）ケタルことは尚（ほ）磨（ミカ）イツ可（し）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－504）（・かく・たり・みがく・つ・）
○斯の言の［之］玷（け）タルことは爲（ヲサ）ム可（から）不［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－505）（・たり・をさむ・）
○玷（テン）は缺（クエツ）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－505・注）（・テン・クエツ）（「缺」字、右傍に補っており）
○玉（の）［之］缺（カ）ケタルことは尚（ほ）磨（平濁）―鑢（リヨ）ニシ而平（てヒトシ）メツ可（し）。（群書治要巻三〔毛詩〕－506・注）（・かく・たり・バリヨ・なり・す・ひとしむ・つ・）（本行にある「玷」字、見せ消ちあり）
○人君政―教・一（ひと）ツモ失（音）センことは誰能（く）・之か反―復セン［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－506・注）（・ひとつ・も・す・む・す・む・）
○●桑柔は芮（セイ）（去濁）―伯・厲―王を刺レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－507）（・ゼイ・そしる・り・）
○憂フル―心殷―々（殷）タリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－508）（・うれふ・たり・）
○我か土―宇を念フ。（群書治要巻三〔毛詩〕－508）（・をもふ・）
○我か生（ウマ）レタルこと辰（トキ）（返）アラ不・天の僤（アツ）ク―怒ルに途ヘリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－508）（・うまる・たり・とき・あり・あつし・いかる・あふ・り・）
○西（返）自（り）・東（返）に徂（ユ）ク。（群書治要巻三〔毛詩〕－509）（・ゆく・）
○定（さた）リ―處ル所靡（ナ）シ（群書治要巻三〔毛詩〕－509）（・さだまる・をる・なし・）
○僤（タン）（去）は厚［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－509・注）（・タン・）
○此レ土―卒・軍（イくさ）（返）（返）に從（ひ）て久ク息（イコ）（返）ハ不・勞―苦シて自（ミつか）（ら）傷（イた）（む）［之］言（イ）ヒナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－509・注）（・これ・いくさ・ひさし・いこふ・す・みづから・いたむ・いふ・なり・）
○人亦（た）言（イ）（返）ヘルこと有（り）・進―退維レ谷（キハマ）レリ（群書治要巻三〔毛詩〕－510）（・いふ・り・これ・きはまる・り・）
○却（シリソ）イては罪―役に迫（セマ）ル。（群書治要巻三〔毛詩〕－511・注）（・しりぞく・せまる・）
○故に窮（きは）マ ル［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－511・注）（・きはまる・）
○維レ此（の）良―人・求（返）メ弗迪（スヘ）（返）メ弗。（群書治要巻三〔毛詩〕－511）（・これ・もとむ・すすむ・）
○維（れ）彼の忍フ―心をは是を顧（かへ）リミ・是を復（カヘサ）フ（群書治要巻三〔毛詩〕－512）（・しのぶ・かへりみる・かへさふ・）
○國に・善人有リ（群書治要巻三〔毛詩〕－512・注）（・あり・）
○王求メ―索（モト）メ不。（群書治要巻三〔毛詩〕－512・注）（・もとむ・もとむ・）
○進（スヘ）メ―用（一）ヰ不（二）［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕－513・注）（・すすむ・もちゐる・）（本行にある「而」「集」二字、見せ消ちあり、「不」「進」二字、補っており）
○忍（ひ）て惡（返）を爲（ス）ル［之］心（一）有（二）ル者は王反て顧（かへ）リミ―念（ひ）而重（てヲモ）シ―復（カヘサ）フ［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕－513・注）（・す・あり・もの・かへりみる・をもんず・かへさふ・）（本行にある「欲」字、見せ消ちあり、「顧」字、補っており）
○言は其（れ）賢―者（返）を忽（イルカセニ）シて小―人を愛す［也］（群書治要巻三〔毛

詩〕-513・注）（・いるがせにす・）
○大—風隧（ミチ）を有リ・貪—人類（タクヒ）ヲ（返）（箋）［イ、類ヲ（ヨキコト）（傳）］敗ル。（群書治要巻三〔毛詩〕-513・注）（・みち・あり・たぐひ・を・よし・こと・を・やぶる・）
○聽（去）—言には則（ち）對フ。（群書治要巻三〔毛詩〕-514）（・こたふ・）
○誦—言には醉（ヱ）（返）ヘルか如シ（群書治要巻三〔毛詩〕-514）（・ゑふ・ごとし・）
○貪—惡（の）［之］人・道—聽ク［之］言（コト）（一）を見（二）ては・［則］應（去）—答す［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕-515・注）（・きく・こと・）
○詩書（の）［之］言（一）誦（二）（返）スルを見ては・［則］眠リ—臥（フ）セルこと醉（返）ヘルか如（し）。（群書治要巻三〔毛詩〕-515・注）（・す・なむる・ふす・り・ゑふ・り・）
○君・上—位に居（キテ）而此を行フトキンハ・人效（ナラ）（返）フコト或（ア）リ［之］［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-515・注）（・ゐる・をこなふ・ときんば・ならふ・こと・あり・）（「或」、「効」二字、右傍に補っており、「如」字、見せ消ちあり）
○●雲—漢は仍（平）—叔（入）・宣—王を美（め）タリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-516）（・たり・）
○宣王・厲王（の）［之］烈（音）（一）（返）に承（ウ）（二）ケて内に亂（返）を撥（ヲサ）ムル［之］志（一）有（二）（り）。（群書治要巻三〔毛詩〕-516）（・うく・をさむ・）
○灾（音）（返）に遇（ア）（ひ）而懼（テ）ル身（返）を側（ソハ）メ・行（去）（返）（返）を修（ヲサ）メて消（ケ）シ—去（ス）（一）テンことを欲（二）す［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕-517）（・あふ・おそる・そばむ・をさむ・けす・すつ・む・）
○天下・［於］王化の復（た）行ハレて百姓の憂へ（返）見（ラ）（一）ルヽことを喜（二）フ。（群書治要巻三〔毛詩〕-518）（・をこなはる・うれふ・らる・よろこぶ・）
○故に是の詩（を）作ル［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-519）（・つくる・）
○倬（タク）（入）タル彼の雲—漢アリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-519）（・タク・たり・あり・）
○昭（ヒカリ）・［于］天に回（メグ）ル（群書治要巻三〔毛詩〕-519）（・ひかり・めくる・）
○倬—然タル天—河は水—氣［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-520・注）（・たり・）（「河」字、右傍に補っており）
○精—光・［於］天に轉—運セリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-520・注）（・す・り・）
○時に旱（ヒテ）（り）て雨（返）を渴（ネカ）フ。（群書治要巻三〔毛詩〕-520・注）（・ひでる・ねがふ・）（「旱」字、補充符により補っており）
○故に宣王・夜仰（よルあふ）（き）て天—河（返）を視て其（の）候（一）を望（ミ）（二）—視ル［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-520・注）（・よる・あふぐ・みる・みる・）
○王曰（く）於（ア）［乎］・何（ナニ）の辜（ツミ）カアル・今（の）［之］人。（群書治要巻三〔毛詩〕-521）（・あ・なに・つみ・が・あり・）
○天・喪—亂（返）を降シて飢—饉・薦（シキリ）に臻ル（群書治要巻三〔毛詩〕-521）（・くだす・しきりに・いたる・）
○王・旱（ヒテリ）（返）を憂（テ）へ而嗟—歎（し）て云ク・何（の）罪カアル與（ヤ）・今時天下（の）［之］人。（群書治要巻三〔毛詩〕-522・注）（・ひでり・うれふ・いはく・が・あり・や・）（本行にある「旱」字、見せ消ちあり、「旱」字補っており）
○天・乃（ち）旱—灾亡—亂（の）［之］道（訓）（返）を下（クタ）シて飢—饉（の）［之］害・復（た）重（シキリ）に至（る）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-522・注）（・くだす・しきりに・）
○神とシて舉（音）セ不（ス）トイフこと靡（ナ）シ。（群書治要巻三〔毛詩〕-523）

（・す・す・ず・と・いふ・なし・）
○斯の牲を愛（す）ルこと靡シ。（群書治要巻三〔毛詩〕－523）（・す・なし・）
○圭―璧既に卒キヌ。（群書治要巻三〔毛詩〕－523）（・つく・ぬ・）
○寧（カツ）て我に聽クこと莫（し）（群書治要巻三〔毛詩〕－524）（・かつて・きく・）
○言は王・旱（ひて）リ（返）爲（の）［之］故に・［於］群神（返）を求（め）て祭ラ不トイフこと无シ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－524・注）（・ひでり・まつる・と・いふ・なし・）（「故」字、補充符により右傍に補っており）
○［於］三牲を愛スル所无シ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－525・注）（・す・なし・）（本行にある「神」字、消しており）
○神を禮スル［之］圭―璧・又（た）已に盡（き）ヌ［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕－525・注）（・す・ぬ・）（「神」字、補充符により右傍補っており）
○曾（カツ）て我（の）［之］精―誠を聽丶＿聆ク［而］［イ、聽（き）＿聆（き）而（て）］雲―雨を興ス者（もの）（一）无（二）（し）［與］（群書治要巻三〔毛詩〕－525・注）（・かつて・きく・きく・をこす・）（「誠」字、左傍に補っており、本行にある字、見せ消ちあり）
○●崧（スウ）（平）―高は尹―吉―甫・宣王を美（め）タリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－526）（・スウカウ・たり・）（「崧」字、左傍「胥忠反」三字あり）
○天下復―平シて能ク國（返）を建テ・諸侯（返）を親（音）シて申―伯を褒―賞す［焉］（群書治要巻三〔毛詩〕－526）（・す・よく・たつ・す・）（「褒」字、右傍に補っており）
○維レ嶽（音）神（返）を降シて甫（上）及（ひ）申を生セリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－528）（・これ・くだす・なす・り・）（「申」字、右傍に補っており）
○維レ申及（ひ）甫・維（れ）周の［之］翰（カン）ナリ［イ、翰シナリ］（群書治要巻三〔毛詩〕－528）（・これ・カン・なり・こはし・なり・）（「翰」字、「戸旦反」三字あり・一番目の「申」は補っており）
○皆（な）賢―知（返）を以て入（り）て周（の）［之］楨―翰（の）［之］臣（一）爲（タ）（二）リ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－529・注）（・たり・）（「賢」字、補充符により補っており）
○申―伯か［之］德・柔―惠にシて且（つ）直ナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－529）（・す・なり・）
○此（の）萬―邦（返）を揉（シタカ）へて［于］四國に聞ヘタリ（群書治要巻三〔毛詩〕－530）（・したがふ・きこゆ・たり・）
○揉（シウ）（上濁）は順［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－530・注）（・ジウ・）
○四國は猶（ほ）四方と言ハン（イ）か［猶］（再讀）（し）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－531・注）（・いふ・む・）
○●烝―民は尹―吉―甫・宣王を美（め）タリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－532）（・たり・）（「烝」字、右傍に補っており）
○賢（返）を任（去濁）シ・能（音）（返）を使（ツカ）（ひ）て周室・中―興す［焉］（群書治要巻三〔毛詩〕－532）（・す・つかふ・）
○天・烝―民を生（ナ）セリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－533）（・なす・り・）
○是（の）懿―德を好（ヨク）す（群書治要巻三〔毛詩〕－533）（・よくす・）
○天［之］衆―民を生（す）と・美―德有ル［之］人（一）を好（ヨク）（二）（返）セ不（ス）（返）トイフ（こと）莫シ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－533・注）（・あり・よくす・ず・と・いふ・なし・）（「不」字、補充符により右傍補っており）
○天・有―周を臨（ミ）ル・昭（アキラカ）ナルこと［于］下に假（シモイタ）ル。（群書治要巻三〔毛詩〕－534）（・みる・あきらかなり・しも・いたる・）（本行にある「監」字、右傍に「臨」字補っており）
○茲の天子（返）を保（ヤスン）シて［イ、保（タモ）（りて）］仲山甫を生（ナ）セリ（群書治要巻三

〔毛詩〕－534）（・やすんず・たもる・なす・り・）
○假（入）は至［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－535・注）（・カク・）
○天・周王（の）［之］政―教を視ルに・其（の）光―明ナルこと・乃（ち）［於］下に至レリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－535・注）（・みる・なり・いたる・り・）
○［於］衆民（一）に及（二）（返）フを謂（ふ）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－535・注）（・およぶ・）
○天・此（の）天子宣王（一）を安（ゑ）（二）シ―愛す。（群書治要巻三〔毛詩〕－536・注）（・やすんず・）
○故に仲山甫（返）を生（み）て佐（返）ケ使（む）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－536・注）（・たすく・）
○仲山甫か［之］徳・柔―嘉にシて維レ則アリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－536）（・す・これ・のり・あり・）
○儀（音）（返）を令シ・色（訓）（返）（返）を令シて心（返）（返）を小メて翼々（翼）タリ（群書治要巻三〔毛詩〕－537）（・よくす・よくす・せむ・たり・）
○威―儀を善シ・顔―色（返）を善シて容―皃翼―翼―然とシて恭―敬ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－537・注）（・よくす・よくす・す・なり・）
○肅々（肅）タル王―命を・仲山甫將フ［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕－538）（・たり・をこなふ・）
○邦―國の若―否を・仲山甫明にす［之］（群書治要巻三〔毛詩〕－538）（・ジヤクヒ・）（「否」字、左傍に「音鄙」二字ある・本行にある「助」字、見せ消ちあり、「明」字、右傍に補っており）
○既に明（音）・且タ哲ナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－539）（・また・なり・）
○以て其（の）身を保ツ。（群書治要巻三〔毛詩〕－540）（・たもつ・）
○夙―夜に懈（返）レルに匪（す）シて以て一人に事（ひ）ツル（群書治要巻三〔毛詩〕－540）（・をこたる・り・す・つ・）
○一人とは天子を斥ス［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－541・注）（・さす・）
○人亦（た）言ヘル（こと）有リ・柔（訓）ナルをは則（ち）茹フ［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕－541）（・いふ・り・あり・やはらかなり・くらふ・）
○剛キをは［則］吐ク［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕－541）（・こはし・はく・）
○維（れ）仲山甫・柔ヲモ亦（た）茹（返）ハ不。（群書治要巻三〔毛詩〕－542）（・をも・くらふ・）
○剛ヲモ亦（た）吐（返）（か）不。（群書治要巻三〔毛詩〕－542）（・をも・）
○鰥―寡ヲモ侮ラ不。（群書治要巻三〔毛詩〕－542）（・をも・あなどる・）
○強―御ヲモ畏チ不。（群書治要巻三〔毛詩〕－543）（・をも・をつ・）
○人亦（た）言ヘルこと有リ・德輶イこと毛（返）の如（し）。（群書治要巻三〔毛詩〕－543）（・いふ・り・あり・かろし・）
○民克ク舉（音）スルこと鮮シ［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕－543）（・よし・す・すくなし・）
○我／カ儀圖ル［之］（箋）［イ、我儀シク圖ルヘシ［之］（傳）］（群書治要巻三〔毛詩〕－544）（・が・たぐひ・はかる・われ・よろし・はかる・べし・）
○人［之］言（ひ）て云ク・德甚（た）輕シ。（群書治要巻三〔毛詩〕－544・注）（・いふ・いはく・かろし・）
○然―而モ・衆―人能ク獨リ舉ケ之以て行フ者（も）（一）寡（二）シ。（群書治要巻三〔毛詩〕－544・注）（・しかれども・よく・ひとり・あぐ・をこなふ・すくなし・）
○言は政―事は易カラク耳。（群書治要巻三〔毛詩〕－545・注）（・やすし・く・のみ・）

○人・行（返）フこと能（返）（は）不ルは［者］・其（の）志无ケレハナリ［也］（群書治要巻三［毛詩］－545・注）（をこなふ・ず・なし・ば・なり・）（本行にある「不」消しており）

○我與倫―疋・圖ル［之］。（群書治要巻三［毛詩］－545・注）（・はかる・）

○而て未（た）爲ルこと能（は）［未］（再讀）［也］（群書治要巻三［毛詩］－545・注）（・す・）

○維レ仲山甫・之に舉（音）す（群書治要巻三［毛詩］－545）（・これ・）

○仲山甫・能（く）獨リ・是の德を舉ケ而行フ［之］（群書治要巻三［毛詩］－546・注）（・ひとり・あぐ・をこなふ・）

○袞（上）―職闕（返）ケタルこと有ルトキニ・維レ仲山甫補フ［之］（群書治要巻三［毛詩］－546）（・コンシキ・かく・たり・あり・ときに・これ・をきぬふ・）（「袞」字、左傍に「古本反」三字あり）

○王（の）［之］職・缺ケタルこと有ルトキニ・輒（ち）能ク補フは［之］［者］・仲山父ナリ［也］（群書治要巻三［毛詩］－547・注）（・かく・たり・あり・ときに・よく・をきぬふ・なり・）

○●瞻（平濁）―仰（上濁）は凡―伯幽―王大に壞レタルことを刺レリ［也］（群書治要巻三［毛詩］－548）（・ゼンギヤウ・やぶる・たり・そしる・り・）

○昊―天を瞻―仰ク。（群書治要巻三［毛詩］－549）（・みる・あふぐ・）

○此（の）大―厲（去）を降す（群書治要巻三［毛詩］－549）（・くだす・）

○昊天は王を斥ス［也］（群書治要巻三［毛詩］－549・注）（・さす・）（「者」字、見せ消ちあり「斥」字、右傍に補っており）

○邦定ムルこと有（る）靡シ。（群書治要巻三［毛詩］－549）（・さだむ・なし・）

○士民其（れ）瘵ミヌ（群書治要巻三［毛詩］－550）（・やむ・ぬ・）（「瘵」字、右傍に補っており）

○瘵（去）は病［也］（群書治要巻三［毛詩］－550・注）（・サイ・）

○人・土―田有（る）ことは・汝反て有ツ［之］。（群書治要巻三［毛詩］－550）（・かへる・たもつ・）

○人・民―人有（れ）は・汝覆て奪フ［之］（群書治要巻三［毛詩］－551）（・かへて・むばふ・）

○此は言は王・諸侯及（ひ）卿大夫罪（返）无キ者（一）を削リ―黜ク［也］（群書治要巻三［毛詩］－551・注）（・けづる・しりぞく・）

○此（の）宜シク罪（返）無カル（返）［宜］（再讀）キをは・汝反て收フ［也］（群書治要巻三［毛詩］－552）（・よろし・なし・べし・とらふ・）

○彼の宜（しく）罪（返）有（る）（返）［宜］（再讀）（き）をは・汝覆て説ス［之］（群書治要巻三［毛詩］－552）（・かへて・ゆるす・）

○説（去）は放―赦［也］（群書治要巻三［毛詩］－553・注）（・セイ・）

○哲―夫・城（返）を成す。（群書治要巻三［毛詩］－553）（・テツブ・）（「哲」字、右傍に補っており、下に「本乍」二字あり）

○喆―婦城（返）を傾ク（群書治要巻三［毛詩］－553）（・かたぶく・）

○喆とは謀慮（一）多（二）（返）キことを謂フ［也］（群書治要巻三［毛詩］－553・注）（・おほし・いふ・）

○懿・厥の喆―婦・梟（平）を爲鴟（平）（返）を爲（群書治要巻三［毛詩］－554）（・あ・ケウ・す・シ・）

○懿は痛（み）―傷（む）所有ル［之］聲［也］（群書治要巻三［毛詩］－554・注）（・あり・）（「懿」字、右傍に補っており、本行にある字、見せ消ちあり）

○褒―姒（の）［之］言の善（音）（返）无（一）キに喻（二）フ［也］（群書治要巻三［毛詩］－554・注）（・なし・たとふ・）（本行にある「妣」字、見せ消ち

あり、「姒」字、補っており）
○婦長（き）＿舌有（り）・維レ厲（の）［之］階。（群書治要巻三〔毛詩〕－555）（・これ・わざはひ・はし・）
○亂・天（返）自（返）（り）降（返）スに匪（す）。（群書治要巻三〔毛詩〕－555）（・くだす・）（「亂」字、右傍に補っており）
○婦―人自（り）生ル。（群書治要巻三〔毛詩〕－556）（・なる・）
○教（返）フルに匪（す）・誨（返）フルに匪（す）・時レ維レ婦を寺クレハナリ（群書治要巻三〔毛詩〕－556）（・をしふ・をしふ・これ・これ・ちかづく・ば・なり・）（本行にある「殷」「待」二字、見せ消ちあり、「教」「寺」二字、右傍に補っており）
○長―舌をは喩フ・言―語多キに［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－556・注）（・たとふ・おほし・）
○但、婦―人従（り）・出ツラク耳。（群書治要巻三〔毛詩〕－557・注）（・ただ・いづ・らく・）
○又（た）王亂（返）を爲（一）ルことを教（二）へ・王に［之］亂（返）を爲（一）（る）ことを語（二）ル者（上）有（下）（返）（る）に非（す）。（群書治要巻三〔毛詩〕－557・注）（・す・をしふ・かたる・）
○是（れ）維レ婦―人（返）を近ケ―愛シて其（の）言を用（ゐ）ル。（群書治要巻三〔毛詩〕－557・注）（・これ・ちかづく・す・もちゐる・）
○賈、三―倍（上）スルか如（し）。（群書治要巻三〔毛詩〕－558）（・あきもの・の・サンハイ・す・）
○君子是に識レリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－558）（・ここに・しる・り・）
○婦公―事に與ルこと無（し）。（群書治要巻三〔毛詩〕－558）（・あづかる・）
○其（の）蠶―織を休フ（群書治要巻三〔毛詩〕－559）（・いこふ・）（「蠶」字、右傍に補っており、下に「才」字あり）
○婦―人・外―政に與ルこと無（し）。（群書治要巻三〔毛詩〕－559・注）（・あづかる・）
○賈ニシ而三倍（の）［之］利（一）有（二）（る）をは［者］・小人宜（しく）知（る）所ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－559・注）（・あきもの・なり・す・なり・）（「宜知也」三字、補充符により補っており）
○今婦人・其（の）蠶―桑織―紝（の）［之］事を休（み）而朝―廷（の）［之］事に與レリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－560・注）（・やすむ・あづかる・り・）
○非―宜を爲ルこと・亦（た）猶（ほ）是クと［猶］（再讀）（し）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－560・注）（・す・かく・）（「非」字、補充符により補っており）
○弔ラ不・祥カラ不。（群書治要巻三〔毛詩〕－561）（・いたる・よし・）
○威―儀・類カラ不。（群書治要巻三〔毛詩〕－561）（・よし・）
○人［之］云ク亡ヒナン。（群書治要巻三〔毛詩〕－561）（・いはく・ほろぶ・ぬ・む・）
○邦―國殄キ―瘁ミナン（群書治要巻三〔毛詩〕－561）（・つく・やむ・ぬ・む・）
○弔は至［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－562・注）（・テウ・）
○王（の）［之］政（返）を爲（る）こと・德［於］天（一）に至（二）（返）ラ不［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕－562・注）（・いたる・）（本行にある「故」字、見せ消ちあり、「政」字、右傍に補っており）
○徵―祥［於］神に致スこと能（は）不［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕－562・注）（・いたす・）
○威―儀・又（た）［於］朝―廷に善カラ不［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕－562・

注）（・よし・）（「遅」字、見せ消ちあり、「廷」字、左傍に補っており）
○賢人皆（な）言ク・奔―亡シナン。（群書治要巻三〔毛詩〕－562・注）（・いはく・す・ぬ・む・）
○則（ち）天下・邦國・將に盡に困―病シナンと［將］（再讀）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－563・注）（・す・ぬ・む・）
○●清―廟は文王（二）を祀（二）レリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－564）（・まつる・り・）
○周公・既に雒（入）―邑（二）（返）を成（二）シて諸侯（二）（返）を朝（二）セシメて率ヰて以て文王（二）を祀（二）ル［焉］（群書治要巻三〔毛詩〕－564）（・ラクイフ・なす・す・しむ・ひきゐる・まつる・）（「雒」字、左傍に「音〔阝＋各〕本又乍洛」五字あり）
○清廟は［者］清明（の）［之］德有（る）者（二）を祭（二）ル［之］宮［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－565・注）（・ひと・まつる・）（「廟」「者」「之」三字右傍に補っており）
○文王（二）（を）祭（二）（返）ルを謂（ふ）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－565・注）（・まつる・）
○天德清―明ナリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－565・注）（・なり・）
○文王象レリ［焉］。（群書治要巻三〔毛詩〕－565・注）（・かたどる・り・）
○故に祭ルトキニシ［之］而此（の）詩を歌フ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－565・注）（・まつる・ときに・す・うたふ・）
○於・穆イカナ清―廟。（群書治要巻三〔毛詩〕－566）（・あ・よし・かな・）
○肅―雍（平）にシて顯ナル相アリ（群書治要巻三〔毛詩〕－566）（・すあきらかなり・たすけ・あり・）
○於（平）は歎ク（の）［之］辭（訓）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－566・注）（・なげく・）（「之」「也」二字、補充符より補っており）
○於―乎美イ―哉ナ・周公［之］清―廟を祭ルこと［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－567・注）（・あ・よし・かな・まつる・）
○其（の）禮・敬ンて且（つ）和ケリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－567・注）（・つつしむ・やはらぐ・り・）
○又（た）諸侯・光―明著（去）―見（の）［之］德（二）有（二）（る）者・來（り）て祭（まつ）リ（返）を助ク［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－567・注）（・チヨケン・まつり・たすく・）（「祭」字、右傍に補っており、「之」字、見せ消ちあり）
○濟―々（濟）タル多―士・文（の）［之］德（二）（返）を秉（二）（り）て［越］天（返）に在（二）ルに對（二）フ（群書治要巻三〔毛詩〕－568）（・セイセイ・たり・とる・あり・ならぶ・）（本行にある「康」字、見せ消ちあり、「秉」字、右傍に補っており・「越」字、左傍に「辞字也」三字あり）
○濟々（濟）タル［之］衆士・皆（な）文王（の）［之］德（二）を執（二）リ―行フ。（群書治要巻三〔毛詩〕－568・注）（・たり・とり・をこなふ・）
○文王精―神・已（ステ）天に在（り）［矣］。（群書治要巻三〔毛詩〕－569・注）（・すでに・）（「文」「天」二字、右傍に補っており）
○猶（ほ）其（の）素（返）に配―順シて行（をこナ）フこと生―存の如シ［焉］（群書治要巻三〔毛詩〕－569・注）（・す・をこなふ・ごとし・）
○●振（去）―鷺は二王（の）［之］後・來（り）て祭を助ク［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－570）（・たすく・）（「振」字、「之偵反」三字あり、「鷺」字、「立路」二字あり、「祭」字、補充符により補っており）
○其（の）後は杞（キ）宋［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－570・注）（・キ・）
○振―鷺・于（ユ）キ―飛フ。（群書治要巻三〔毛詩〕－571）（・ゆく・とぶ・）
○［于］彼（の）西雍（平輕）に［イ、彼（の）西雍（二）于（ニ）（二）］。（群書治要

巻三〔毛詩〕-571）（・に・）
○我か客・戾ル（イタ）［止］。（群書治要巻三〔毛詩〕-571）（・いたる・）（「止」字、「辞字也」三字あり）
○亦（た）斯の容（カタチ）有（り）（群書治要巻三〔毛詩〕-571）（・かたち・）
○振は群レ―飛（ふ）［之］貌［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-572・注）（・むる・）（「々」、見せ消ちあり・「也」字、補充符により補っており）
○白鳥・［於］西雍（の）［之］澤（一）に集（キ）（二）ルは・言は集（返）ル所・其の處を得タリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-572・注）（・ゐる・ゐる・たり・）（「集」「雍」「之」、補充符より右傍に補っており）
○興は［者］喩（ふ）・杞（キ）―宋（の）［之］君・潔―白（の）［之］德（返）有リて來（り）て［於］周（の）［之］廟（一）に祭を助（二）クルトキに・禮（の）［之］宜を得タル［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-572・注）（・キソウ・あり・たすく・ときに・たり・）（「德」左傍に補っており）（本行にある字見せ消ちあり、「禮」字、右傍に補っており）
○其（れ）至ルトキに［止］・亦（た）此（の）容（カタチ）（一）有（二）（り）。（群書治要巻三〔毛詩〕-573・注）（・いたる・ときに・かたち・）
○言は威―儀（の）［之］善（ヨ）イこと・鷺―鳥の如ク然リ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-573・注）（・よし・ごとし・しかり・）
○●雍は大―祖に禘（テイ）（去）セリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-574）（・テイ・す・り・）（「禘」字、右傍に「大計反」三字あり）
○來ヌルトキニ（に）雍々（雍）（一）タルこと有（二）（り）。（群書治要巻三〔毛詩〕-575）（・く・ぬ・ときに・たり・）
○至ルトキに［止］肅―々（肅）タリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-575）（・いたる・ときに・たり・）（「止」字左傍、「辞字也」三字あり）
○相（タス）クル維レ辟―公ミて天子穆々（穆）タリ（群書治要巻三〔毛詩〕-575）（・たすく・これ・みる・たり・）（本行にある「群」字、見せ消ちあり。「辟」字、右傍に補っており）
○是（れ）來ル―時に雍―々（雍）―然タルこと有（り）。（群書治要巻三〔毛詩〕-576・注）（・く・たり・）
○既に至ルトキニシ而（て）肅―々（肅）―然タリトイハ［者］・乃（ち）王禘―祭（一）を助（二）（く）ル・百辟與諸侯［與］（再讀）ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-576・注）（・いたる・ときに・す・たり・といは・たすく・なり・）（「者」、「辟」二字、補っており）
○天子是の時に・穆―々（穆）―然タリ。（群書治要巻三〔毛詩〕-577・注）（・たり・）
○言は天下（の）［之］歡フ―心を得タリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-577・注）（・よろこぶ・う・たり・）
○●有―客微―子は來（り）て［於］祖―廟に見（マミ）ユ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-577）（・まみゆ・）
○微子・殷後に代ハル。（群書治要巻三〔毛詩〕-578・注）（・かはる・り・）
○既に命（返）を受（け）て來―朝シて見ユ［之］［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-578・注）（・す・まみゆ・）
○客（返）有リ・客（返）有（り）。（群書治要巻三〔毛詩〕-578）（・あり・）
○殷は白（返）を尚（タト）フ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-579・注）（・たとぶ・）
○●敬―之は群―臣進（み）て嗣（ツ）ク―王を戒（イマシ）ム［也］（群書治要巻三〔毛詩〕-580）（・つぐ・いましむ・）
○敬（ツヽシ）メ［之］・敬メ［之］。（群書治要巻三〔毛詩〕-581）（・つつしむ・つつしむ・）

○天維レ顯ナリ［思］。（群書治要巻三［毛詩］－581）（・これ・あきらかなり・）（「思」字、左傍に「辞字也」三字あり）
○命易（返）へ不［哉］。（群書治要巻三［毛詩］－581）（・かふ・）
○高ク―々（高）シて上（返）に在（一）（り）と曰（二）（返）フ無（か）レ。（群書治要巻三［毛詩］－581）（・たかし・たかし・いふ・なし・）（本行にある「日」字に見せ消ちあり、右傍に「曰」字は補っており）
○厥の士を陟ケ―降ス。（群書治要巻三［毛詩］－582）（・こと・あぐ・くだす・）
○日に監ルこと茲に在リ（群書治要巻三［毛詩］－582）（・ひび・みる・あり・）
○群―臣・王政（返）に［之］即ク事（一）を謀（二）ルを見（三）（る）。（群書治要巻三［毛詩］－583・注）（・つく・はかる・）
○故に此（の）時（返）に因（り）て戒メ之曰（く）・敬メ［之］［哉］・敬メトイフ［之］［哉］。（群書治要巻三［毛詩］－583・注）（・よる・いましむ・いはく・つつしむ・つつしむ・と・いふ・）（「此」字、補充符により右傍に補っており）
○天乃（ち）光―明シて惡（返）去テて善（音）（返）に與す。（群書治要巻三［毛詩］－583・注）（・す・すつ・くみす・）
○其（の）吉―凶を命（音）スルこと・變―易セ不［也］（群書治要巻三［毛詩］－583・注）（・す・す・）（本行にある「可」字、見せ消ちあり）
○天を高シて又（た）高シ・上（返）に在（り）て人（返）に遠（一）カレリと謂（二）（ひ）而畏（返）チ不（上）ルこと无（下）（か）レ［也］（群書治要巻三［毛詩］－583・注）（・たかうす・たかし・とほざかる・り・をづ・ずし・）（「上」「而」二字、右傍に補っており）
○天・其（の）事を上―下ストイハ日月（返）を轉―運シて其（れ）行（返）（返）ク所（一）を施（二）シて日視―瞻ル・近ク・此（返）に在（上）（る）を謂（下）（ふ）［也］（群書治要巻三［毛詩］－584・注）（・す・といは・す・ゆく・ほどこす・ひび・みる・ちかし・ここに・）（「謂」字、補充符により補っており）

魯頌

○●閟（去）―宮は僖公［之］能ク周公［之］宇（音）（一）に復（二）レルことを頌（三）セリ［也］（群書治要巻三［毛詩］－586）（・よく・かへる・り・す・り・）（「閟」字、右傍に「筆位反」三字あり）
○王曰（く）叔―父・爾元―子（一）（返）を建（二）（ち）て［于］魯に侯タラ俾ム。（群書治要巻三［毛詩］－587）（・のたまはく・なむぢ・きみ・たり・しむ・）（本行にある「文」、「无」、見せ消ちあり、「父」、「元」、右傍に補っており）
○大に爾宇（一）（返）を啓（二）イて周―室（の）輔爲レ（群書治要巻三［毛詩］－587・注）（・おほきなり・なむぢ・ひらく・たり・）
○成王・周公に告クラリ・叔―父・我・汝の首―子（返）を立テて君［於］魯に爲ラ使ムトイハ・伯―禽を封センと欲スルを謂（ふ）［也］（群書治要巻三［毛詩］－588・注）（・つぐ・らる・たつ・たり・しむ・といは・す・む・ほす・）（「也」字、右傍に補っており）
○大に汝の居（音）（返）を開（き）て以て周―家輔（音）爲レ。（群書治要巻三［毛詩］－589・注）（・フ・たり・）（「開」字、左傍に補っており）
○封スルに方―七―百―里（一）を以（二）スルを謂（三）フ［也］（群書治要巻三［毛詩］－589・注）（・す・もてす・いふ・）（「里」字、右傍に補っており）
○乃（ち）・魯公（返）に命（音）シて［于］東に侯タラ俾ム。（群書治要巻三［毛詩］－590）（・す・たり・しむ・）
○［之］山―川・土―田・附―庸（一）を賜（二）フ（群書治要巻三［毛詩］－590）

（・たまふ・）
○既に周公に告（く）ルに・乃（ち）伯—禽（返）を策—命シて［於］東（訓）（一）に君（二）（返）爲（返）ラ使（む）。（群書治要巻三〔毛詩〕－591・注）（・つぐ・す・たり・）
○加（ひ）—賜フ［之］・山—川土—田及ヒ附—庸（一）（返）を以（二）（て）シて専（モハラ）ニ統（一）へ［イ、専—統セ］令（二）（む）［之］［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－591・注）（・たまふ・および・もてす・もはらに・すぶ・す・）（「統」字、左傍に補っており）

商頌

○●長—發は大（おほ）キに禘（去）す［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－593）（・おほきなり・）（「禘」の左に「大計反」あり）
○大に禘とは天を郊—祭スルソ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－593・注）（・す・ぞ・）（「邦」字、消しており）
○湯降ルこと遲（返）カラ不。（群書治要巻三〔毛詩〕－594）（・くだる・おそし・）
○聖—敬・日に躋（ノボ）ル。（群書治要巻三〔毛詩〕－594）（・ひび・のぼる・）
○昭（平）—假（上）スルこと・遲—々（遲）タリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－594）（・す・たり・）
○上帝是レ祗（ツヽシ）メリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－594）（・これ・つつしむ・り・）（「祗」字、右傍に補っており、本行にある字、見せ消ちあり）
○帝・命（音）シて［于］九圍を式（モチ）キル（群書治要巻三〔毛詩〕－595）（・す・もちゐる・）
○遲（返）（から）不（ス）トイハ・言は疾（ト）シ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－595・注）（・ず・といは・とし・）
○躋（セイ）（平）は叔（平）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－595・注）（・セイ・）（「叔」字、「升」字の誤記か）
○祗（シ）（平）は敬［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－596・注）（・シ・）
○湯（の）［之］士（返）に下（クタ）リ・賢（返）を尊フルこと甚（た）疾（ト）シ。（群書治要巻三〔毛詩〕－596・注）（・くだる・たふとぶ・とし・）
○其（の）聖—敬（の）［之］德・日に進（ヒヽス）ム。（群書治要巻三〔毛詩〕－596・注）（・ひび・すすむ・）
○然（しか）—而（レト）モ・能（く）其（の）聰—明（返）を以て天下（の）［之］人（一）を寛（二）—暇（カ）スルこと・遲—々（遲）—然タリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－596・注）（・しかれども・クワンカ・す・たり・）
○言は其（れ）［於］己を急（スミヤカ）ニシ而（テ）［於］人を緩（ユルウ）す［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－597・注）（・すみやかなり・す・ゆるうす・）
○天・是（返）を用キル。（群書治要巻三〔毛詩〕－597・注）（・もちゐる・）
○天・［於］是に・又（た）命シ之（テ）［於］天下に事を用（ゐ）ル使（む）。（群書治要巻三〔毛詩〕－597・注）（・す・もちゐる・）
○言は［イ、王／トス］王タリ［之］（群書治要巻三〔毛詩〕－597・注）（・と・す・たり・）
○競（ヲ）（返）ハ不・絿（スミヤカ）（返）ニセ不。（群書治要巻三〔毛詩〕－598）（・をふ・すみやかなり・す・）
○剛（コハ）（返）カラ不柔（ヤハラ）（返）カナラ不。（群書治要巻三〔毛詩〕－598）（・こはし・やはらぐ・なり・）
○政（返）を敷（シ）ク・優々（優）タリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－598）（・しく・たり・）（「政」字、補充符により補っており）
○百—禄是レ遒（アツマ）ル（群書治要巻三〔毛詩〕－598）（・これ・あつまる・）

○●殷―武は高―宗（を）祀ル［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－600）（・まつる・）
○天・降シ―監（カ、）ミルに命（音）シて下民に・嚴（ツヽシ）メル有（り）。（群書治要巻三〔毛詩〕－601）（・おろす・かがみる・す・つつしむ・り・）
○僭（セン）（去）（返）セ不・濫（ラン）（去）（返）セ不。（群書治要巻三〔毛詩〕－601）（・セン・す・ラン・す・）
○敢て怠（ヲコタ）リ―遑（イトマ）アラ不。（群書治要巻三〔毛詩〕－601）（・をこたる・いとま・あり・）
○［于］下―國（返）に命シて封（ヲホキ）に厥（の）福を建（タ）チシム（群書治要巻三〔毛詩〕－602）（・す・をほきなり・たつ・しむ・）（「遑」字、左傍に「皇本」二字あり）
○僭（返）（せ）不・濫（返）（せ）不トイハ・賞僭（返）（せ）不・刑濫（返）不（サ）ルソ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－602・注）（・といは・ず・ぞ・）
○天命シて乃（ち）下民に下シ―視ル嚴―顯（の）［之］君の能ク德（返）を明ニシ罰（返）（返）（を）慎（み）て敢て怠（り）―惰（をこ）（タ）（返）ラ不（ス）シて自（ら）［於］政―事に暇（イトマ）アル者（上）有（下）リ。（群書治要巻三〔毛詩〕－603・注）（・す・おろす・みる・よく・あきらかなり・す・をこたる・ず・す・いとま・あり・あり・）（「明」「德」二字、補充符により補っており）
○則（ち）［之］［於］小國（一）（返）に命（音）（二）シて以て天子と爲（す）。（群書治要巻三〔毛詩〕－603・注）（・す・）
○大に其（の）福を立（タ）テシムトイハ・湯（返）に命シて七十裏（一）（返）に由（ヨ）（二）（り）て天（返）―下王（上）タラ使（中）（む）を謂（下）（ふ）［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－604・注）（・たつ・しむ・といは・す・よる・たり・）（「由」、右傍に補っており）
○商―邑翼―々（翼）タリ。（群書治要巻三〔毛詩〕－604）（・たり・）
○四方（の）［之］極ナリ（群書治要巻三〔毛詩〕－605）（・なり・）
○商―邑（の）［之］禮―俗・翼々（翼）然とシて則（イト）リ―傚（ナラ）（一）フ可（二）シ。（群書治要巻三〔毛詩〕－605・注）（・す・のとる・ならふ・べし・）（「傚」字、補充符により補っており）
○乃（ち）四方（の）［之］中―正ナリ［也］（群書治要巻三〔毛詩〕－605・注）（・なり・）